

同 三十一年乃至三十五年 八六  
 同 三十六年乃至四十年 三九  
 同 四十一年乃至大正元年 一三  
 大正元年 五

右兩府縣ニ於ケル藍作ハ本邦一般藍作ト趨勢ヲ同フシ明治三十年前後ニ於テ最モ盛大ニシテ爾後漸次減退ノ兆ヲ現ハセリト雖モ其ノ減退ノ程度ニ至リテハ兩者ノ間自ラ徑庭アリ即チ最近十五年間ニ於テ藍作付反別並ニ收穫高ハ東京府ニアリテハ年次著シク減少シテ僅ニ一割以內トナレルモ德島縣ニアリテハ尙三、四割ニ止マレリ想フニ東京府ノ如キ所謂地藍ノ產地ニ於テハ其ノ葉藍ニ特色少キヲ以テ一旦藍作ノ不利ナルヲ觀ルヤ容易ニ之カ栽培ヲ縮少スルモ德島縣ノ如ク藍作本場トシテ知ラレタル所ニアリテハ從來藍品種ノ選擇栽培ノ方法ニ於テ他ニ卓越スルモノアリ當ニ葉藍ノ品質ニ優等ナル特點アルノミナラス其ノ一反歩宛收量モ亦多ク農家ノ收益尠カラサルヲ以テ自ラ他ノ競争ニ對抗スルノ餘力アリ之レ大勢上本邦產製藍ノ外國產乾藍ニ對抗シ能ハサル状態ナルニ拘ハラヌ獨リ德島縣藍作ノ現時尙ホ能ク孤壘ヲ死守シ得ル所以ナリ

抑モ本邦產製藍ハ其ノ染附容易ニシテ褪色シ難ク且ツ一般ニ纖維ヲ強靱ナラシムル等諸種ノ特性ヲ有スルヲ以テ假令人工乾藍ノ需要今後一層増加スルモ我カ製藍ハ之ニ依リテ全ク驅逐セラレコトナカルヘシ從テ藍ハ將來少クモ或程度ニ於テ尙ホ永ク特用作物トシテ栽培セラレ我カ農家ヲ利スルモノト認ムルコトヲ得ンサレハ當業者ハ常ニ藍品種ノ選擇耕耘ノ方法、肥料ノ配合、採取ノ季節等ニ注意シ且ツ乾燥及調製ニ關シテモ無用ノ勞費ヲ省ク等努メテ生産費ノ節約ヲ講シ銳意斯業ノ改良ヲ圖ルヲ必要トス

六 甘蔗

甘蔗ノ出品ハ臺灣二十三點、東京府一點、沖繩縣十二點ナリ東京府ノ出品ハ竹蔗ニシテ沖繩縣ノ出品ハ總テ讀谷山種ナリ又臺灣ノ出品ハ「ロース、パーブルー、エルロー、カレドニア、セリボン」等數種アリト雖モ

主トシテ「ロース、パーブルー」種ナリ出品中往々形狀不整ニシテ節間短キモノアリト雖モ概ネ生育良好ニシテ品質頗ル優等ナリ就中臺灣出品ニ於テ特ニ其ノ然ルヲ觀ル此ノ種ノ甘蔗ニシテ普ネク生産セラレルニ至ラハ糖業界ノ面目ヲ一新スヘキハ毫モ疑ヲ容レズ  
 今試ニ農商務統計並ニ臺灣總督府統計書ニ依リテ最近數年間内地、沖繩及臺灣ニ於ケル甘蔗生産ノ狀況ヲ表示スレハ次ノ如シ

年次	内地			沖繩			臺灣		
	作付反別	收穫高	一反當收量	作付反別	收穫高	一反當收量	作付反別	收穫高	一反當收量
明治四十年	一七、六九八	一、五九三	八、九三三	七、四一七	八、七三三	三、〇八一	一、三八三	四、五八〇	四、五五二
同 四十一年	一七、八三三	一、七〇一	八、九三三	九、〇九一	八、七三三	三、〇八一	一、三八三	四、五八〇	四、五五二
同 四十二年	二二、三六五	一、八八一	八、九三三	九、〇九一	八、七三三	三、〇八一	一、三八三	四、五八〇	四、五五二
同 四十三年	一〇、〇三三	二、九八七	一、〇九六	一〇、八五三	一、〇九六	一、〇九六	一、〇九六	一、〇九六	一、〇九六
同 四十四年	二二、二八〇	二、九八七	一、〇九六	一〇、八五三	一、〇九六	一、〇九六	一、〇九六	一、〇九六	一、〇九六
大正元年	一〇、九三三	二、九八七	一、〇九六	一〇、八五三	一、〇九六	一、〇九六	一、〇九六	一、〇九六	一、〇九六
六箇年平均	一九、七七一	一九、七七一	一九、七七一	一九、七七一	一九、七七一	一九、七七一	一九、七七一	一九、七七一	一九、七七一

備考 表中内地欄ニハ沖繩縣統計ヲ包含セリ又臺灣ニアリテハ前年七月ヨリ翌年六月ニ至ル一箇年ヲ一年次トセリ即チ甘蔗ノ栽培ハ近年著シク發達シ最近ニ於テ全國ヲ通シ其ノ作付反別約九萬五千町步收穫高七億二千萬貫ヲ示セルコトヲ知ルヘシ更ニ此等ノ關係ヲ一目瞭然タラシメンカ爲メ明治四十年作付反別及收穫高ヲ各百トナシ爾後每年次ノ作付反別及收穫高比率ヲ算出シテ表示スレハ次ノ如シ

年次	内地			沖繩			臺灣		
	作付反別比率	收穫高比率	一反當收量比率	作付反別比率	收穫高比率	一反當收量比率	作付反別比率	收穫高比率	一反當收量比率
明治四十年	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
同 四十一年	九八	九四	一〇七	一一六	一一六	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇
同 四十二年	一一一	一一八	一一三	一一三	一一三	一一三	一一三	一一三	一一三
同 四十三年	一一三	一一八	一一三	一一三	一一三	一一三	一一三	一一三	一一三

右成績ニ依レハ最近六年間ニ於テ甘蔗ノ作付反別ハ臺灣ニアリテハ殆ト二倍半又沖繩ニアリテハ三割餘ヲ増加シ其ノ收穫高ハ臺灣ニ於テ二倍餘ヲ又沖繩ニ於テ五割餘ヲ増加シ其ノ一反當收量ノ如キモ亦概シテ漸次増加ノ趨勢ナルコトヲ知ルヘシ尙ホ甘蔗ノ主要栽培地タル臺灣ニ就キ品種改良ノ狀況ヲ表示スレハ次ノ如シ

年次	作付反別		收穫高		一甲當收量
	在來種	改良種	在來種	改良種	
明治四十年	二二,三三九	八〇,六七五	三〇,三八一	四七,八五三	三,八二八
同四十年	二二,六八四	一七,〇二一	二八,七四六	四〇,〇五八	三,八二八
同四十一年	二二,三三九	一七,〇二一	二八,七四六	四〇,〇五八	三,八二八
同四十二年	二二,三三九	一七,〇二一	二八,七四六	四〇,〇五八	三,八二八
同四十三年	二二,三三九	一七,〇二一	二八,七四六	四〇,〇五八	三,八二八
同四十四年	二二,三三九	一七,〇二一	二八,七四六	四〇,〇五八	三,八二八
同四十五年	二二,三三九	一七,〇二一	二八,七四六	四〇,〇五八	三,八二八

要スルニ本邦ニ於ケル甘蔗ノ栽培ハ近年大ニ發展シテ著シク其ノ作付反別及收穫高ヲ増加セリ此ノ如キハ本邦糖業界ノ爲メ頗ル喜フヘキノ現象ナリト謂ハサル可ラス然レトモ翻テ其ノ一反當收量ヲ觀ンカ之ヲ瓜哇ニ比スル時ハ未タ遙カニ遜色アルヲ免レス前途尙ホ望洋ノ感ナクンハアラス從テ之カ增收ヲ圖ルハ本邦糖業發展上極メテ急務ナリトスサレハ將來益々風土ニ適應セル品種ノ改良健全ナル種苗ノ選擇耕耘ノ方法肥料ノ配合等ニ注意シ以テ少費多穫ニ努メサル可ラス

第三十七類 種 苗  
主任 安藤廣太郎  
報告員 寺尾博

府縣	出品人員	出品點數	名賞牌					計	出品人員ニ對スル擬賞歩合
			金牌	銀牌	銅牌	褒狀	計		
朝鮮總督府	一	一					一	一〇〇〇	
北海道廳	六	二七					二七	一〇〇〇	
東京府	三	一〇一八					一〇一八	二〇四八	
京都府	三	一六					一六	六〇六七	
新潟縣	三	九八					九八	四〇七二	
埼玉縣	三	三九					三九	四〇五五	
千葉縣	一	二一					二一	二〇三五	
茨城縣	二	二四					二四	二〇九三	
愛知縣	一	二二					二二	四〇七四	
靜岡縣	一	二〇					二〇	一〇六七	
岐阜縣	二	二二					二二	四〇五五	
長野縣	九	一〇〇					一〇〇	二〇五八	
福島縣	四	四六					四六	三〇七五	
富山縣	九	一〇五					一〇五	二〇七八	
合 計	七	一,五五九					一,五五九	二〇九七	

出品點數ノ約六割ハ種子ニシテ其ノ中水稻紫雲英及蔬菜鹹果類ノ種子ヲ主要ナルモノトス苗木類ハ主トシテ桑苗及果樹苗ニシテ各出品ノ約二割ヲ占ム左ニ是等ノ出品ニ對スル審査ノ概況ヲ述ヘ將來特ニ注意スヘキ事項ニ及ホサントス

一 種 子

種子ノ出品ハ熟度調製共ニ佳良ニシテ外觀上ノ缺點少キモノ比較的多シ然レトモ發芽試驗ノ成績ニヨレハ發芽力ノ強大ナラサルモノ亦少カラズ今肉眼鑑定上ノ良品トナシタル各種ノ種子ニ就キテ發芽試驗ノ結果ヲ示セハ次ノ如シ

種子ノ種類 供試點數

紫雲英	二六	九八	六四	八二
蘿蔔	三二	一〇〇	九六	九八
牛蒡	一六	一〇〇	八八	九五
胡蘿蔔	一五	九五	五二	八〇

種子ノ種類 供試點數

茄子	一四	九八	六三	八一
胡瓜	一四	一〇〇	九八	九九
越瓜	六	九九	七八	九一
葱	八	九七	五五	八二

之ニ由リテ見ルニ蘿蔔胡瓜等ノ種子ニアリテハ一般ニ發芽ノ歩合高シト雖モ其他ノモノニアリテハ出品ニ依リテ發芽力ノ優劣ニ著シキ差異アルヲ見ル是レハ作物ノ種類ニ依リテ良種子ノ生産ニ難易アルカ爲ナリト雖モ亦採種ノ方法如何ニ依リテハ種子ノ品質ヲ高メ得ヘキコトヲ明ニ示セリ且此ノ實驗ハ外觀上優秀ナル出品ニ就キテ行ヒタルモノニシテ尙ホ一般ノ出品中ニハ發芽力劣等ナルモノ少カラサルヲ知ルヘシ當業者宜シク此ノ點ニ留意シ肥料採種ノ方法ニ於テ尙一段ノ進歩ヲ致サンコトヲ希望セサルヲ得ス而シテ實際ノ方法ニ就キテハ作物ノ種類ニ從ヒ特殊ノ考慮ヲ要スヘキモ殊ニ前記ノ種子類ニ於テハ概シテ種實ノ十分完熟スルニ先チテ採種スルコト即チ所謂早刈ノ方法ニ依リテ發芽ノ勢力ヲ高ムルコトヲ得ヘシ

更ニ採種上最モ必要ナルハ各地固有良種ノ保存並ニ優良系統ノ選出ニシテ是農産増加上最モ重要ナルノミナラス斯業經營上ノ要訣タリ今回ノ出品中ニ於テモ此ニ關スル用意アルモノ若干ヲ認メタリト雖モ尙多數ハ普通在來ノ品種ニ過キサリキ今後此ノ點ニ於テモ大ニ意ヲ用キンコトヲ望ム而シテ此ノ如キ場合ニ於テ第一ニ注意スヘキハ作物ノ開花結實ノ際ニ其ノ該當作物カ自然ニ他花精即チ自然交配ヲ行フコト多キカ或ハ自花受精ヲ常トスルカヲ明ニスルニアリ紫雲英及各種ノ蔬菜菓果類等ニ於テハ昆蟲ノ媒介ニ依リテ自然ニ他種トノ交配ヲ行フコト多キカ故ニ其ノ採種ニ當リテハ特ニ隔離的栽培ヲ行フヲ要ス各地ノ蔬菜採種地ニ於テ其ノ特有品種以外ノモノノ採種ヲ行ハサルハ甚タ善良ナル習慣ニシテ殊ニ今回ノ出品ニ現ハレタル新潟縣下各地ノ蔬菜採種組合ノ如キハ固有品種ノ維持上最モ適當ナルモノト云フヘシ將來益々改良ノ効ヲ收メンコトヲ希望ス之ニ反シ米麥等ノ作物ハ自然交配ヲナスコト極メテ稀ナルカ故ニ特ニ隔離的栽培ヲ行フノ要ナク假令少數ノ自然雜種ヲ生シタル場合ト雖モ一本植ノ如キ方法ニ依リテ容易ニ之ヲ除去スルコトヲ得ヘシ且ツ一旦純粹系統トシテ育成シ得タルモノハ栽培ノ事情ニ依リテ品種ノ變性ヲ來スコトナク唯時トシテ其中ニ混入又ハ發生スル異型ノ除去ニ留意スレハ足ルカ故ニ品種特性ノ維持ハ比較的難事ニ非ス從テ此等ノ作物ニアリテハ優良系統ノ選出ニ專ラ力ヲ注クヘク若シ此點ニ於テ深ク考慮スル所ナクンハ其生産種子ハ普通栽培ノ種實ト多ク選フ所ナシ而シテ種子ハ充實調製共ニ完全ナルヲ要スト雖モ其外觀ノ美麗ナルヤ否ヤハ次代ノ生産力ニ何等ノ影響ヲ來ササルカ故ニ唯徒ニ種粒ノ鮮美ヲ貴フカ如キハ得ル所少シトイフヘシ

次ニ各府縣ノ出品ニ就キテ一言センニ北海道ノ出品ハ點數少キモ概シテ品質良好ナリ益々良種子ノ供給ニ努力センコトヲ望ム東京府ノ出品ハ種子總點數ノ約八割ヲ占メ其大部分ハ園藝作物種子ニシテ出品點數ノ多大ナルト共ニ粗惡ノ品少カラス當業者ノ反省ヲ望ム京都府ノ蔬菜種子ハ概シテ佳良ノ品多キモ調製不十分ナルモノアリ岐阜縣ハ紫雲英種子二十二點ヲ出品シ共ニ品質概シテ佳良ニシテ殊ニ近年菌核ノ混入ニ注意スルニ至レルト莖葉ノ收量多キ晚種ノ選出ニ意ヲ用フルニ至レルトハ最モ悅フヘク益々其實行ニ力メンコトヲ望ム唯發芽力ノ十分ナラサルモノアルハ遺憾ナリ富山縣ノ稻粳種ハ百五點ニシテ一體ニ良好ナルモ唯外觀美ニシテ充實完カラサルモノアリ殊ニ優良系統ノ選出ニ就キテハ今後大ニ意ヲ用キンコトヲ希望ス新潟縣ノ出品ハ凡テ縣立試驗場ノ規程ニ基キテ設立セラレタル各地蔬菜採種組合ノ出品ニシテ品質佳良ノモノ多ク其他ハ出品點數僅少ニシテ特記スルニ足ルモノナシ

二 桑 苗

桑苗ノ出品ニ於テハ從來屢々見タルカ如キ幹根ノ發育齊一ヲ缺キ莖條過大ニ失スルモノ少カリシハ

大ニ喜フヘキ現象ナリ唯桑苗賣買ノ常習トシテ幹長ヲ以テ評價ノ標準トスル風尙存スルカ爲メ往々莖條ノ長大ナルヲ選ハントスルノ傾向アルハ甚タ遺憾トスル所ナリ此ノ如キハ其外觀一見美ナルニ反シ木質軟弱ニ髓部太ク發根甚タ不良ナリ出品中甚タシキモノニアリテハ幹長八九尺、幹徑一寸ニ達シ而モ細根ノ發生極メテ貧弱ナルモノアリ其苗木養成ノ眞意那邊ニ存スルヤヲ知ルニ若シム是レ一ハ肥培及土壤ノ適否ニ由ルト雖モ亦採苗ノ方法ニ於テ缺クル所アルニ由ルモノニシテ今後大ニ改良ヲ要スヘキ點ナリトス尙ホ寄苗ノ寄生セルモノ少カラサリシハ又注意スヘキ點ナリ

各府縣ノ出品ニ就キテ一言スレハ埼玉縣愛知縣ノ出品ニハ優良ノ品多ク東京府ト長野縣トハ出品點數ノ多キ割合ニ優品少ク千葉縣靜岡縣ノ出品ニハ見ルヘキモノ甚タ少シ採苗法ニ關シテハ東京府ノ出品ニ於テ採苗簡單ナル曲取苗多キ爲メ發根不良ノモノ多ク千葉縣亦採苗ノ方法甚タ幼稚ナリ幹莖過大ノ苗ハ愛知縣靜岡縣ノ出品ニ比較的多ク幹根共ニ貧弱ナルモノハ長野縣ノ出品ニ多シ病菌ノ寄生ヲ受ケタルモノニ至リテハ埼玉縣長野縣福島縣等ノ各皆若干宛アリ尙千葉縣福島縣等ノ出品中苗ノ摘葉ヲナシタル跡歴然タルモノ存スルカ如キ何レモ注意ヲ要ス終リニ桑苗擬賞ノ結果ヲ各府縣別ニ表示セハ左ノ如シ

府縣	出品人員	出品點數	名譽大賞牌				計	出品人員ニ對スル擬賞割合
			金牌	銀牌	銅牌	褒狀		
東京府	四二	七三	一	二	二	九	二・八六	
埼玉縣	一七	一七	一	二	二	六	四・七〇	
千葉縣	一七	二一	一	二	二	九	四・七四	
愛知縣	一九	二一	一	二	二	七	一・二五	
靜岡縣	八	八	一	二	二	一	二・五八	
長野縣	九三	一〇〇	一	二	二	一	二・五八	
福島縣	四〇	四六	一	二	二	一	一・五	
計	二二六	二七二	三	二二	二二	五四	三・七五	
三 果樹苗							三・〇五	

從來ノ果樹苗ハ病菌害蟲ノ寄生セルモノ多カリシモ今回ノ出品ニハ病蟲ニ侵サレタルモノ甚タ少カリシハ是レ斯業ノ進境ヲ示シタルモノニシテ大ニ悦フヘキ現象ナリ將來益々此ノ點ニ關スル配慮ヲ怠ラサルコトヲ望ム又果樹苗ノ育成ニ關シテ最モ注意スヘキ事項ハ苗カ多數ノ細根ヲ有シ莖幹短大ニシテ條芽ノ充實完全ナルコト之ナリ此ノ如キ苗ハ移植後其ノ生着ヲ安全ニシ果樹ノ發育並ニ結實ヲ速カナラシムルニ利アリ之ニ反シ少數ノ太キ根ヲ有シテ細根ノ分岐スルコト少ク幹枝徒長セルモノアリテハ生育發育共ニ不良ナルノミナラス屢々整枝上ニ於テモ亦大ニ不便ヲ感スルコト多シ而シテ上記ノ要件ヲ具備スル苗木ヲ育成セント欲セハ特ニ次ノ諸點ニ注意スルヲ要ス

一、苗圃ハ排水日射適良ノ場所ヲ選定スヘシ濕地ニ於テハ發根狀態不良ニ陥リ易ク且ツ枝條ノ發育旺盛ニ過キ易キヲ常トス又日射不十分ナルトキハ條芽ハ唯伸長スルノミニテ強健ナル發育ヲ遂ケ難シ

二、苗圃ニ於ケル苗ノ株間距離ヲ適宜廣クスルヲ要ス密植ノ苗ハ下部ノ日射不足ト營養ノ不足ノタメ甚タ劣等ナリ

三、肥料ハ其配合ニ注意シ苗ヲシテ過肥徒長ニ至ラシメサルヲ限リトス

四、砧木ノ種類性質ニ注意スヘシ實生砧ヲ使用スルトキハ屢々發根狀態不適當ナルコトアリ此ノ如キ場合ニ於テハ實生發生後一回移植ヲ行ヒタル後之ニ嫁接スルヲ可トス又砧木ノ樹種ニ依リテハ苗木ノ性質ニ著シキ差異ヲ生シ延イテ果實ノ生産ニ大ナル影響ヲ來スコトアリ例ヘハ洋梨ニ於テハ根砧ニ嫁接シタルモノ概シテ結實早ク果實ノ形大ニ香味可ナルカ如キ或ハ葡萄ニ於テハ砧木ノ種類ニヨリテ害蟲ノ侵入ヲ免カルルカ如シ故ニ各種ノ果樹ニ於テハ夫

尙砧木ト果實生産トノ關係ニツキテハ實際上多クノ實驗ヲ試ムヘキ點少カラス歐米ニ於テハ苗木育成者ニシテ此ノ點ニ就キ大ニ研究シツツアルモノ多シ我當業者ニ於テモ亦將來此ノ方面ニ於ケル考

慮ヲ深クセンコトヲ希望ス又今回出陳ノ果樹苗ハ最モ普通ナル品種多キヲ占メ優良ナル新種甚タ少カリシハ頗ル遺憾トスル所ニシテ今後品種ノ選擇ニハ一層意ヲ用キント望ム尙ホ販賣苗木ノ品種名稱ニ就キテハ從來其不正確ナルニ苦メラレタルモノ少カラス今回ノ出品中ニモ亦名實相伴ハサルモノヲ發見セリ此點ニ關シテハ特ニ當業者ノ猛省ヲ要望ス今果樹苗ノ出品人員、點數及擬賞歩合ヲ各府縣別ニ表示セハ左ノ如シ

果樹苗各府縣出品人員、出品點數及擬賞等級表

府縣名	出品人員	出品點數	名譽大賞牌	金牌	銀牌	銅牌	褒狀	合計	出品人員ニ對スル擬賞歩合
東京府	二二三	一九〇						三三	二一・六一
千葉縣	八	一一						三	三・七五
茨城縣	一六	二二						三	四・三八
靜岡縣	一	一〇						一	一〇・〇〇
岐阜縣	八	一〇						二	二・五〇
新瀉縣	二七	八七						八	二・九六
備前	八四	三三二						二四	三・三三
合計								二八	

備考 本表東京府出品中ニハ櫻苗ヲ合併計上セリ

次ニ各府縣ノ出品果樹苗ニ就キテ概評セハ東京府ノ出品ニ優良品多カリシハ近年苗養成法ノ改良セラレタル結果ニシテ益々其進歩ヲ望ム千葉縣ノ出品中ニハ梨棚造用苗アリ此ノ如ク多少整枝セラレタル苗ハ定植後早ク結果年齢ニ達スヘク果實生産上便益少カラサルヲ以テ將來苗木業者ハ此ノ種ノ苗木ノ供給ニ注意スルノ要アルヘシ埼玉縣ハ東京以北ニ於ケル苗木ノ一大集散地トシテ著明ナルモ其ノ出品點數ハ多カラス且出品中莖幹徒長シテ根ノ發育完タカラサルモノアリ是苗圃ノ選擇宜シカラサルカ又ハ育成ノ方法ニ於テ缺ル所アルカ爲メニシテ今後十分改良ノ途ヲ講セサルヘカラス茨城縣ノ出品ハ栗苗一點ナルモ生育佳良ノ品タルヲ失ハス靜岡縣ノ出品苗ハ生育不十分ナリ宜シク肥培

手入ニ注意シテ苗ノ外觀ヲ完美ナラシムヘシ岐阜縣ノ出品柿一點ハ強健ナル發育ヲ遂ケタルモノナリト雖モ亦手入十分ナラス新瀉縣ノ出品ニ於テハ稍見ルヘキモノアリシモ概シテ其發育不良ニシテ營養不足ノ觀アリ將來一層培養ニ留意センコトヲ希望ス

第三十八類 裝飾植物 主任 恩田 鐵彌

本類所屬ノ出品ハ第一苑圍及庭園用樹木、行道樹類、第二花卉及球根植物類、第三盆栽類、第四温室植物等ニシテ其出品點數二千七百二十九點、出品人員五百五十七人、内東京府二千三百七十三點、京都、神奈川、兵庫、新潟、埼玉、千葉、栃木、廣島、福岡、沖繩、一府九縣ニテ三百二十六點ナリ而シテ其出品ノ大部分ハ花卉ニシテ盆栽並ニ温室植物是レニ亞キ庭園用樹木ハ最少數ナリトス今出品ニ就キ府縣別並ニ擬賞等級ヲ表示スレハ左ノ如シ

府縣	出品人員	出品點數	金牌	銀牌	銅牌	褒狀	合計	出品人員ニ對スル擬賞歩合
東京府	四四三	二、三七三	三	二二	四二	一一一	一八八	二一〇・〇〇
京都府	一	四					二	二〇〇・〇〇
神奈川縣	六	六					二	三三・三
兵庫縣	二二	二七					二	五〇・〇
新潟縣	三三	八一					六	三六・四
埼玉縣	三三	八二					二	二八・一
千葉縣	一一	七八					三	二二・八
栃木縣	一一	一一					一	一〇〇・〇
廣島縣	一一	一一					一	一〇〇・〇
福岡縣	一一	一一					一	一〇〇・〇
沖繩縣	一一	一一					一	一〇〇・〇
計	五五七	二、七二九	六	三一	五五	一三七	二二九	四七・一

第一 苑圍及庭園用樹木

庭園用樹木ハ新潟縣保内園藝組合ヨリ高野嶺外數種並ニ東京府ヨリ赤松、木柵、冬青樹、キヤラ、ヤツデ、チヤボヒバ、ツツジ等ニシテ僅カニ十數點ノ出品ニ止マレリ而シテ新潟縣ノ出品ニ係ル庭樹ハ畢竟苗木ノ稍大ナルモノニ過キサリシモ其ノ培養宜シキヲ得根部ノ發育佳良ニシテ遠隔地ノ輸送ニ適セリ依テ銀牌ヲ擬賞シタレトモ東京府下ノ出品ハ優品少ナク僅ニ木柵一點並ニ赤松二點ニ衰狀ヲ擬セシニ過キス抑モ本邦ニ於ケル庭園樹木ノ手藝並ニ其ノ種類ニ富メルコトハ遙ニ歐米ヲ凌駕シ海外輸出ノ額亦尠ナカラサルニ拘ハラヌ逐年反ツテ優良品ノ缺乏セル狀ナキニアラス誠ニ遺憾ナリト云フヘシ由來庭園樹木ト稱スルモノハ特種ノモノ少數ニシテ却ツテ一般森林樹木ヲ移植護養シ之レニ整枝ヲ施シ若クハ接木實生等ニヨリ任意ノ姿態ニ育成シタル樹木ノ謂ニ外ナラス是等ハ所謂地堀師ト稱セル「ナースリーメン」ノ業ニ屬シ都會附近ニ於テ經營セルヲ常トス從來東京近郊ニテハ向島、巢鴨、田中、大久保、目黒、大崎等其本場ニ屬シタルモ近年市内交通機關ノ發達ニ伴ヒ郊外生活ヲ喜フノ氣風ヨリ是等庭樹養成地ハ殆ント住宅ト化シ去リ漸次市ヲ去ル遠隔ノ園外ニ移リ從ツテ專業者ノ手ヲ離レ寧ろ稍、植木ノ心得アル農家ノ副業ニ屬セリ之レ優品缺乏ノ主因タリ而シテ此等當業者ハ未タ優良ナル庭樹ヲ造出スルノ域ニ達セサルト名利ノ念ニ乏シキト搬入上相當ノ勞費ヲ要シ且ツ枯損ノ虞アルトニヨリ出品ヲ控ヘタルモノノ如シ是レ出品點數ノ少ナキ主因タルナカラシカ或ハ相當ノ地積ヲ供給シ能ハサリシニモヨルヘケレキモ由來庭樹ノ養成ハ本邦ノ一特技ニ屬シ相當輸出品ノ一タレハ斯業者タルモノノ大ニ注意スヘキ一事項ニシテ兼テ本會ノ如キ機會ヲ利用シ獎勵ニ資スヘキ方法ヲ以テ其出品ヲ勸誘スルハ一ノ責務タルナカラシ歟

第二 花卉及球根

花卉類ハ館内ト館外ノ二箇所ニ出品シ其期日ヲ四期ニ分チ毎開期前二日間ニ搬入セシメタリ即チ第一期ハ四月一日ヨリ同月十五日ニ至ル第二期ハ五月一日ヨリ同月十五日マテ第三期ハ六月一日ヨリ同月十五日ニ至ル第四期ハ七月一日ヨリ同月十五日ニ至ル各期共出品期間各十五日間ニシ

テ切花乃至盆植花卉ノ類ハ何レモ相當期間ニ出品シタレトモ球根若シクハ宿根類ニシテ館外床地ニ栽植ヲ要セシモノハ第一期前ニ出品定植シタレハ隨時各其開花時ニ於テ審査ヲ行ヒ館内出品ニ關シテハ每期ノ始メニ於テ審査セリ

館内出品ハ切花、盆植花卉及ヒ盛花ノ三種ニシテ切花ノ出品最多數ヲ示セリ而シテ第一期第二期ハ早咲モノ第三期第四期ハ天然咲ノモノナリシモ概シテ各期ヲ通シ其ノ品種大同小異ニシテ第四期ヲ除キ格段ナル特徴ナカリシモ明治四十年ノ東京勸業博覽會ニ比較スルニ洋種花卉ハ著シク其ノ數ヲ増加シ每期其ノ過半ハ洋種ニ屬シタリ就中花壇並ニ盛花ノ出品ハ今回ヲ以テ嚆矢トセルニ係ラス日暮花壇並ニ吉野信郎ヨリ毎回出品シ花卉ノ撰用、挿花術共ニ大ニ見ルヘキモノアリタレハ日暮花壇ニハ金牌吉野信郎ニ銀牌ヲ擬賞セリ尙各期ヲ通シ妙華園河瀬春太郎ヨリ出品セシ「ジャサント」アマリリス、ニンフイヤ、カラヂユーム等ハ相當良種ノ類聚ニシテ培養又佳良ナリシヲ以テ銀牌ヲ擬賞セリ又第四期ニ於ケル國民新聞ノ主催ニ係ル「ダリヤ」ノ出品ハ會員四十二人、一人五種計二百十點ニシテ種類撰擇出品ノ制限能ク一致シ開期中ニ於ケル一大異彩ヲ呈シタルモノト云フヘク而シテ其ノ品種ノ過半ハ「カクタスダリヤ」ニシテ種類培養共ニ優秀ト認メタルモノト云フヘク而シテ其ノ品種ノ過半ハ見ルヘキモノアリ然レトモ凡テ歐米ノ輸入品種ニシテ自家實生種ノ如キハ絶無ナリトス本博覽會ニアリテハ品評會ノ類ト其ノ目的ヲ異ニスルモノナレハ單ニ其ノ出品ニ就キ比較品評スヘキニ非ラサレハ濫リニ優賞ヲ擬スヘキニアラサルヤ勿論タルヲ以テ銀牌以下ニ止メタリ蓋シ「ダリヤ」ハ近年ノ流行花ニシテ其ノ栽培ノ容易ナルコト到底菊花栽培ノ困難ナルニ比スヘクモアラヌ要ハ其ノ種類ノ良否ニ基ケルニ外ナラス故ニ何等園藝ノ技ニ通セサルモノト雖良種ヲ得多少ノ注意ヲ加フルニ於テハ容易ニ美花ヲ開カシムルヲ得ヘク是レ其流行ノ一因タランモ斯ル普及性ノ品種ハ又忽ニシテ愛顧ヲ失スルニ至ルモノナリ想フニ人工媒助ヲ施シ優良ノ新花ヲ作出スルニ非ラサレハ永ク其流行ヲ期シ難カラシ又館外ニ於ケル花卉出品中ニテ場内ニ一大光彩ヲ添ヘタルハ福岡縣久留米赤司喜次郎ノ出品

ニ係ル久留米「ツツジ」ニシテ其ノ點數百二盆ヲ出品シ特設ノ日除棚ニ配列シタリ第五回内國勸業博覽會ニ於テ同縣ヨリ出品シタル品種ニ比スレハ著シク種類ノ増加セルノミナラス其ノ繁殖培養ニ勉メ輸出年額三十萬圓ニ達スト云フ依テ金牌ヲ擬賞セリ但シ其ノ固有ノ整枝法ナル傘仕立ハ餘リ整正ニ過キ一見造花ニ類シ雅趣ヲ缺ケルノ感ナキニ非ラサレハ稍異ナル形狀ニ育成スルノ考案ナカルヘカラス歐米ニ於ケル「アザレヤ」ノ整枝ハ久留米「ツツジ」ト偶然同一ナレトモ餘リ端正ニ過クルヨリ整枝ヲ行ハス自然ノ枝容乃至異形整枝ノモノ流行シタルコトアリ外國種ノ花葉ノ豐大ナルコト到底久留米「ツツジ」ノ比ニアラス其ノ滿開ノ狀却テ其ノ形狀ニ合適セルニ係ハラス尙斯ク其ノ仕立方ニ新意匠ノ行ハルルヲ見レハ大ニ鑑ミサルヘカラス

床地栽植ノ出品花卉ハ牡丹芍藥薔薇花菖蒲等其ノ主ナルモノナリシモ何レモ完全ノ開花ヲ見ルニ至ラサリシヲ遺憾トス蓋シ出品地域狹小ニ過キ或ハ不適當ノ土地モアリ若クハ栽植時期ヲ失セルアリ乃至栽植及護養ヲ怠リタル等種々ノ關係ニ原因セルモノナルヘケレトモ畢竟出品者ノ注意ヲ缺ケルニ基因セルモノトス故ニ出品物ニ付テハ其結果十分ナラザリシモ牡丹花菖蒲ノ如キハ輸出園藝植物中ノ重要品タルヘキヲ以テ栽培ノ實況ヲ調査シ兵庫縣坂上德右衛門ノ牡丹並ニ東京府下吉木權藏吉野喜保ノ花菖蒲ニ各金牌ヲ其ノ他ハ銀牌以下ヲ擬賞シタリ抑東京府下堀切ノ菖蒲ハ其ノ株根ヲ内外ニ輸出販賣セルノミナラス縱覽園ノ設ケアリテ東都名勝ノ一タルコトハ贅言ヲ要セサル所ナリ而シテ現今園池ヲ設備セルハ堀切ニテハ武藏園小高園觀花園及堀切園ノ四箇所隣村ナル本村ニテハ吉野園四ツ木園ノ二箇所アリテ各所共ニ六月十一日實地ニ就キ栽培ノ實況ヲ觀察シ營業ノ成績ヲ聽取セシカ就中武藏園ハ種類ノ撰別能ク整頓シ二百五十餘種ヲ有シ且實生新種ノ造出ニ勉メ優良ノ新種ヲ有スルコト堀切ニテハ第一位タリ又本村吉野園ハ園地モ廣ク其ノ面積一萬坪ニシテ三千坪ハ菖蒲ヲ專植シ多數ノ種類ヲ有シ年々實生ヲ行ヒ約四百坪ハ實生專用地ニ供シ五年以來命名セル優秀花三十種ニ達シ尙幾多ノ無名良種ヲ有セリ其他園外ニ於テ専ラ輸出株ヲ培養セルコト約二千坪ナリト云ヘ

リ而シテ日英博覽會ニ出品シタル以來直接海外ニ輸出シ年々其需用増加シ昨大正二年度ニ於テ輸出セル額約十萬株ニ達セルヲ言明セリ同園ハ明治二十年ノ創立ニ係リ百年ノ歴史ヲ有セル堀切ノ小高園武藏園ニ對比スレハ新園ニ屬セルヲ以テ園名未タ普及スルニ至ラスト雖トモ園池ノ設備培養實生新種ノ造出共ニ發達進歩ノ著シキモノアリ故ニ小高園武藏園ノ如キ一段ノ奮勵努力ヲナスニアラサレハ堀切ノ名勝ハ遂ニ本村(俗稱四ツ木)ニ移リ四ツ木ノ菖蒲ト稱スルニ至ルナキヲ保スヘカラス然レトモ事業ノ進歩發達ハ競争ノ刺戟ニ基クモノナレハ海外輸出ノ好望品タル本品ノ如キ其結果自然新良種ノ造出ニ勉ムルニ至ルヘク從ツテ年次益々其需用ヲ増加シ海外ニ於ケル名聲ヲ博スルノ好果ヲ來スモノアラン但シ實況審査ニ際シ種類ノ混在セルモノ到ル處之ヲ認メタリ種名ノ正否ハ營業上至大ノ關係ヲ有セル事項タレハ栽培者タルモノ十分ノ注意ヲ加ヘサルヘカラス或ハ花期ニ於テ巡視督勵ノ方法ヲ講スルカ如キモ亦以テ地方名品ノ聲價保護ノ一策タルヘシ

球根植物中「チユリツブ」「ハイシンス」「グラジオラス」等ノ洋種花卉ノ出品アリタレトモ凡テ鉢植若クハ床地ニ栽植セルヲ以テ何レモ開花期ニ於テ花卉トシテ審査シタル球根類ノ出品ハ百合ノ一種ニ過キサリキ而シテ其ノ種類ハ鐵砲鹿ノ子ノ二種ニシテ東京府神奈川ノ數點ヲ除ク外ハ總テ埼玉縣ノ出品ニ係リ計三十點ニシテ埼玉縣富國百合根購買組合ハ専ラ海外輸出ニ從事シ巨額ノ取扱ヲナシ出品又良好ナルヲ以テ金牌ヲ擬シ其他ハ銀牌以下ヲ擬賞セリ

要スルニ裝飾植物中花卉ノ出品ハ點數ノ増加品種ノ改良共ニ其進歩發達ノ程度從來博覽會ノ比ニアラスト雖出品中粗雜甚シキモノ尠ナカラサリシハ奇異ノ現象ナリトス由來博覽會出品用トシテ特ニ精選加工シ同種ノ物品ヲ供給シ得サルニ係ハラス徒ラニ虛名ヲ博センコトニ勉メタルノ傾向アリシモ近來大ニ摯實ヲ貴フニ至リシハ洵ニ喜フヘキノコトナリト雖トモ其ノ反對ニ何等ノ注意ヲモ加フルコトナク粗雜ヲ極ムル出品ヲナスカ如キハ當ニ出品者ノ名譽利益ヲ毀損スルコトニ止マラス會場ノ美觀ヲ損シ觀覽者ノ不快ヲ招クモノニシテ大ニ慎マサルヘカラサルノ事タルヘシ花卉出品中ニ於

テ此種ノ感ヲ免レサル出品ノ渺ナカラサリシハ其意ヲ解スルニ苦シム所ナリ畢竟單ニ出品ノ名目ヲ  
目的トセルニ過キサルモノト認ムルノ外ナシ其結果今後ハ出品規程ヲ嚴ニシ夫ノ美術品ノ如ク出品  
ニ關シ豫メ鑑査ノ方法ヲ設クルノ要アルニ至ルヤモ知ルヘカラストス

第三 盆栽類

盆栽類ニテハ普通盆栽ノ外盆石、盆景、箱庭ノ類ヲモ含有セリ而シテ普通盆栽ハ館外ニ三箇ノ日除棚ヲ  
建設シ陳列セシメタリ京都府、千葉縣ノ數點ヲ除クノ外ハ總テ東京府出品ニシテ總點數百八十餘點ナ  
リシモ優秀品ハ極メテ少數ニ過キサリキ即チ齊田金作五葉松、眞柏石付ハ出品中ノ白眉ニシテ松柏寄  
植武者立五葉松、槭及落葉松四點共ニ佳品タリ依テ銀牌並ニ銅牌ヲ擬賞セリ但シ其價格ノ五百圓乃至  
千圓ト稱スルニ至テハ眞摯ヲ缺クノ嫌アルヲ免レサルヘシ又牡丹園成家文藏ノ栢榴盆栽ハ大小數十  
點ノ外第四期ニ於テ花卉盆栽數點ヲ館内ニ出品セルアリ府下有數ノ栢榴盆栽培養者トシテ其技大ニ  
見ルヘキモノアルヲ以テ全體ニ對シ銀牌ヲ擬賞セリ其他盆栽ト稱スルニ足ルヘキモノ若クハ未成品  
ナルモ數年ノ後ハ優品タルニ至ルヘキ見込アルモノ等ニ對シ銅牌ヲ擬シタルモノ七點、褒狀ヲ擬シタ  
ルモノ十七點ナリトス盆栽ハ本邦園藝上ノ一特技ニ屬シ上下ヲ通シ普ク愛賞セラレ海外ノ需用モ尠  
ナカラスト雖トモ根張、幹姿、枝振等完備セルニ非ラサレハ逸品ト稱スルヲ得ス從ツテ盆中ニ培養セル  
年代ノ關係アレハ多クハ數奇者ノ有ニ歸シ漸次坊間ニ優秀品ヲ減セルノ感アリ故ニ其發達獎勵上徒  
ラニ年代ニ重キヲ惜カス專ラ配植、整姿、應用等ニ於ケル意匠技藝ノ巧拙如何ニ基キ其ノ完備ニ近キモ  
ノハ年代ノ點ニ於テ缺クル所アルモ入賞品ニ加ヘタリ是等ハ未成品ニ屬スヘキモノナルモ固定セル  
モノニシテ見ルニ足ラサルモノニ比スレハ有望品ト稱スヘク畢竟出品ニ係レル盆栽其モノヨリモ寧  
ロ培養者ノ意匠ト技倆ト著想ノ良點ヲ獎勵セルノ意ニ外ナラサレハ盆栽師タルモノ徒ラニ有數逸品  
ノ轉賣ニ醒醒スルニ止マラス又空シク年代ノミニ委スルコトナク須ラク意匠技術ノ應用ニ基キ優秀  
盆栽ノ速成ニ勉メ以テ斯業上ノ寂寥ヲ挽回スルニ勉メサルヘカラストス



栽盆柏眞及松葉五品出作金田齋府京東



同人出品楓樹盆栽



水山景盆品出三順山外市京東



盆景ノ出品ハ二種類アリテ一ハ盆栽用矮性樹木ト岩石ヲ使用シ家屋橋梁舟車等ノ手工物體ヲ配シテ各種ノ勝景ヲ作製セルモノ他ノ一ハ概ネ黑色石ト白砂ヲ以テ漆器盆上ニ作出セル景色ニシテ前者ハ盆栽ニ類シ後者ハ盆畫ニ類セルモノナリ而シテ後者ハ從來ノ博覽會ニ於テ毎回十數點ノ出品アリシモ前者ハ僅カニ一二點ニ過キス而シテ寧ロ箱庭ニ屬セルモノナリシモ今回ノ出品ハ小形ノ水盤ヲ使用シ湖畔、野社、松島、水車、河湖ノ興津富士、飛泉、山間、茅屋、田舎路、松林、和歌ノ浦等ノ名稱ヲ附セル縮景若クハ理想景ニシテ其出品數十七點、出品人員九名ナリ内山上久子ノ「庭」ヲ除クノ外眞草ニ様ノ景致トシテ各人二點ヲ出品セリ其意匠結構ヨリ考フルニ同一流派ニ屬セルモノノ如ク而シテ此種盆景ハ樓閣山水乃至田野素朴ノ景致等寫生若クハ理想ニ基キ比較的簡易ナル材料ヲ以テ任意作出シ得ヘク畢竟材料ヨリモ意匠ニ基クモノナレハ年代ヲ主要條件トセル盆栽ニ比シ其作出容易ナルヲ以テ大ニ獎勵スヘキモノノ一タルヘシ本出品中外山順三作樓閣山水及山間茅屋ノ二點ハ最佳作ニ付銀牌ヲ湖畔、松林水車及山水ノ四點ニハ各褒狀ヲ擬賞セリ盆畫ニ屬セル細川流盆景ハ九點ニシテ春夏秋冬四期ノ理想景其他ハ寫生景ニシテ師範若林松洲ノ稻子富士ハ其ノ技精妙ニ近ク他ハ皆同人門生ノ作物ニシテ多少優劣ノ存セルモノアレトモ同人ノ代表出品ナリシヲ以テ全體ニ對シ銀牌ヲ擬賞セリ要スルニ二者共ニ本邦ノ一特技タレハ將來一層ノ工風ヲ凝シ益、其改良發達ヲ期セサルヘカラス

#### 第四 温室植物

温室植物ノ出品ハ後藤仙太郎ノ仙人掌類聚二十六種、小俣常次郎同九十三種ハ其種類培養共ニ大ニ見ルヘキモノアリタルニ止マリ花卉、羊齒、椰子其他觀葉植物ノ類相應ノ出品點數ニ達シタレトモ明治四十年ノ東京勸業博覽會ノ出品ニ比スレハ大ニ遜色アルヲ免レス蓋シ輓近洋種花卉熱帶產植物ノ栽培著シク發達シ温室ヲ建造スル嗜好家營業者ノ數増加セルニ係ハラス反比例ノ現象ヲ示セルハ一見甚タ奇異ノ感ナキニ非ラスト雖トモ必スシモ温室植物ノ栽培ノ退步セルニアラス其ノ發達ノ度ハ到底前年ノ比ニアラサレトモ畢竟前回ニ在テハ專ラ酒井伯、大隈伯等二三有名ナル温室植物栽培家ニ懇請

シ陳列シタルニ過キスシテ單ニ温室ナルモノヲ觀覽セシメタルニ止マリ營業者ノ出品ヲ見ルニ至ラサリシモ今回ハ專ラ營業者ノ出品ニ止メタルニ外ナラサルノ結果ナレハ亦以テ一進歩タルヘシ然レトモ前回ト比較對照ノ結果ヨリ推論スルトキハ斯業者タルモノ一層種類ノ撰擇並ニ培養ニ努力スルニ非ラサレハ博ク需用ニ應スルニ足ラサルヘシ

第三十九類 園藝建造物 主任 恩田 鐵彌

本類ハ植物室、花壇及庭園ノ三種ニシテ其出品點數ハ植物室即チ簡易温室二棟、花壇十一點ニ過キス總テ東京府下ノ出品ニシテ簡易温室ハ西ヶ原農園並ニ飯田德三郎ノ出品ニ係リ九尺ニ二間ノ小温室ニシテ木造硝子張腰廻リハ羽目板造ナリ構造幼稚ニシテ通氣防寒、配列棚等不完全ヲ免レスト雖モ輕便ヲ主トシ其ノ儘他ニ移轉シ得ヘク簡單ナル花卉觀賞植物ノ護養栽培ニ足リ時代ノ要求ニ適セル出品タルヘケレハ二者共ニ褒狀ヲ擬賞セリ本類出品ニハ四阿舍、庭門、袖垣ノ類ハ從來ノ博覽會ニハ多少ノ出品ヲ見サルコトナキニ今回ハ此ノ種ノ出品絶無ニシテ却テ輕便温室ノ出品二點ヲ算シタルハ逐年洋風ノ流潮ニ伴ヘルノ結果ニ外ナラサルヘキモ本邦固有ノ物件ヲ閉却スルナカラシムコトヲ希望ス花壇ノ出品ハ第二會場外國館前面ニ妙華園河瀬春太郎、勸力館前面ハ萬花園吉田信郎、機械館右側日暮花壇北村重三、同上右側豐多摩植物園染色館、西側園藝商會篠房輔、同上前面南隅耗花園小俣垣太郎、同上中央入口左側吉野園吉野喜保、同上右側二葉園山田俊雄、同右隅清華園小澤慎平、農業館前面日本種苗株式會社池田次郎吉ノ十一點ニシテ每點二壇乃至三壇アリ内妙華園ノ出品ニ係レル外國館前ノ花壇ハ栽植花木ノ選擇配合宜シキヲ得其意匠又能ク館ノ構造ニ合致シタルハ金牌ヲ擬賞セリ蓋シ栽植主材ハ躑躅ヲ供用シ球根花卉乃至草花ヲ以テ色彩ヲ點加セルハ最モ其當ヲ得タルノ設計ナリトス但シ「ツジ」ハ其ノ開花ノ時期短時日ニシテ花期ノ前後ハ美麗ヲ缺クカ如シト雖トモ其ノ位置タルヤ觀賞葉灌木類叢植ニ適セル位置ナルヲ以テ却テ花卉專裁ニ勝レリトス次ニ日本種苗株式會社、日暮花壇及日

本農園ノ出品ハ銀牌其ノ他ハ銅牌若クハ褒狀ヲ擬賞シタリ花壇ノ出品ハ從來見サル處ニシテ今回ヲテ嚆矢トス蓋シ會場一般設計上影響スルコト尠少ナラサレハ主要地域ヲ以テ其ノ出品ニ委シ難キヤ勿論ナレハ其ノ意匠ノ巧拙當時ニ於ケル保護、補植、換植ノ精粗等場内ノ美觀維持上至大ナル關係ノ存セサル位置ニ限定スルノ要アルヘキモノトス

第四十類 蠶種 主任、農學博士 石渡 繁胤 報告員 土屋 泰胤

第一 出品人員並ニ出品點數

本會出品蠶種ノ總數ハ一千六百十三點ニシテ出品人員一千四百二十九人其地域ハ東京府外一府二十縣ニ亘レリ其詳細ハ左表ノ如シ

府 縣 名	出品人員	春種蠶	秋種蠶	計
東京府	一七八	一一三	一〇二	二一五
京都府	三九	二二	二四	四七
神奈川縣	二一	一一	七	二八
新潟縣	一四	一〇	四	一四
埼玉縣	一九〇	一三七	六三	二〇〇
群馬縣	九五	六四	四〇	一〇四
千葉縣	二六	二二	八	三〇
茨城縣	五一	四五	九	五四
愛知縣	三〇	一六	一四	三〇
靜岡縣	五八	四四	一四	五八
山梨縣	九三	八二	三二	一一四
岐阜縣	四三	二二	二六	四八
長野縣	三二四	二一五	一四〇	三五五
宮城縣	一六	一四	二	一六

福島縣	山形縣	秋田縣	富山縣	岡山縣	廣島縣	德島縣	宮崎縣	計
一二五	七一	六	二二	一一	四	六	六	一、四二九
七五	三五	一七	一〇	五	五	四	九八二	
七三	五一	三	二	一	一	二	六三一	
二九八	一四八	八六	三〇	六	六	六	一、六一三	

第三種名及製造法

蠶種ノ名稱ハ近年漸ク統一ニ近ツキタルモノノ如ク春蠶種ニ在リテハ殊ニ其然ルヲ見ル即チ本會ノ出品ハ又昔ニ屬スルモノ五三%ヲ占メ之レニ次クヲ白玉ノ一六%トス秋蠶ニ在リテハ青熟ノ二五%日本錦ノ一三%ヲ最多ナルモノトス

又一般ニ特別製蠶種ノ生産額カ逐年増加シ來レルハ吾養蠶業進歩ノ微證トシテ觀ルヲ得ヘシ本會出品ノ如キハ悉ク特別製蠶種ニシテ一點ノ普通製ヲ見サリシハ喜フヘシ  
尙出品ノ全部ヲ種名ニ依リテ表示スレハ左ノ如シ  
但表中又昔系ノ中ニハ改良又、佐平又金城又昔等ノ類ヲ含ミ白玉系ノ中ニハしら玉等ヲ含ムモノト知ルヘシ

種名	點數	百分率	種名	點數	百分率
又昔系	五二七	五二・六五	白蠶	五九	六・〇一
白玉系	一五四	一五・六八	伊達	二八	二・八五
青熟	八九	九・〇六	其	九八二	六・七二
中巢	六九	七・〇三	秋蠶之部		
春蠶之部			點數	百分率	
飛白	二八・三七				
中巢	一三・一五				
大和	九・八二				
其	八・八七				
計	五・七一				
他	一五・〇				
白	二・三				
巢	一・九				
錦	三・〇〇				
其	三・七七				
他	六三一				

青熟	一七九	二八・三七
錦	八三	一三・一五
龍	六二	九・八二
錦	五六	八・八七
富	三六	五・七一

第三 審査ノ方法並ニ其成績

審査ノ方法ハ現品審査及調査ノ二法ニ分チタリ現品審査ニ於テハ蠶卵ノ色澤、形狀、産附、調製ノ良否並微粒子病毒検査ノ成績ニ就テ審査シ其優劣ヲ判別シ優良ト認メタルモノニ對シテハ更ニ該所轄官廳ニ照會シ出品者最近三箇年間に於ケル生産額及病毒検査ノ成績表ヲ提供セシメ現品審査ノ成績ト對照參酌シ優劣ヲ決定シテ擬賞セリ即チ左ノ如シ

擬賞歩合

府	縣	出品人員	出品點數	名譽	金牌	銀牌	銅牌	褒狀	計	出品人員ニ對スル擬賞歩合
東京府	京都府	一七八	二一五	二	二	四	七	三七	五〇	二・八一
神奈川縣	新潟縣	二一	二八	一	一	二	四	三	一一	二・八二
群馬縣	埼玉縣	一九〇	一四	二	一	二	二	一	六	二・八六
千葉縣	茨城縣	九五	一〇四	一	一	一	一	三	四	二・八六
愛知縣	靜岡縣	二六	三〇	一	一	一	一	二	二	二・七四
山梨縣	山梨縣	五一	五四	一	一	一	一	一	二	二・二一
岐阜縣	岐阜縣	三〇	三〇	一	一	一	一	一	一	二・三三
長野縣	長野縣	五八	五八	一	一	一	一	一	一	二・三三
山梨縣	山梨縣	九三	一四	一	一	一	一	一	一	二・九三
岐阜縣	岐阜縣	四三	四八	一	一	一	一	一	一	二・四七
長野縣	長野縣	三二四	三五五	一	一	一	一	一	一	二・七八
計		二九四	二九五	一	一	一	一	一	一	二・三二



ニシテ品位ノ賞スヘキモノ尠ナカラス然レトモ蛾輪ノ小ニ過タルモノアリ又種名ヲ詐稱シ或ハ手  
工ヲ加ヘ修飾ヲ施シタルモノアルヲ認メタリ本縣當業者ニ尙此惡弊ノ根絶ニ至ラサルヲ惜ム  
群馬縣 春蠶ノ品種ハ又昔多數ヲ占メ是亦一定ニ近シ出品中ニ卓越シタル優良品ニ乏シト雖モ産附  
調整共ニ概シテ佳良ナルモノ多ク劣等品ノ少ナカリシハ寧ロ喜フヘシ然レトモ冷蔵蠶種ハ其ノ品  
格春蠶種ニ及ハサルコト遠シ尙一層ノ努力ヲ要ス  
千葉縣 春蠶ニアリテハ略又昔ニ一定セルモノノ如シ然レトモ産附佳ナルモノ少ナク色澤亦不同ナ  
ルモノ多シ而シテ調整ノ技術尙一層ノ研鑽ヲ要ス  
茨城縣 春蠶ニ在リテハ又昔及白龍ノ二種最モ多ク共ニ四〇%強ヲ占ム産附調整等ノ稀ニ見ルヘキ  
モノアリト雖モ概シテ云フトキハ色澤不同ニシテ外觀ヲ損スルモノ多シ冷蔵秋蠶種ハ出品僅少ナ  
リシモ春蠶種ニ比シテ品質稍勝レタルヲ認ム  
愛知縣 又昔多數ヲ占メ其ノ他ハ黃石丸名古屋又等ト稱スル雜種ナリ品格並ニ調整ニ就テ特ニ賞ス  
ヘキモノ尠シ且在來ノ種名ヲ冠スルモノニシテ其ノ實外國蠶ト交雜セリト認メラルモノアリ  
静岡縣 春蠶ノ七五%ハ又昔二〇%ハ青熟ニシテ殆ント一定ノ域ニ達シタルモノト云フヘシ然レト  
モ色澤齊一ナラス産附ノ佳良ナルモノ尠シ冷蔵秋蠶種ノ出品ハ少數ニシテ種名モ亦區々ナレトモ  
品格春蠶ニ比シテ見ルヘキモノ多シ  
山梨縣 春蠶ニアリテハ又昔五〇%ヲ占メ白玉小石丸等之ニ次ケリ調整ハ一定ニシテ概シテ佳良ナリ  
産附亦甚タジキ不良品少シト雖色澤齊一ヲ缺クモノ多シ冷蔵蠶種ニ至リテハ其ノ品格春蠶ニ比シ  
テ數歩ヲ讓レリ  
岐阜縣 春蠶ニ在リテハ又昔六七%ヲ占メ其ノ他ハ支那種又ハ歐洲種トノ雜種ナリ秋蠶ニアリテハ  
種名ニ一定ノ傾向ヲ認メス春秋蠶種ヲ通シテ劣等品少シト雖モ優良トシテ賞スヘキモノ亦尠シ冷  
藏蠶種ノ中ニハ全卵區ニ互リ卵粒ヲ糊著シ修飾ヲ施シタルモノアリ戒ムヘシ

長野縣 春蠶種ニ在リテハ又昔多數ヲ占メ中巢之ニ次キ秋蠶種ニ在リテハ日本錦最多ヲ占メタリ特  
ニ品質ノ優越シタルモノヲ認メスト雖モ調整宜キヲ得タルモノ多ク且様式一定セリ然レトモ概シ  
テ卵量少ク産附ノ平滑ナラサルモノ多シニ化性秋蠶種ハ春蠶種ニ比シ卵量多ク産附佳良ナルモノ  
アリ  
福島縣 春蠶ニ在リテ又昔伊達錦ノ二種多數ニシテ共ニ三二%ヲ占メ青熟ハ之ニ次キテ一八%ヲ占  
メタリ色澤ハ稍齊一ニシテ卵量亦豊富ナリ然レトモ産附ハ概シテ平滑ナラス且二蛾入レト認メラ  
ルモノアリ又調整上非難スヘキモノハ蛾輪ノ小ニ過タルモノ多キコト並ニ區劃線及記號文字ヲ  
太書シ爲メニ外觀ヲ損スルコト是ナリ又稀ニ修飾ヲ加ヘタルモノアリ宜シク將來ヲ戒ムヘシ  
山形縣 春蠶ニ在リテハ又昔多數ヲ占メ秋蠶種ニ在リテハ青熟ヲ以テ略一定セリ一部ノ出品ニ就テ云  
フトキハ色澤産附調整等總テ賞スヘキモノアリト雖モ全體ヲ通シテ觀察スルトキハ尙改善ノ餘地  
多シト云フヘシ冷蔵秋蠶種ハ春蠶種ニ比シテ概シテ良品多シ  
富山縣 又昔多數ヲ占メ品位見ルヘキモノアリ且調整ノ様式一定ニシテ其ノ宜シキヲ得タリ然レト  
モ出品ヲ通覽スルトキハ尙優劣ノ差多キヲ惜ム

### 第四十一類 繭

主任 加賀山 辰四郎  
報告員 廣 瀨 次 郎

#### 第一 出品

本會出品繭ノ總數ハ五千百三十三點ニシテ出品人員四千七百七十二人ニ達シ其ノ區域ハ東京府外一府  
二十八縣ニ互リ朝鮮臺灣及關東州亦之ニ加ハレリ而シテ東京府ノ出品最モ多ク長野茨城群馬埼玉千  
葉福島ノ諸縣之ニ亞キ岡山廣島佐賀ノ三縣ハ出品甚タ僅少ナリ其ノ詳細ハ左表ニ示スカ如シ

府 縣 名	出 品 點 數	出品人員
東京府	五三五	六二七
春蠶繭	一一〇三	七三八
夏秋蠶繭		
野蠶繭		
計	一一〇三	七三八

京	神	長	新	崎	玉	馬	葉	茨	愛	靜	山	岐	長	宮	福	岩	青	山	秋	富	岡	廣	山	德	愛	大	佐	
都	府	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣
一七六	一二〇	三三三	二二九	二八九	四二七	二〇六	二五四	一五一	一〇八	八八五	八八九	二五六	七二	二一五	五三	一三三	八一	二〇	一八〇	九	七	七五	六〇	一〇〇	四六	一六		
一九	一四	一二	一	二	二	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
一四五	一三四	四四五	三〇	三二	四四七	二四一	四〇八	八四	一二二	一五〇	九七	五一九	八〇	二四一	六〇	一八〇	一四一	四三	一八三	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	
一八五	一三四	四五	三〇	三〇	三〇四	三九六	二九九	四〇八	一二二	一四一	九七	四六一	七六	一九七	六〇	一五三	一九	四〇	一七一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	

熊	宮	朝	臺	關
本	崎	鮮	灣	東
縣	計	總	總	都
府	府	府	府	府
四二	八三	七三	一	一
二六	一七	一	一	一
六八	一〇〇	八三	二二	二二
五一	九六	六八	一六	一六

第二 品種名

近年本邦ニ於ケル蠶ノ品種ハ漸ク統一ニ傾キタルモノノ如ク今回ノ出品ニ徴スルニ從來ノ博覽會ニ比シ大ニ其ノ數ヲ減少セリ即チ春蠶繭出品七十七種中又昔最モ多ク其ノ數千九百七十點ニ達セリ而シテ名稱ヲ記入セザリシモノニモ又昔ト認ムヘキモノ亦尠カラサリシヲ以テ實際ニ於テハ更ニ尙ホ多數ニ達スヘシ又昔ニ亞クヲ青熟トシ三百九十六點アリ夏秋蠶ハ五十二種ニ達シ就中青熟白龍日本錦ノ三種ハ比較的多數ヲ占メタリ外國種ノ出品亦尠カラス支那種若ハ其ノ交雜種ニ屬スルモノ春蠶繭中百四十四點歐羅巴種若ハ其ノ交雜種ニ屬スルモノ同四十四點アリ前者ハ東京府神奈川縣岐阜縣埼玉縣ノ出品最モ多ク後者ハ群馬、愛知ノ二縣最モ多數ヲ占メタリ

種	又	青	白	白	中	伊
蠶	昔	熟	玉	龍	巢	達
點數	二、一〇九	三九六	二二〇	一八七	一〇九	九六
百分率	五三・七	一〇・一	五・六	四・八	二・八	二・四
支那種	歐羅巴種	其他種	計	夏秋蠶	青熟	龍
一四四	四四	六二	三、九二八	一八五	一一二	一八五
三・七	一・一	一・五	一〇〇・〇	一五・八	一八・二	一五・八

日本	多摩	中野	飛騨
錦	錦	白	白
一六三	一一一	七四	四八
一三九	九五	六三	四一
支那種	歐羅巴種	其他	計
四	三三三	三四〇	一、一七〇
〇三	二・八	二九・一	一〇〇・〇

備考

春蠶 又昔ノ内ニハ又昔、金城又昔、改良又昔等ヲ含ミ白玉ノ内ニハ白玉及しら玉ヲ含ミ支那種ノ内ニハ支那種並ニ日支交雜種ヲ含ミ歐羅巴種ノ内ニハ歐羅巴種ノ内ニハ歐羅巴種ノ内ニハ歐羅巴種ヲ含ム

夏秋蠶 白龍ノ内ニハ白龍、長白龍、大白龍ヲ含ミ支那種ノ内ニハ支那種並ニ日支交雜種ヲ含ミ歐羅巴種ノ内ニハ歐羅巴種ヲ含ム

尙ホ府縣別ニ依リ品種名及出品點數ヲ示スコト左ノ如シ

春蠶繭

府縣名	又昔	金城	改良	印形	伊達	青熱	中集	白玉	しら玉	小石	白龍	國一	角又	支那種	日支交	歐洲種	日歐交	黃石	其他	合計
府	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
縣	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
靜岡	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
愛知	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
茨城	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
千葉	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
群馬	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
埼玉	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
新潟	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
長崎	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
神奈川	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
京都	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
東京	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
臺灣	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
朝鮮	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
合計	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

府縣名	又昔	金城	改良	印形	伊達	青熱	中集	白玉	しら玉	小石	白龍	國一	角又	支那種	日支交	歐洲種	日歐交	黃石	其他	合計
山梨	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
岐阜	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
長野	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
宮城	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
福島	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
岩手	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
青森	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
山形	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
秋田	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
富山	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
石川	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
福井	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
山梨	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
廣島	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
山口	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
徳島	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
愛媛	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
大分	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
佐賀	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
熊本	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
宮崎	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一











東京	九	二五六	二〇六	二二〇	五四四	四四四	五〇八	三、三一	二、三一	二、七三	一一、九	九、六	一〇、五
福島	一三	二二二	一六〇	二〇七	五八七	四六四	五三三	三、五四	二、六六	三、〇〇	一一、八	九、二	一一、〇
山形	一〇	二二二	一八二	二〇六	五九七	四六〇	五二〇	三、三一	二、五四	二、九七	一一、七	九、四	一〇、三
秋田	三	一九八	一九二	一九五	五九二	四九三	五三三	三、一九	二、八〇	三、〇四	一一、〇	一〇、一	一〇、五
朝鮮	三	二〇八	一七八	一九四	六六八	五一四	五八二	二、三三	二、一二	二、二三	九、四	七、八	八、四
茨城	六	二四〇	二〇四	二二二	五二六	四二三	四八七	二、八八	二、〇八	二、四八	一〇、四	七、九	八、九
長野	七	二四二	一九六	二二五	五七二	四六八	五三三	三、一〇	二、四四	二、六二	一一、二	八、五	九、七
愛媛	四	二二〇	一九〇	二二〇	六七四	五七九	六一七	二、五三	二、〇一	二、三七	一一、八	一〇、〇	一〇、六
熊本	一四	二二二	二〇〇	二二〇	五八九	五三〇	五五六	二、八五	二、三九	二、六三	一一、二	九、四	一〇、二
臺灣	七	二七〇	一六〇	二二二	六七二	五一二	五五〇	二、八七	二、一四	二、五四	一一、四	七、七	九、五
秋蠶多摩錦	一〇	二七二	一九四	二二六	五八〇	四四四	五四〇	二、四八	二、二四	二、三八	一〇、二	八、五	九、二
秋蠶飛白	一三	二四四	二二六	二二三	五二八	四一九	四七六	三、四八	二、四七	二、七四	一一、八	九、〇	一〇、一
秋蠶國富(歐洲交雜種)	七	二三二	二二四	二二八	五二四	四九一	五二二	二、八一	二、三八	二、六五	一一、四	九、七	一〇、六

備考 器械審査ハ出品一點毎ニ五顆ヲ一粒繰トナシ特ニ必要ト認メタルモノハ更ニ十顆ノ繭ニ就テ之ヲ行ヒ絲長及織度ハ其平均數ヲ示シ絲量ハ一粒繰ニ依リテ得タルモノヲ一升ノ顆數ニ應シテ平均一升ニ對スル重量ニ換算シタルモノナリ

第五 府縣別概評

今回ノ出品繭全般ニ對スル審査ノ成績ハ前ニ述ヘタルカ如シト雖モ尙ホ府縣別ニ依リ概評ヲ下スコト左ノ如シ

東京府 又昔最モ多數ヲ占メ改良又昔之ニ次ク一般ニ春蠶繭ハ色澤概ネ佳良ナリシモ乾繭適度ヲ失シタルモノアリ器械審査ヲ行ヒタル又昔八十二點ノ平均ニ依レハ一升ノ粒數二百十二顆、糸長五百

十五回絲量一〇、七々織度二、九六デニールナリ秋蠶繭ニハ日本錦最モ多シ

京都府 春蠶繭ノ殆ント全部ハ又昔ニシテ其ノ他ハ少數ノ國一、青熟及黃石丸アルノミ秋蠶繭ニハ青熟最モ多シ又昔四十三點ノ平均ニ依レハ一升ノ粒數二百二十二顆、絲長五百三十一回、一升絲量一、六々織度二、九九デニールナリ國一ハ三點ノ平均ニ依レハ一升ノ粒數二百十三顆、絲長五百五十二回、絲量一〇、九々織度二、七一デニールナリ

神奈川縣 又昔最モ多ク支那種及其ノ交雜種之ニ亞ク又昔二十一點ノ平均ニ就テ之ヲ見ルニ一升ノ粒數百九十八顆、絲長五百二十四回、一升絲量一〇、六々織度三、〇〇デニールナリ支那種五點ノ平均ハ粒數二百十七顆、絲長五百六十九回、絲量一〇、九々織度二、六〇デニールニシテ日支交雜種四種ノ平均ハ粒數百九十二顆、絲長五百八十回、絲量一〇、二々織度二、七八デニールナリ

長崎縣 又昔、青熟最モ多シ又昔七點ノ平均成績ハ一升ノ粒數百八十九顆、絲長五百五十九回、一升絲量一〇、七々織度三、〇七デニールニシテ青熟五點ノ平均ニ依ルニ粒數ハ百九十四顆、絲長五百六十四回、絲量一二、三々織度三、三七デニールナリ秋蠶繭ハ良品ニ乏シ

新潟縣 出品點數少カリシモ又昔最モ多ク品質概シテ良好ナリ又昔十四點ノ平均ニ依レハ一升ノ粒數二百二十四顆、絲長五百十四回、一升絲量一二、二々織度三、二三デニールナリ此他ハ僅ニ春蠶青熟二點、秋蠶白龍一點アリシノミ

埼玉縣 又昔、白玉ノ二種最モ多ク品質概シテ良好ナリ又昔二十七點ノ平均ニ依レハ一升ノ粒數二百一十一顆、絲長五百三十九回、一升絲量一一、四々織度二、九八デニールニシテ白玉二十點ノ平均ハ粒數二百十六顆、絲長五百二十一回、絲量一一、三々織度二、七〇デニールニシテ又昔ニ比スレハ織度ハ稍小ナリ秋蠶繭ハ優品ニ乏シ

群馬縣 又昔最モ多ク青熟之ニ亞ク繭層一般ニ厚ク感觸良好ニシテ品質優良ナルモノ多シ又昔九十三點ノ平均ニ依レハ一升ノ粒數二百十四顆、絲長五百三十三回、一升絲量一一、八々織度三、一三デニール

ルニシテ青熟二十七點ノ平均ハ粒數二百十顆、絲長五百五十四回、絲量一、八、勿織度三、〇六デニールナリ秋蠶繭ハ白龍最モ多ク一般ニ色澤佳良ニシテ繭層厚ク春蠶繭ニ劣ラサルモノアリ外國種又ハ其ノ交雜種ノ出品中ニモ特ニ優良ノ成績ヲ示シタルモノアリ支那種三種ノ平均ニ依レハ粒數百八十八顆、絲長五百九十五回、絲量九、四、勿織度二、五四デニールニシテ黃石丸四種ノ平均ハ粒數百六十三顆、絲長八百六回、絲量一、三、九、勿織度三、二、一、デニールナリ

千葉縣 春秋蠶ヲ通シ繭質概シテ優良ナラス殺蛹乾繭ノ方法亦適當ナラサルモノ多ク色澤及感觸ヲ損シ不合格品最モ多シ

茨城縣 又昔白龍ノ二種最モ多ク形狀概ネ小ナリ且ツ乾燥貯繭ノ方法宜シカラサリシカ爲メ繭ノ品質ヲ惡變セシメタルモノ多カリシコト千葉縣ノ出品ニ同シ又昔十五點ノ平均ニ依レハ一升ノ粒數二百十七顆、絲長四百六十七回、一升絲量一、〇、五、勿織度二、九、七、デニールナリ秋蠶モ亦繭層薄弱ニシテ良品ニ乏シ

愛知縣 又昔ノ出品最モ多ク黃石丸、三龍又名古屋又等ノ出品之ニ亞キ品位概シテ良好ナリ然レトモ又昔ノ名稱ヲ附シタルモノノ中ニハ三龍又名古屋又、若クハ同系統ニ屬スルモノアリ又昔十三點ノ平均ニ依レハ一升ノ粒數百九十四顆、絲長五百四十三回、一升絲量一、〇、〇、勿織度三、一、七、デニールニシテ黃石丸四點ノ平均ハ一升ノ粒數百五十七顆、絲長七百三十回、一升絲量一、〇、二、勿織度二、七、六、デニールナリ日歐交雜種五點ノ平均ハ一升粒數百六十顆、絲長六百三十七回、絲量一、一、〇、勿織度三、〇、七、デニールナリ

靜岡縣 又昔ノ出品最モ多ク青熟之ニ次ク又昔十四點ノ平均ニ依レハ一升ノ粒數二百六顆、絲長五百三十五回、一升絲量一、〇、六、勿織度二、九、〇、デニールニシテ青熟三點ノ平均ニ依レハ一升ノ粒數二百三顆、絲長五百三回、絲量一、〇、三、勿織度二、八、〇、デニールナリ而シテ出品中ニハ繭層軟弱ニシテ乾繭過度ノ嫌アルモノ多シ

山梨縣 又昔最モ多ク中巢小石丸之ニ亞ク春秋蠶トモニ繭質良好ナルモノ多シ又昔十三點ノ平均ニ依レハ一升ノ粒數二百四十一顆、絲長五百三十五回、一升絲量一、二、一、勿織度二、八、三、デニールニシテ中巢九點ノ平均ハ一升粒數二百一十一顆、絲長五百五十二回、絲量一、一、六、勿織度二、九、九、デニール小石丸三點ノ平均ハ一升粒數二百五十五顆ニシテ又昔及中巢ニ比スレハ繭形小ナリトス絲長ハ五百五十回ニシテ中巢ト大差ナク絲量ハ一、三、〇、勿アリテ最モ多ク織度ハ二、八、〇、デニールナリ

岐阜縣 又昔最モ多ク支那種ノ出品之ニ亞ク一般ニ繭層厚キモノ多カリシモ色澤ヲ損シ感觸粗硬ナルモノ尠カラヌ又昔十二點ノ平均ニ依レハ一升ノ粒數二百十三顆、絲長五百十二回、一升絲量一、一、七、勿織度三、一、八、デニールアリ支那種ハ三點ノ平均一升ノ粒數百八十八顆、絲長五百九十四回、絲量九、五、勿織度二、五、一、デニールナリ

長野縣 春蠶繭ハ又昔最モ多ク中巢之ニ亞キ其ノ他ノ出品ハ白龍、金城、又普及ヒ改良又昔ノ三種ニ過キスシテ一般ニ形狀齊一ナルモノ多シ夏秋蠶繭ハ乾燥不良ナルモノ尠カラサリシモ上下伊那兩郡ノ出品中ニハ稍、良好ナルモノアリタリ又昔五十九點ノ平均ニ依レハ一升ノ粒數二百二十二顆、絲長五百二十三回、一升絲量一、一、四、勿織度二、九、九、デニールニシテ中巢十七點ノ平均ハ一升ノ粒數二百十五顆、絲長五百三十一回、絲量一、〇、九、勿織度二、九、一、デニールニシテ白龍亦之ニ彷彿タリ秋蠶繭ニアリテハ白龍最モ多ク多摩錦、大和錦、日本錦、飛白、中巢之ニ亞ク一升ノ粒數ハ飛白最モ多ク二百三十三顆ニシテ中巢二百二十八顆之ニ次キ日本錦二百一十一顆、大和錦二百十三顆、白龍二百十五顆、大サ殆ト同様ナリ絲長ニ就テハ白龍五百三十三回最モ長ク日本錦五百二十一回、大和錦五百六回之ニ亞キ中巢四百八十五回、飛白四百七十六回最モ少ナシ一升絲量ハ大和錦一、〇、六、勿最モ多ク飛白一、〇、一、勿、中巢九、九、五、勿之ニ亞キ日本錦及白龍各九、七、勿又之ニ亞ク織度ハ大和錦二、九、七、デニール最モ太ク飛白二、七、四、デニール、中巢二、七、一、デニール、日本錦二、六、六、デニール、白龍二、六、二、デニール之ニ亞ク天柞蠶繭ハ合計三十點ノ出品アリシモ特ニ著シキ進歩ヲ認メス今後益々斯業ノ發展ヲ期セントセハ

天柞蠶同業組合ノ活動ニ待タサルヘカラス

宮城縣 又昔最モ多ク國一、青熟之ニ次ク國一ノ内ニハ繭質良好ナルモノアリシモ其ノ他ノ品種ニハ形狀不同繭層薄弱ナルモノ多シ又昔五點ノ平均ニ依レハ一升ノ粒數二百二十五顆、絲長五百三十六回、一升絲量一一、四勿織度二、八三デニールニシテ國一六點ノ平均ハ一升ノ粒數二百十三顆、絲長五百八十一回、絲量一〇、九勿織度二、六五デニールナリ青熟ハ前二種ヨリモ大巢ニシテ一升ノ粒數二百八顆、絲長五百二回、絲量一〇、四勿織度二、九九デニールナリ尙ホ秋蠶國の錦ニモ繭質佳良ナルモノアリタリ

福島縣 又昔伊達錦ノ二種最モ多ク青熟支那又、國一之ニ亞ク出品ハ概シテ優良ニシテ殊ニ國一、伊達錦、又昔及秋蠶青熟ニハ色澤精美、形狀齊一ニシテ繭層厚ク感觸亦佳良ナルモノ多シ又昔二十三點ノ平均ニ依レハ一升ノ粒數二百十三顆、絲長五百三十回、一升絲量一一、三勿織度三、〇二デニールニシテ伊達錦二十九點ノ平均ハ一升ノ粒數二百十六顆、絲長五百二十三回、絲量一一、四勿織度三、〇八デニールニシテ前者ト大差ナシ青熟十四點ノ平均ニ依レハ一升ノ粒數二百二顆、絲長五百三十六回、絲量一一、〇勿織度二、九六デニールナリ支那又五點ノ平均ハ一升ノ粒數百七十一顆、絲長五百七十三回、絲量九、六勿織度三、一デニール國一六點ノ平均ハ一升ノ粒數二百八顆、絲長五百八十九回ニシテ最モ長ク絲量一一、五勿アリテ之亦最モ多シ織度ハ二、八一デニールナリ秋蠶ニテハ青熟最モ多ク繭質優良ナリ十二點ノ平均ニ依レハ一升ノ粒數二百七顆、絲長五百三十二回、絲量一一、〇勿織度三、〇〇デニールナリ

岩手縣 又昔最モ多キヲ占ム概シテ乾燥貯繭其ノ宜シキヲ得ス色澤不良、感觸粗硬ナルモノ多シ又昔十三點ノ平均ニ依レハ一升ノ粒數二百十三顆、絲長五百十五回、一升絲量一〇、九勿織度二、九八デニールナリ

青森縣 又昔最モ多ク秋蠶ニテハ大錦最モ多シ一般ニ繭質概シテ劣等ナリ又昔十九點ノ平均ニ依レ

ハ一升ノ粒數二百十一顆、絲長五百三十二回、一升ノ絲量一〇、七勿織度二、八九デニールナリ

山形縣 又昔最モ多數ヲ占ム小石丸之ニ亞ク一般ニ繭質良好ナリ殊ニ風穴秋蠶ニ屬スル青熟ハ福島縣伊達郡地方ノ出品ニ劣ラス又昔二十八點ノ平均ニ於テ一升ノ粒數二百二十顆、絲長五百二十九回一升ノ絲量一一、二勿織度二、九五デニールナリ秋蠶青熟八點ノ平均ハ一升ノ粒數二百六顆、絲長五百二十回、絲量一〇、三勿織度二、九七デニールナリ

秋田縣 出品點數尠クシテ春秋蠶ヲ通シテ四十三點ニ過キス春蠶ハ又昔及金城又昔多ク秋蠶ハ青熟多シ金城又昔五點ノ平均ハ一升ノ粒數二百七顆、絲長五百十五回、一升絲量一〇、七勿織度三、〇三デニールニシテ秋蠶青熟三點ノ平均ハ一升粒數百九十五顆、絲長五百三十二回、絲量一〇、五勿織度三、〇四デニールナリ

富山縣 又昔最モ多ク青熟之ニ亞ク出品中或ハ品質特ニ優良ナルモノアリシモ乾繭其ノ宜シキヲ得ス色澤不良ナルモノ尠カラズ又昔二十七點ノ平均ニ依レハ一升ノ粒數二百十三顆、絲長五百四十七回、一升絲量一一、九勿織度二、九九デニールナリ

岡山縣 出品僅ニ十一點ニシテ良品ニ乏シ

廣島縣 出品點數僅ニ十點ニシテ概ネ形狀不同繭層薄弱ナリ

山口縣 又昔最モ多ク三點ノ平均ニ依レハ一升ノ粒數百九十九顆、絲長五百九回、一升絲量一〇、〇勿織度三、〇五ニシテ概シテ良品ニ乏シ

德島縣 青熟最モ多ク又昔之ニ亞ク青熟十八點ノ平均ニ依レハ一升ノ粒數二百九顆、絲長五百三十八回、一升ノ絲量一一、九勿織度三、二〇デニールニシテ其ノ品質佳良ナルモノ多シ

愛媛縣 青熟最モ多ク又昔之ニ亞ク秋蠶繭ニハ中巢、白龍青熟等アリテ孰レモ共同養蠶組合ノ出品ニ係ル宇和四郡ノ出品ハ品質概シテ良好ナレトモ東部諸郡ニハ見ルヘキモノ尠ナシ秋蠶繭ハ上浮穴郡ノ出品ニ色澤佳良形狀齊一ナルモノアリ而シテ青熟二十三點ノ平均ニ依レハ一升ノ粒數百九十

六顆、絲長五百四十二回、一升絲量一〇、九夕織度三、〇五デニールナリ秋蠶白龍四點ノ平均ニ依レハ一升ノ粒數二百十顆、絲長六百十七回、一升絲量一〇、六夕織度二、三七デニールナリ

大分縣 春蠶繭ノ大部分ハ白龍ニシテ一般ニ色澤不良、形狀不同ニシテ繭層貧弱ナルモノ尠カラス白龍七點ノ平均ニ依ルトキハ一升ノ粒數百七十八顆、絲長五百七回、一升ノ絲量九、七夕織度三、三五デニールナリ秋蠶繭ニハ見ルヘキモノナシ

佐賀縣 出品僅ニ十六點ナリ悉ク又昔ニシテ繭質概ネ優良ナリ十點ノ平均ニ依レハ一升ノ粒數百九十五顆、絲長五百四十九回、絲量一、八夕織度三、三三デニールナリ

熊本縣 又昔最モ多シト雖モ繭形豐大縮皺粗ニシテ繭層厚ク織度亦太ク赤熟ノ形質ヲ有ス一般ニ形狀齊一、感觸良好ナリ秋蠶ハ白龍最モ多ク繭質良好ナリ又昔二十六點ノ平均ニ依レハ一升ノ粒數百九十六顆、絲長五百六十二回、一升絲量一、七夕織度三、二〇デニールナリ又秋蠶白龍十點ノ平均ハ一升ノ粒數二百十顆、絲長五百五十六回、絲量一、〇二夕織度二、六三デニールナリ

宮崎縣 出品中多キヲ占ムルモノハ又昔ナリ然レトモ一般ニ色澤不良、繭層貧弱ナルモノ尠カラス且品種名ヲ記載セサルモノアリ又昔十一點ノ平均ニ依レハ一升粒數百九十五顆、絲長五百四十五回、一升絲量一、〇七夕織度三、〇三デニールナリ

朝鮮 春蠶又昔最モ多シ今回ノ出品ハ内地ヨリ移入シタル蠶種ヲ複製飼育シテ得タルモノナルヲ以テ在來三眠蠶種ノ成繭ニ比スレハ一般ニ繭質ノ上達セルヲ認ム將來益々栽桑ニ勉メ且飼育法ヲ改良セハ成績大ニ觀ルヘキモノアラン尙ホ家蠶繭ノ外ニ柞蠶繭四點ノ出品アリ放養樹林ニ富メル地方ニ於テ之カ飼育ヲ獎勵セハ地方特殊ノ物産タルコト敢テ難キニ非サルヘシ

臺灣 出品繭ハ概シテ優品ニ乏シ同島ノ蠶業ヲ發達セシメンニハ桑樹ノ栽培、蠶種ノ貯藏、飼育法ノ改良等ニ就キ尙ホ研究ヲ要スルコト多シトス

關東州 出品ハ南滿洲鐵道株式會社中央試驗所ノ生産ニ係ル春蠶繭及柞蠶繭各一點アリシモ同地方ニ於ケル蠶業ハ尙ホ試驗中ニ屬シ未タ將來ヲ豫想スヘカラス

第四十二類 蠶絲及眞綿

主任、審査官 今西直次郎  
 報告員 松下憲三郎

一、出品 蠶絲類出品ノ區域ハ一府二十八縣及朝鮮、臺灣ノ兩總督府ニ互リ其點數七百四十一點ニシテ七百〇八名ノ出品ニ係ハレリ出品ノ數量ハ器械生絲ハ概ネ一種一括ヲ出品セシモ坐繰生絲ハ一種二捻ヲ出品セリ器械生絲ニシテ二捻ヲ出品セルモノ往々アリテ審査上不都合アルノミナラス陳列上亦甚タ體裁ヲ損セシハ甚タ遺憾トスル所ナリ

玉絲ハ三遠地方出品ノモノハ長手造一種一束ニシテ他ハ一種二捻トセリ天蠶及柞蠶、絲ハ一種一束又ハ數捻ノモノアリテ一定セス

出品數ノ最モ多キハ東京府及長野縣ニシテ群馬、茨城之ニ亞ク其ノ最モ少キハ廣島、大分、山口ノ諸縣ナリ左ニ出品點數及人員ヲ表示スヘシ

廳府縣	生絲		玉絲		天、柞、蠶絲		合計	
	點數	人員	點數	人員	點數	人員	點數	人員
朝鮮總督府	一九	一九			四	二	二三	二一
臺灣總督府	六	六					六	六
東京府	九〇	九〇	九	九			九九	九九
神奈川縣	七	六	一	一			八	七
新潟縣	一〇	一〇					一〇	一〇
埼玉縣	三七	三七					三七	三七
群馬縣	四三	四三	二七	二七			七〇	七〇
千葉縣	一三	一三	三	三			一六	一六
茨城縣	五二	五二	一七	一七			六九	六九

廳府縣	出品人員	出品點數	大賞牌	金牌	銀牌	銅牌	褒狀	計	出品人員ニ對スル擬賞歩合
朝鮮總督府	一九	一九					五	一九	二・六
臺灣總督府	六	六					三	六	五・〇
東京府	九〇	九〇					六	九〇	一・二
神奈川縣	六	七					三	一〇	八・三
新潟縣	一〇	一〇					二	一二	五・〇
埼玉縣	三七	三七					三	三〇	三・二
群馬縣	四三	四三					二	四五	一・九
千葉縣	一三	一三					一	一四	二・三
茨城縣	五二	五二					一	五三	一・七
三重縣	八	八					一	九	六・三
愛知縣	三〇	三五					七	三七	四・七
靜岡縣	一〇	一〇					二	一二	七・〇
滋賀縣	六	六					二	八	五・〇
岐阜縣	一八	一八					一	一九	七・〇
長野縣	四六	四七					二	四九	五・四
宮城縣	一三	一三					一	一四	七・〇
福島縣	一六	一六					一	一七	七・五
岩手縣	一五	一七					一	一六	二・七
山形縣	一八	一九					一	一九	七・二

ノ適否並ニ類節及強力伸度ノ多少ヲ検査セリ而シテ此ノ検査ハ横濱生糸検査所内ニ設備セル検査器械ヲ使用セリ即チ第一審査ニ合格シタルモノニ就キ第二審査ヲ行ヒ更ニ出品物ノ産額市價並ニ出品人ノ從來ノ經歷及斯業界ニ於ケル功績等ヲ調査シテ其ノ成績優良ナルモノ二百四十二點ヲ選抜シテ擬賞セリ即チ左表ノ如シ

生絲擬賞歩合表

二、審査及擬賞 審査ニ從事シタル審査補助ハ角館喜一郎、佐久間保久、平林與喜、太金井重愛、古田源一、青木米濱、田キクノ七名ナリ審査ノ方法ハ第一審査、第二審査及調査ノ三トナシ第一審査ハ肉眼ヲ以テ色澤及糸質ノ良否並ニ認ノ整理ノ適否ヲ査定シ第二審査ハ器械的検査ニシテ再繰ノ難易織度

廳府縣	出品人員	出品點數	大賞牌	金牌	銀牌	銅牌	褒狀	計	出品人員ニ對スル擬賞歩合
三重縣	三五	三八						三五	一・八
愛知縣	一〇	一〇						一〇	七・〇
靜岡縣	一六	一六						一六	一・七
滋賀縣	一八	一八						一八	九・七
岐阜縣	四七	四六						四七	一・五
長野縣	一三	一三						一三	一・三
宮城縣	一六	一六						一六	一・六
福島縣	一七	一五						一七	二・二
山形縣	一九	一八						一九	一・五
秋田縣	一〇	一〇						一〇	七・〇
富山縣	二七	二七						二七	二・八
岡山縣	四二	四二						四二	一・五
廣島縣	九	九						九	四・九
山口縣	四	四						四	九・四
德島縣	九	九						九	二・七
愛媛縣	一五	一五						一五	四・二
高知縣	一四	一四						一四	二・七
大分縣	六	六						六	八・五
熊本縣	九	九						九	二・五
鹿兒島縣	二八	二八						二八	一・六
宮崎縣	一九	一九						一九	一・三
計	五九四	五七三	二二四	二二二	二二二	二二二	一四	七四一	七〇八



府縣	出品人員	出品點數	大賞牌	金牌	銀牌	銅牌	褒狀	計	出品人員ニ對スル擬賞歩合
秋田縣	五	一〇					三	二	四〇
富山縣	八	一七					一	三	三八
岡山縣	七	一四					一	一	五〇
廣島縣	二	四						一	五七
山口縣	四	九						一	五〇
德島縣	九	一八					一	二	二五
愛媛縣	一五	二九					一	一	二二
高知縣	八	一六						一	四七
大分縣	三	六						一	三八
熊本縣	九	一八					一	一	〇〇
鹿兒島縣	二八	五九	四	二	三	六	九	二	四二
計	五七三	一〇九四	四	二	三五	六一	九四	二〇六	三六

玉絲擬賞歩合表

出品人員ニ對スル擬賞歩合

天蠶及柞蠶絲擬賞歩合  
 出品人員 出品點數 大賞牌 金牌 銀牌 銅牌 褒狀 計 出品人員ニ對スル擬賞歩合

三、器械檢査成績 生絲出品點數五百九十四點ノ内第一審査ニ合格シタルモノ四百三十一點ヲ選抜シ  
 器械檢査ヲナシタル成績ハ即チ左表ノ如シ

府縣	生絲種別	再繰中切斷數			織度			額節		強力	對一デ強力	伸度	
		平均	最多	最少	平均	最多	最少	大	小				
朝鮮總督府	特太	四〇	一	一	一八三五	二八一	四〇〇	一五〇	一三	一六九五	五八一	三二七	二〇五
同	太	一			一三三〇	一八八	二五〇	一二五	一〇	九七〇	五二五	四二七	二〇五
臺灣總督府	中細	二			一一五〇	一七五	二五〇	一〇	一〇	一三五〇	四九七	三二四	一九〇
同	特太	一			一五八五	二七五	三二五	一〇	一〇	一六八五	四七〇	三八七	二〇五
東京府	中細	二			一一二五	二七五	三二五	一〇	一五	一八八五	四七〇	三八七	二〇五
同	特太	四			一六二四	二五六	三二五	一〇	一〇	七八五	五五四	三四一	二一四
同	太	二			一四三〇	二〇三	三二五	一〇	一	一〇三七	五一〇	三五七	二一三
同	中細	二			一二五〇	一八八	三〇〇	〇七五	一三	九五〇	四四八	三五八	二一三
同	細	一			一一〇五	一五〇	三〇〇	〇七五	一〇	九五〇	四四八	三五八	二一三
神奈川縣	特太	二			一七八〇	二二三	三二五	一〇〇	二〇	九一〇	五九一	三三二	二一四
同	太	三			一四八三	二一七	三二五	一〇〇	一三	七八〇	五二二	三五二	二〇五
同	細	一			九九〇	二二五	三二五	一〇〇	二〇	一〇五〇	三七五	三七九	一八二
新潟縣	特太	二			一五六三	一三八	四一〇	一二五	一〇	七五〇	三五四	三五九	一九九
同	太	七			一四四一	二七一	四一〇	一〇〇	一〇	八五〇	四八九	三三九	二〇五
同	中細	一			一三〇五	一五〇	四一〇	一〇〇	二〇	八四〇	四〇八	三二三	一九二





遠地方ノ一角ニ止マリ他ノ出品ハ頗ル貧弱ノ感アリシハ遺憾トスル所ナリ當業者宜シク一致共同

シテ組合又ハ結社組織ノ方針ニ出ツルコト肝要ナリ

天蠶絲及柞蠶絲ハ品位概シテ優良ニシテ殊ニ柞蠶絲ハ滿州産ニ比シ遙ニ上位ニアリ而シテ生絲ノ

代用品トシテ需要年々増加スルニ拘ラス斯業ノ發達カ獨リ長野縣ノ一部ニ限定セラルルハ甚遺憾

トスル所ナリ宜ク各地方不毛ノ原野ヲ開拓シテ飼育林ヲ設ケ産繭ノ増額ヲ計リ以テ輸入ヲ防ク事

ニ勉ムルヲ要ス殊ニ天蠶絲ハ絲質優良ニシテ本邦ノ特産物ナルカ故ニ將來有望ノ事業タルヲ信ス

府縣別概評 各府縣別ニ就キ審査ノ概評ヲ述フレハ大略次ノ如シ

朝鮮 古キ蠶絲國ナルモ繭ノ産額僅少ニシテ品質粗雜ナルカ爲メ製絲業ハ萎微トシテ振ハス僅カニ

座繰製絲ヲナスニ過キサリシモ今ヤ漸ク繭質ノ良好ナルモノヲ生産シ以テ器械製絲ニ移ルノ機運

ニ進ミ之カ經營ヲナスモノ顯ハルルニ至レリサレハ出品物ノ品位ハ未タ甚タ貧弱ノ感アリト雖モ

將來大ニ有望ナル事業ナレハ之カ獎勵ノ道ヲ講スルコト肝要ナリ殊ニ柞蠶業ハ朝鮮ニ於テハ甚タ

有望ナル事業ナリト信ス官民共ニ之カ發展ニ心力ヲ注カサルヘカラス

臺灣 同地ノ蠶絲業ハ近來ノ發達ニ係ルカ故ニ未タ甚タ幼稚ノ域ヲ脱セス然レトモ其氣候風土ハ桑

樹ノ生育ニ適シ從テ品位良好ノ繭ヲ得ルノ見込アルカ故ニ將來大ニ之カ獎勵發達ニ盡ササルヘカ

ラス製絲業ノ如キハ古來殆ント之レナク折角蠶業ヲ獎勵シテ良繭ヲ得ルモ之カ販賣又ハ生絲ニ繰

製スルノ道ニ苦シムノ狀況ニアリ併シ近時企業家カ器械製絲工場ヲ經營スルモノアリテ漸ク發展

ノ域ニ向ヒツツアリト聞ク今回ノ出品モ點數少クシテ品位モ亦良好ナルモノニ乏シカリシト雖モ

將來ハ大ニ有望ナルコトヲ疑ハス

東京府 出品點數多クシテ長野ノ次ニ位セシモ其大部分ハ座繰生絲ナリ器械生絲ハ一般ニ其ノ品位

優良ナリシモ座繰生絲ハ品位雜駁ニシテ束裝甚タ不統一ナルノ感アリ從テ受賞歩合甚タ少カリキ

是等座繰生絲ハ之ヲ足踏器械ニ改良シテ確固タル組合組織ノ下ニ共同揚返及販賣ノ方法ヲ取ルカ

尙一步進シテ産業組合組織若シクハ會社組織ニヨリテ器械製絲場ヲ起スコト大ニ急務ナリト信ス

玉絲ハ出品小數優良ナリト云フコトヲ得ス

神奈川縣 器械生絲ニアリテハ出品甚タ少カリシモ清國交配種ヲ原料トスルモノアルカ故ニ織度ノ

開差小ニシテ類節亦少キヲ認ム座繰絲ハ品質ニ於テ缺クル所アリト雖共同組合組織ニヨリテ總ノ

整理及束裝等稍統一セルモノアリ然レトモ往力絲ニ絹絲ヲ用ヒタルモノアリ玉絲ハ見ルニ足ラス

新潟縣 一般ニ色澤佳良類節少シ就中組合組織ニ係ル工場ノ出品ハ概ネ網綾ヲ採用シ總ノ整理及束

裝ノ方法稍改良進步ノ形跡アルヲ認ム

埼玉縣 出品點數稍多シト雖モ品位優良ナルモノニ乏シ殊ニ全般ヲ通シテ類節多キノ缺點アリ又括

造ヲナサスシテ一束トシテ出品シタルモノ折返用トシテ出品シタルモノ生絲ニ胴紙ヲ附シタルモ

ノ等アリ改良ヲ要ス

群馬縣 器械生絲ノ出品少ナク品位又優良ナリト云フヲ得ス座繰生絲ハ本場ナル丈ケ品位稍統一シ

世既ニ定評アリ併シ近年漸次器械生絲ニ改良セラレントスル機運ニ向ヒタルハ喜フヘキ現象ナリ

トス絡交ハ網綾ニ改良セラレタルモノアレトモ少シク角度緩ニ失シ不完全ナルノ感アリ括絲ニ絹

絲ヲ用ヒタルモノ及ヒ猪口ヲ束ネタルカ如キハ須ラク改良ヲ要ス玉絲ハ出品點數ノ過半ハ手挽ノ

太絲所謂節絲ナルモノニシテ品位優良ナルモノアリシモ座繰製絲ノモノハ三州地方ノモノニ比シ

甚タ遜色アルヲ認ム又束裝ハ島田造リノモノ多ク且ツ不統一ナリ

千葉縣 生絲ノ色澤不良ニシテ品質亦佳良ナラス是等ハ原料繭ノ品位不良ナルニヨルモノアルヘシ

ト雖モ製絲ノ方法其宜シキヲ得サルモノ亦其一因タルヲ免カレス尙認ノ整理束裝宜シキヲ得ス陳

列ノ法拙劣ナル爲メ縮ミ絲ヲ生シ恰モ古絲ノ如キ感アルモノアリ玉絲ハ品質劣等ニシテ見ルニ足

ルヘキモノナシ

茨城縣 出品點數多シト雖モ其ノ大部分ハ座繰絲ニシテ製絲業ノ頗ル幼稚ナルヲ示セリ出品物一二

三三三

ヲ除クモノノ外ハ一般ニ色澤及品質不良ニシテ梓角ノ固著セルモノ多ク且ツ認ノ整理、束裝ノ方法甚タ拙劣ナリ器械検査ニ於テモ織度ノ開差甚タシク類節多シ玉絲ハ稍、進歩ノ形跡ナキニアラサルモ概シテ趣味ニ乏シク整理甚タ不完全ナリ

三重縣 出品點數少ナシト雖モ品質概シテ優良ニシテ再繰中切斷少ナク且ツ織度ノ開差少クシテ類節亦少カリキ色澤ハ稍、赤味ヲ帶ヘルモノアリシハ沈繰法ニヨリタルモノナラン手觸一般ニ稍、粗硬ナルノ感アリシハ原繭ノ性質ニヨルモノナルヘシ生絲ニ胴紙ヲ附シタルモノアリシハ惜ムヘシ

愛知縣 出品點數多ク色澤及品質概シテ優良ナルモノ多シ殊ニ黃繭絲及沈繰ニヨル生絲ノ出品多カリシハ注目スル所タリ器械検査ニ於テハ切斷及類節少ク織度開差亦少カリシハ賞賛スヘシト雖トモ往々緒留ヲ耳留トシ又ハ括絲ニ胴紙ヲ附シタルモノ並ニ二認揚、平綾等認ノ整理ニ改良ヲ要スヘキモノアルヲ認ム玉絲ハ主トシテ三遠地方ノ出品ニ係リ品位ニ於テハ世既ニ定論アリ一般ニ品質良好ナリト云フヘシ然レトモ長手折返造リノ方法ニ至リテハ一考ヲ要スヘキモノアリ

静岡縣 出品點數モ少ク且ツ一二點ヲ除クノ外品質甚タ劣等ナリ蓋シ原料繭ノ品質ニヨルナランカ製絲ノ改良ニ今一段ノ力ヲ盡ササルヘカラス

滋賀縣 出品少數ナリシモ何レモ品質良好ナリ絲色稍、赤味ヲ帶ヒタル物アリシハ沈繰製絲法ニヨリシ結果ナランカ絲質ハ稍、粗硬ノ感アリシモ抱合佳良ナリ玉絲ハ出品一點アリシモ品質良好ナラス

岐阜縣 出品點數十八點ニシテ優品モ亦乏シカラス支那種系統ノ原料繭ヲ用ヒタルモノアリシハ注目スヘキコトナリトス器械検査ニ於ケル切斷ハ少ナシト雖モ類節ノ甚タ多カリシハ大ニ猛省ヲ促ササルヲ得ス束裝法ニ於テハ大ニ進歩ノ形跡アルヲ認ムルモ緒留ニ耳留ヲ施セルモノアリシカ如キハ改良ヲ要ス玉絲ハ出品僅カニ一點ニシテ論スルニ足ラス

長野縣 出品點數最モ多ク色澤ハ概シテ赤味ヲ帶フモ一般ニ優良ナリ(上一式トシテ)本縣ハ主トシテ上一番格生絲生産地ナルカ故ニ織度ノ開差及類節ハ比較的多カリシモ切斷ハ割合ニ少カリキ又調

査項目ニ於テハ絲格ハ一般ニ低キモ産額多大ナルカ故ニ受賞歩合ハ比較的多シ認整理ニ於テ網綾多數ヲ占メ二認揚ケ殆ント皆無ナリシハ喜フヘシト雖モ括造甚タ拙劣ニシテ頭部ノ開キタルモノ多カリシハ大ニ改良ヲ要スヘキナリ又緒留ヲ輪留ノ方法ニヨリ力絲太キニ過キ或ハ著色絹絲ヲ用ヒタルモノ往々アルカ如キハ須ラク矯正スヘシ玉絲ハ出品點數多カリシモ二三ヲ除クノ外ハ品質一般ニ劣等ナルヲ認ム天蠶及柞蠶絲ハ品質一般ニ佳良ニシテ色澤亦優良ナリ但シ是等ハ出品用トシテ特別線絲ニ係ルモノト認ム

宮城縣 出品點數少ク品質モ亦特記スヘキ點ナシ色澤ハ一般ニ緒味ヲ帶フルモ沈繰製絲法ニヨリタルモノハ光澤ニ富ミ抱合佳良ナリ力絲ノ太キニ失スルモノアリシハ戒メサルヘカラス

福島縣 近來器械製絲ニヨルモノ増加セリト雖モ二三ヲ除ク外ハ其ノ品質ニ於テ未タ改良ノ餘地アルヲ認ム器械検査ニ於テ類節ノ甚タ小數ナリシハ賞賛ノ價值アリト雖モ生絲整理法ニ於テ大ニ缺クル所アリ改良ヲ要ス

岩手縣 出品點數モ少ク又品位優良ナルモノニ乏シ殊ニ認ノ整理ニ於テハ大ニ改良スヘキモノアルヲ認ム器械検査ニ於テモ織度ノ開差多ク類節又尠カラス

山形縣 出品點數少ナカリシモ品質一般ニ優良ナリシカ故ニ受賞歩合多シ色澤ハ佳良ナリシモ沈繰トシテハ色白キニ過クルノ氣味アリ器械検査ニ於テ織度ノ開差稍、多カリシモ特太ヲ除クノ外類節ハ少カリキ特ニ本縣ニ於テ三本揚約九百回ノ長キニ亘リタルモノアリシハ注意ヲ要ス玉絲ハ出品點數少シト雖モ品質優良ニシテ束裝ハ括造リノ方法ニヨレリ

秋田縣 出品點數少ク又優良ナルモノ少シ殊ニ束裝ノ不完全ナルモノアリ改良ヲ要ス  
富山縣 出品點數少ク優等品ニ乏シ色澤不良認ノ整理ニ於テ緒留共絲ノ切レ端ヲ長クシテ認ノ裏ニ隠シタルモノアリ然レトモ織度比較的整齊ニシテ稍、進歩ノ形跡アルヲ認ム  
岡山縣 出品點數少ナシ色澤、手觸等佳良ナレトモ織度ノ開差多ク類節亦尠カラス認ノ整理並ニ束裝

不完全ナルヲ認ム

廣島縣 出品點數僅カニ二點ニシテ品位又優良ト云フヘカラス織度ノ開差少ナケレトモ類節多シ山口縣 出品點數少ク優品一點ヲ除クノ外他ハ見ルニ足ルヘキモノナシ但シ器械検査ニ於テ切斷皆無ナリシハ賞スルニ足ル

德島縣 原料繭ノ優良ナル割合ニ生絲ノ品位劣等ナリ色澤ハ佳良ナレトモ織度ノ開差多ク類節多キモノアリ

愛媛縣 出品點數モ多ク且ツ優等品ニ乏シカラス色澤佳良ニシテ再繰中ノ切斷少ナク類節少カリシモ束裝ノ方法ニ拙ナルモノアリ改良ヲ要ス

高知縣 出品點數少ナシ品位ハ優良ナルモノ少シト雖モ再繰中ノ切斷少ナク類節亦少シ然レトモ織度ノ開差稍多シ沈繰法ニヨル出品數大部分ヲ占ムルカ故ニ絲色稍赭味ヲ帶フルモ光澤ニ富メリ

大分縣 出品點數少ナケレトモ絲質稍優良ノモノアリ秋蠶繭ヲ原料トナシタルモノアルヲ認ム類節著シク多カリシト括絲ニ胴紙ヲ附シタルモノアリ改良ヲ要ス

熊本縣 出品點數少ナケレトモ優等品多シ色澤ハ佳良ナリト雖モ生絲ノ手觸稍粗硬ナルノ感アリ類節ハ少ナケレトモ織度ノ開差多シ蓋シ原料繭ニ赤熟系統ノモノ多キ故ナラン

宮崎縣 出品點數甚タ多ケレトモ品質ハ優良ナルモノニ乏シ殊ニ出品中座繰製絲多數ヲ占ム此等ハ器械製絲ニ改ムルノ方針ニ出ツルヲ要ス座繰絲ハ色澤不良認ノ整理不完全ニシテ絲質亦貧弱ナリ

鹿兒島縣 出品點數多ク色澤及絲質概シテ一定シ且ツ優良ナルモノ尠カラス類節ハ稍多シト雖モ再繰中ノ切斷殆ント皆無ニシテ手觸良好ナリ原料繭ノ佳良ナルニモヨルヘシト雖モ製絲法稍統一セ

ルノ形跡アルヲ認ム  
五、將來ニ於ケル希望要項 以上審査成績ニ鑑ミ將來ニ於ケル希望ノ大略ヲ序述スヘシ  
一、繭種ノ改良統一 繭質統一、品種改良ノ問題ハ數年以前ヨリ斯業界ニ於ケル大問題トシテ朝野ノ

間ニ唱導セラレ既ニ之カ施設並ニ諸般ノ研究ハ著々トシテ進捗シ今ヤ近キ將來ニ於テ一大改革ノ曙光ヲ見ントスル所謂準備時代ニ入レリ就中外國種又ハ之カ交配種並ニ一代雜種ノ如キハ前途有望ナルモノトシテ大ニ矚目セラレツアルヲ見ル實ニ原料繭ノ品質如何ハ製絲業ノ經濟上ニ直接大ナル影響ヲ及ボスノミナラス生絲ノ品位ニ至大ノ關係ヲ有スルコトハ今更喋々ヲ要セサル所ニシテ斯業ノ盛衰興廢ハ勿論生絲品質ノ改善進步ハ一ニ原料繭品質ノ善惡ニヨリテ其大勢ヲ決セラルルモノト云フモ敢テ過當ノ言ニアラス之ヲ既往ノ事蹟ニ徴シ又現在ノ事實ニ鑑ミルモ優等絲ヲ生産スル地方ハ產繭ノ品質佳良ニシテ製絲經濟ノ圓滿ナル地方ハ是亦原料繭ノ品位優良ナルヲ見テ知ルコトヲ得ヘシ故ニ製絲業ノ確實ナル發達ヲ計ラントセハ先ツ製絲家自ラ之カ陣頭ニ立チテ蠶繭品種改良ノ先導者トナルニアラスンハ到底實効ヲ舉クル能ハサルナリ又從ヒテ養蠶業ヲ安定ノ地位ニ置キテ益、改進ノ實ヲ舉クル能ハサルナリ洵ニ蠶絲業ハ製絲本位ニシテ之カ進步發展ノ中心點タルコトヲ忘ルヘカラス

彼ノ伊、佛ニ於ケル黃繭種ハ解舒佳良ニシテ繰絲工程進捗スルカ故ニ生産費ヲ減殺スルコトヲ得ルノミナラス繭形大ニシテ繭層厚ク絲長甚タ長キヲ以テ絲量豐富ナリ而シテ之ヨリ生産スル生絲ノ品位ニ至リテハ色澤並ニ抱合佳良ニシテ類節少ク強伸力亦豐富ナルカ故ニ之ヲ製絲經濟ノ上ヨリ見ルモ又生絲品質上ヨリ云フモ其ノ優良卓越ナル點ニ於テ恐ラク此ノ種ノ右ニ出ツルモノアラサルヘシ又支那種ハ解舒頗ル佳良ナルコト蠶種類中ニ冠タルモノニシテ生絲ノ品位ニ至リテモ絲色純白、光澤佳良ニシテ絲質又頗ル優良ナリ此ノ二種及ヒ是レカ交配種ハ本邦在來種ノ遠ク期得シ能ハサル所ノ優秀ノ資格ヲ具備スルコト到底同日ノ論ニアラス製絲上ヨリ論スルトキハ全國ノ產繭ヲ殆ト此ノ二種又ハ之カ交配種ニ改革統一シテ日本種ニ代ラシムヘシト云フモ過言ニアラス尙ホ之ヲ歐米機業界ノ狀勢ニ察スルニ從來伊、佛ヨリ米國ニ輸入スル黃繭絲ハ我カ白繭絲ノ飛切優等品ヨリモ遙カニ高價ヲ占メ一本經ノ原料トシテ歡迎セラレ居レリ若シ我カ黃

繭絲カ尙ホ一步ヲ進メテ其產額ヲ増加セハ必スヤ彼ノ販路ヲ凌駕シテ伊佛ノ蠶絲業カ今日以上ノ衰頹ヲ來スコトハ明カナル事實ナリサレハ近頃我國ノ蠶繭品種改良ノ現況ニ就キ彼國當業者ハ大ナル悲觀ヲ以テ目シツツアリト云フ然レトモ黃繭絲ハ之カ精練ヲ行フモ全ク純白トナスコト能ハサルカ故ニ本絲ノ特色ハ黒染ニ最モ染附艶麗ナルモ薄色又ハ白地織物トシテハ白繭種ニ及ハサルモノアリ又黃繭種ハ飼育稍困難ニシテ病毒ニ侵サレ易キ缺點ノ伴フアリ斯ノ故ニ本邦生産ノ生絲ヲ舉ケテ悉ク黃繭絲タラシムルコトハ策ノ得タルモノニアラスト雖モ支那種系統ノ白繭絲及本邦ノ優良種ト相半ハシテ益之カ改良發展ニ勉ムルヲ要ス

二、生絲品質ノ改良

(イ)色澤 色澤ハ生絲ノ一般品質ノ良否ヲトスル標識トモナルヘキモノナレハ佳良ナルコトヲ要ス殊ニ光澤ノ良否ハ延テ織物品位ニ關係ヲ及ホスモノナルカ故ニ蠶繭ノ品種ヲ選ミ製絲法ニ注意シテ絹絲固有ノ光澤ヲ飽クマテ發揮セシムルヲ要ス然レトモ其ノ絲色ニ至リテハ原繭品位ノ不良ヨリ來ルモノハ他ニ之ニ附隨シテ品質上幾多ノ弊害缺點ノ伴フモノアルカ故ニ大ニ忌ムヘシト雖モ製絲法ヨリ來ルモノ即チ煮繭法ノ如何並ニ繰湯交換ノ如何等ヨリ來リタル絲色ノ良否ハ敢テ意トスルニ足ラス寧ロ絲色ノ純白ヲ期センカ爲メ製絲法ニ異常ノ斟酌ヲ加ヘタルカ如キモノハ却テ幾多ノ弊害ヲ伴ヒ絲質ヲ不良化セシムルノ嫌アルカ故ニ深ク戒メサルヘカラス近時沈繰法ニヨル生絲ノ色澤ハ其ノ光澤ニ於テハ優良ナルモノ多クレトモ絲色ハ稍緒味ヲ帶フルヲ常トス然レトモ織物ノ工程及品位ノ上ニ於テ何等ノ影響ヲモ及ホササルモノト知ルヘシ

(ロ)絲質 生絲ノ抱合ノ良否ハ機械ノ工程ニ大ナル關係ヲ有シ額節ノ多少ハ獨リ機械ノ工程ニ止マラス織物ノ品位ニ至大ノ影響ヲ及ホスモノナリ強伸力ニ於テモ亦然リ而シテ織度ノ整齊及細ムラノ有無ハ特ニ機械ノ工程ニ大ナル關係ヲ有シ且織物品位ニモ其影響ヲ及ホスモノナルカ故ニ製絲工程ニ於テ十分ナル注意ヲ拂ハサルヘカラス織度ノ整否及細ムラノ有無ハ主トシテ工女技術ノ巧拙及管理上ノ完否ニヨリ決セラルルモノナレトモ額節及強伸力ト同シク原料繭品位ノ良否煮繭ノ巧拙繭ノ多少梓回轉ノ速度等一般繰絲上ノ注意ヲ怠ルヘカラス特ニ煮繭ノ巧拙ハ繰絲工程ノ難易絲量ノ多少ニ直接大ナル影響ヲ及ホスノミナラス絲質上ニモ抱合ノ良否額節ノ多少強伸力ノ増減等總テ煮繭ノ巧拙如何ニヨリテ決セラルルモノト云フモ敢テ不可ナキナリ然ルニ從來製絲業者ハ煮繭ニ重キヲ置カスシテ常識發達ノ程度低ク判斷力ノ鈍キ年少ノ工女ヲシテ煮繭兼業ヲナサシメ而カモ尙ホ專ラ力ヲ繰絲ニ注キテ煮繭ノ注意ハ敢テ顧ミサルカ如キ觀アルハ一般ニ認ムル所ナリ是レ實ニ製絲經濟上由々シキ大事ナリトス凡ソ製絲技術中最モ重大ニシテ且ツ其ノ妙技ヲ要スルハ實ニ煮繭法其モノナリ故ニ將來ハ宜シク煮繭分業法ニヨリ技術巧妙ニシテ其ノ濫奧ヲ極メタル熟達ノ技工ヲシテ其ノ任ニ當ラシメ以テ製絲經濟ヲ利スルト共ニ生絲品位ノ向上ヲ計ラサルヘカラス

(ハ)認ノ整理 生絲整理ノ目的ハ荷造運搬ハ勿論機械ノ工程ニ於テ認絲ノ取扱ニ便利ナラシメ併セテ其ノ間ニ於ケル絲質ノ保全ヲ期センカ爲メニ行フ工程ナルカ故ニ當業者ノ末業視スルカ如キ輕々ノ業ニアラス故ニ之カ完否如何ハ直ニ生絲ノ優劣價值ニ影響ヲ及ホスモノト云ハサルヲ得サレハ之ニ對スル最善ノ方法ニヨリ以テ機業家ニ満足ヲ與フルヲ要ス左ニ其ノ要點ヲ述フヘシ

認絲ノ絡交ハ絲條ヲ容易ニ乾燥セシメ且ツ絲條ノ紛亂錯綜ノ憂ヲ除キ以テ再繰工程ヲ容易ナラシムルニアルカ故ニ絲條ノ排列秩序正シク適當ノ角度ヲ以テ認巾ニ倣ヒ交又セシムルヲ要ス近時米國機業家ノ注文ニヨリ網綾ニ改メタルモノ多キハ一般ノ進歩ト云フコトヲ得ヘシ梓角ハ認絲ノ取扱中認巾ノ原形ヲ維持セシメテ終交ノ紛亂ヲ防クト同時ニ再繰中順次ニ絲條ノ解舒ヲ促スモノナルカ故ニ之カ固著甚シキトキハ再繰中絲條ノ切斷ヲ多カラシメ又全ク固著











○種畜ノ分

鑑定

一、概観 均稱、品位、性質

一、種畜價值 種類ノ特徴、血統、發育及ヒ健康状態

一、體軀ノ構成 頭及ヒ頸、胸、四肢及ヒ步樣、皮及ヒ毛

一、用途ノ目標 乳用、肉用、役用

調査

一、出品者ノ業況及ヒ功績 一、出品ノ受賞ノ有無 一、其他參考トナルヘキ事項

○種畜以外ノ分

鑑定

一、概観 發育及ヒ健康状態、均稱、性質、品位

一、體軀ノ構成 頭及ヒ頸、胸、四肢及ヒ步樣、皮及ヒ毛

一、用途ノ目標 乳用、肉用、役用

調査

一、出品者ノ業況及ヒ功績 一、出品ノ受賞ノ有無 一、其他參考トナルヘキ事項

本會ノ出品ハ殆ント本邦重要産牛地方ヨリノ粹ヲ盡シ點數相應ニ多ク而カモ其品質概シテ良好ニシテ當業者多年苦心ノ効歷然タルモノアリ實ニ本邦ニ於ケル産牛共進會博覽會中最モ盛況ヲ呈シタルモノナリト雖モ出品牛各個ニ就キテ仔細ニ之ヲ觀察スルトキハ未タ至ラサル所甚タ多ク或ハ種類ノ特徴特質ヲ維持シ或ハ能力ヲ發揮スル上ニ於テ將來改善ニ努力スルノ餘地大ナルヲ認メタリ以下出品牛ノ重ナル種類ニ就キ概評ヲ試ムヘシ

ホルスタインフリーシアン種及ヒ其雜種

本種及ヒ雜種ヲ併セテ五十頭ノ出陳ニシテ出品總數ノ四割二分ヲ占メ東京府ノ二十八頭ヲ以テ最多トス本種ハ本邦乳牛界ニ於ケル流行種ナルカ故ニ出陳頭數ノ最多ナル敢テ怪ムニ足ラスト雖トモ優秀群ヲ拔ケル北海道産ノ一牡牛ヲ除キテハ品質甚タ區々ニシテ牝牛ニ於テ特ニ優良ノモノヲ見ルコト能ハサリシハ大ニ遺憾トスル所ナリ今試ニ普通ノ缺點ヲ擧クレハ牡牛ニアリテハ或ハ肥大粗野ニ傾キテ乳牛ノ體型ヲ缺キ或ハ過細纖弱ニ陥リテ牡相ヲ失フアリ又ハ體構弛弱、中軀縱レテ均稱ヲ失シ又ハ後軀ノ構成不良ニシテ長サ、幅共ニ不十分ナルノミナラス著シク後方ニ傾斜スルモノアル等議スヘキモノ甚タ多シ牝牛ニアリテモ眞ニ本種ノ模範的體型ヲ示セルモノヲ見ルコト能ハス體軀ノ均稱不整ナル後部ノ發達不良ナル泌乳徵候ノ甚タ不十分ナル皆然ラサルモノナシ東京府大島及ヒ八丈島ヨリ出品セル雜種ニアリテハ體軀充實、營養頗ル佳良ニシテ體型亦略ホ相一致スルヲ見タリト雖モ之ヲ純粹種ニ比スレハ乳用牛ノ體型ニ於テ一步ヲ讓ルノミナラス乳徵モ著シカラス十字部亦狹短ナルヲ免レナルノ遺憾アリ斯ノ如キハ畢竟種畜ノ選抜未タ完カラス蕃殖上ノ技能ニモ足ラサル所アリ又育成ノ術ニ於テモ宜シキヲ得サルモノアルノ致ス所ニシテ今後益々種畜ノ選擇ヲ嚴ニシ配合ノ妙ヲ期スルト共ニ大ニ育成ノ技能ヲ練磨セサルヘカラス

エーアシャー種

本種ノ出品僅ニ十八頭、本邦乳牛界ニ於テ前種ト拮抗スヘキ良種トシテハ聊カ寂寞ノ感ナキ能ハス之レ一ハ東京地方ノ出陳前種ニ於テ甚タ多數ナリシニ反シ本種ニ於テ極メテ少數ナリシニヨルモノナリ出品數少シト雖モ其品質概シテ均齊ニシテ優良ノモノ亦少カラサリシハ稍意ヲ強フスルニ足レリト雖モ猶ホ體薄ク、骨細キニ過クルモノ、後軀ノ狹小ナルモノ、乳徵ノ顯著ナラサルモノ等觀過スヘカラサル缺點ヲ有スルモノ多ク未タ以テ意ヲ安ンスヘキ所以ニアラサルナリ

ジャージー種

乳牛中出品最モ少ナク其範圍亦殆ント東京ニ限ラレタルカ如キ觀アリ牝牛ニ一頭ノ優品ヲ見タルノ

外多ク論スヘキ價值ノモノヲ缺キ牡牛ノ如キハ後軀ノ不良ナル、四肢ノ薄弱ナル、背部ノ著シク凹陥セ  
ル等諸種ノ缺點甚タ多カリシヲ遺憾トス

デヴォン種及ヒ島根デヴォン種

全部島根縣ノ出品ナリ出品數少シト雖モ孰レモ相當ノ佳品ニシテ多年其ノ改良蕃殖ニ苦心セルノ跡  
ヲ認ハシム而シテ島根デヴォン種ノ名ヲ以テ出陳セラレタルモノハ實ハ「デヴォン種」ノ六回雜種ニシ  
テ役用トシテ「デヴォン種」ニ足ラサル諸點ニ改補ヲ加ヘ一新牛種ヲ成立セシメントスル同縣ノ改良牛  
ナリ原種ニ比シ體小ナリト雖モ體構一層緊縮シテ筋腱堅實ニ四肢剛健ニシテ能ク其ノ理想型ニ近キ  
モノヲ得タリト謂フヘシ唯出陳ノ一頭ニ過キサリシハ「島根デヴォン種」ノ特稱ヲ冠スルニ際シテ甚タ  
寂寥ノ感ナキ能ハス將來益々斯ノ範型ノ固定ニ努力シ速カニ同地方特産ノ一新種トシテ名實共ニ全  
キヲ得ルノ域ニ進マンコトヲ望ム

改良和種

之ニ屬スル出品十五頭中牝牛ハ僅ニ四頭ナリ牝牛ノ出陳少ナキハ今回各種ニ通シタル現象ナレトモ  
本種ニ於テ特ニ甚タシキヲ遺憾トス抑改良和種ト稱スルハ役肉用ニ適セシムルノ目的ヲ以テ種々改  
良ヲ加ヘラレタル牛ノ一類ナルガ故ニ名ハ即チ一ナリト雖モ生産ノ地方ニヨリテ夫々其ノ改良方針  
ニ多少ノ相異アルカ如ク牛ノ形質モ亦自カラ一様ナラサルモノニシテ今回兵庫、島取、廣島、愛媛ノ四縣  
ヨリ出陳セラレタル畜牛ハ實ニ能ク之ヲ實證ス本種出陳ノ四縣中島取縣ノ出品ハ點數最モ多ク又其  
品質概シテ佳良ニシテ特ニ光彩ヲ放チタルハ近時同縣ニ於ケル産牛改良ノ効著シキヲ證スルモノニ  
シテ慶賀スヘキコトト謂フヘシ同縣ハ素ト在來牛ニ僅ニ「ブラウンスキス」種ヲ混血シテ特ニ後軀ノ改  
善ヲ企テタルモノニシテ出陳牛ハ又大體上能ク體軀ノ均種ヲ得テ和牛ノ通弊トセル後部ノ缺點ヲ免  
レ而モ筋骨緊實ニシテ四肢亦強健漸ク改良ノ理想ニ近ツキツツアルノ徵ヲ認メタリト雖モ未タ混血  
的配合ノ要諦ヲ得サル所アルカ如ク體軀地弱ニシテ均稱ノ完カラサルモノ猶決シテ尠ナラサルカ

故ニ將來ニ於テハ更ニ一層種畜ノ配合ニ意ヲ用ヒ理想ノ範型ヲ固定スルコトニ努力スヘシ廣島縣ノ  
出品ハ外國種ノ血液ヲ混スルコト極メテ少キカ如シト雖モ能ク其ノ地方在來牛ノ缺點ヲ捨テ役肉用  
牛トシテ體軀整齊、四肢堅剛、角亦美ナル等優良品タルヲ失ハス而シテ兵庫縣ノ出品ハ略ホ島取縣ノ出  
陳牛ニ類シタリト雖モ而モ之ニ及ハサル所アリ愛媛縣ノ出品ニ至リテハ更ニ一段ノ下位ニアルヲ免  
レス要スルニ改良和種牛ノ前途ハ未タ甚タ遠遠ナルカ故ニ夫々各地ノ特別ナル要求ニ適應シテ益々  
其ノ改善ノ途ヲ攻究シ又適度ニ其ノ固定ノ方法ヲ講シテ遂ニ地方特産ノ一牛種トシテ速ニ其ノ成立  
ヲ期スルコト緊要ナリ

内國種、デヴォン種、シムメンタール種及ヒ雜種

總數十九頭孰レモ肥育牛トシテ出品セラレタルモノニシテ山口縣、滋賀縣及ヒ東京府ノ出陳其ノ主ナ  
ルモノナリ山口縣ノ出品ハ「デヴォン種」雜種牝牛ヲ肥腴セルモノニシテ其體量一百十七貫ヨリ一百五十  
八貫ニ至リ骨稍大ナリト雖モ肥膩ノ狀均齊平滑ニシテ外觀概ネ佳良ナルヲ見ル滋賀縣及ヒ東京府ノ  
出品ハ中國産ノ和種牝牛ヲ肥育セルモノニシテ體量前者ヨリ重ク小ナルモ一百三十貫大ナルハ一百  
七十七貫ヲ算ス骨細シト雖肥膩ノ狀多クハ不齊ニシテ中ニハ脂肪體軀ノ諸部ニ沈積シテ團塊狀ノ膨  
隆ヲナシ著シク外形ノ均美ヲ損セシノミナラス其ノ觸感膨軟ニシテ肉質ノ緊實ヲ缺クモノ尠カラサ  
ルヲ認メタリ、肥育牛ノ優劣ハ固ヨリ屠肉ノ比較ニ俟タサルヘカラスト雖モ單ニ外觀ノ審査ニヨリテ  
之ヲ按スルモ猶牛種ノ選擇適齡ノ鑑定、飼養管理ノ方法等各種肥育上ノ技術ニ就キテハ今後益々研究  
ヲ重ネ經驗ヲ積マサルヘカラサルノ要甚タ大ナルヲ想ハシム更ニ當業者諸氏ノ奮勵ヲ望ムコト切ナ  
リ  
其他ノ種類ニ至リテハ朝鮮種ノ品質稍賞スルニ足レリト云フノ外點數少クシテ特ニ論評スヘキコト  
ナシ

二、豚

本會豚ノ出品ハ「ヨークシャー」種十一頭、「ヨークシャー」雜種二頭、「パークシャー」種九頭ニシテ東京府、神奈川縣、千葉縣、宮城縣ノ關東地方ヨリノミ出陳セラル出品豚頭數ヲ種類別、性別、府縣別ニ表示スレハ左ノ如シ

出品豚種類別、性別、府縣別表

種 類	東京府		神奈川縣		千葉縣		茨城縣		小 計		合計
	頭數	牝	頭數	牝	頭數	牝	頭數	牝	頭數	牝	
ヨークシャー種	1	1	4	1	1	1	3	1	3	1	11
ヨークシャー雜種	2	2	1	1	1	1	1	1	3	1	2
パークシャー種	1	1	1	1	1	1	1	1	3	1	9
合計	4	4	6	3	3	3	6	4	9	6	22

府 縣	出品人員	出品點數	名 大賞牌					計	出品人員ニ對スル擬賞歩合
			金牌	銀牌	銅牌	褒狀	計		
東京府	6	8	1	1	1	3	6	100.0	
神奈川縣	3	3	1	1	1	3	3	100.0	
千葉縣	8	9	1	3	1	5	6	75.5	
茨城縣	2	2	1	1	1	3	2	100.0	
合計	19	22	4	6	4	15	15	77.9	

審査ハ總體審査、個體審査、比較審査ノ三種ニ別テ豫メ定メタル審査ノ項目ニヨリテ各頭ニ就キ仔細ニ評點ヲ行ヒ比較的優良品ト認メタルモノヨリ總計十五頭ヲ選拔シ金牌一頭、銀牌四頭、銅牌五頭、褒狀五頭即チ出品人員ニ對スル七割九分ノ擬賞ヲナセリ擬賞數ノ府縣別表並ニ出品豚ノ審査項目ハ左ノ如シ

府縣別擬賞表

鑑定

- 一、概觀 均稱、品位、性質
- 一、種畜價值 種類ノ特徴、血統、發育及ヒ健康狀態
- 一、體軀ノ構成 頭及ヒ頸、胴、四肢及ヒ步樣、皮及ヒ毛
- 一、用途ノ目標 肉用

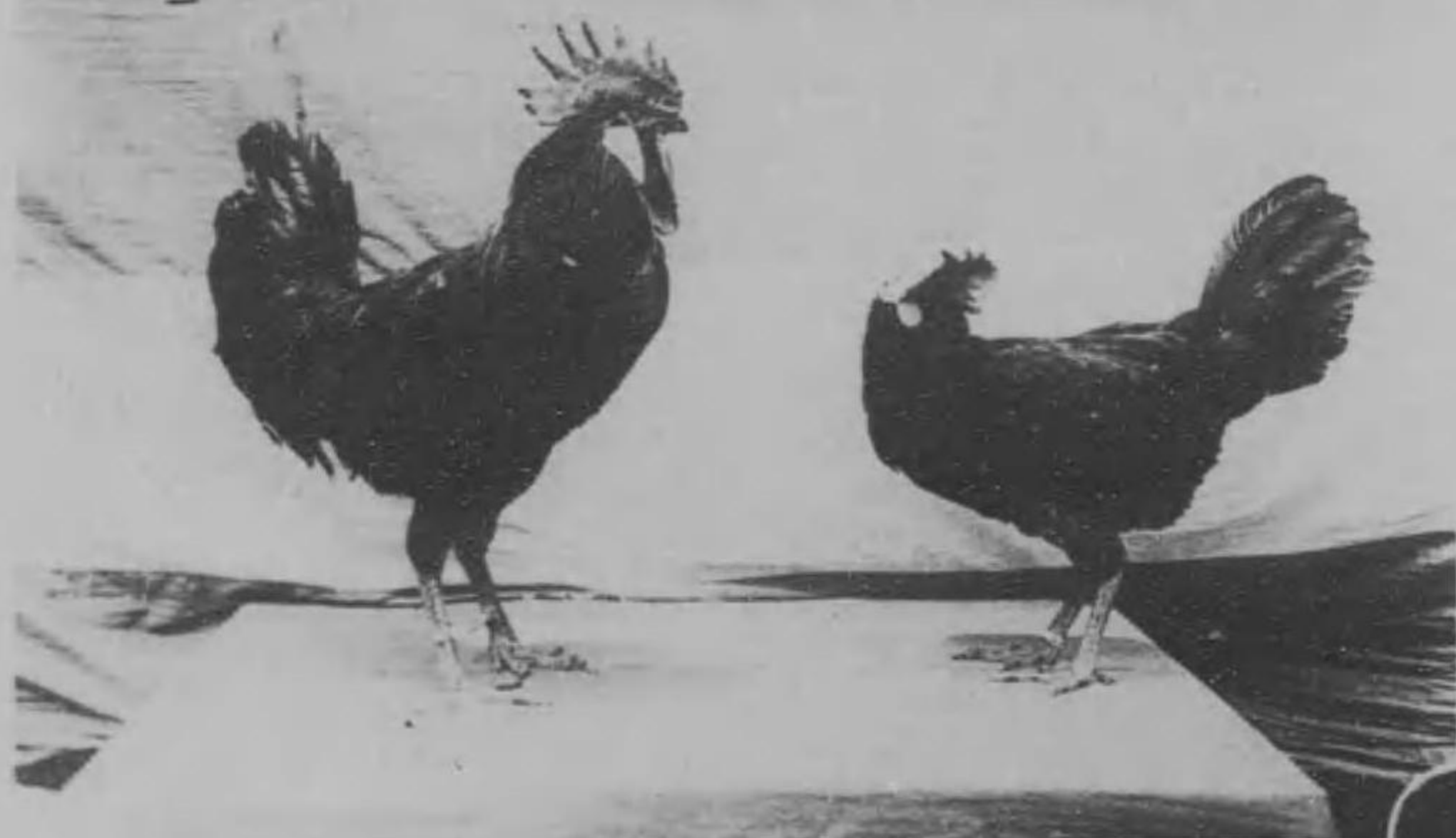
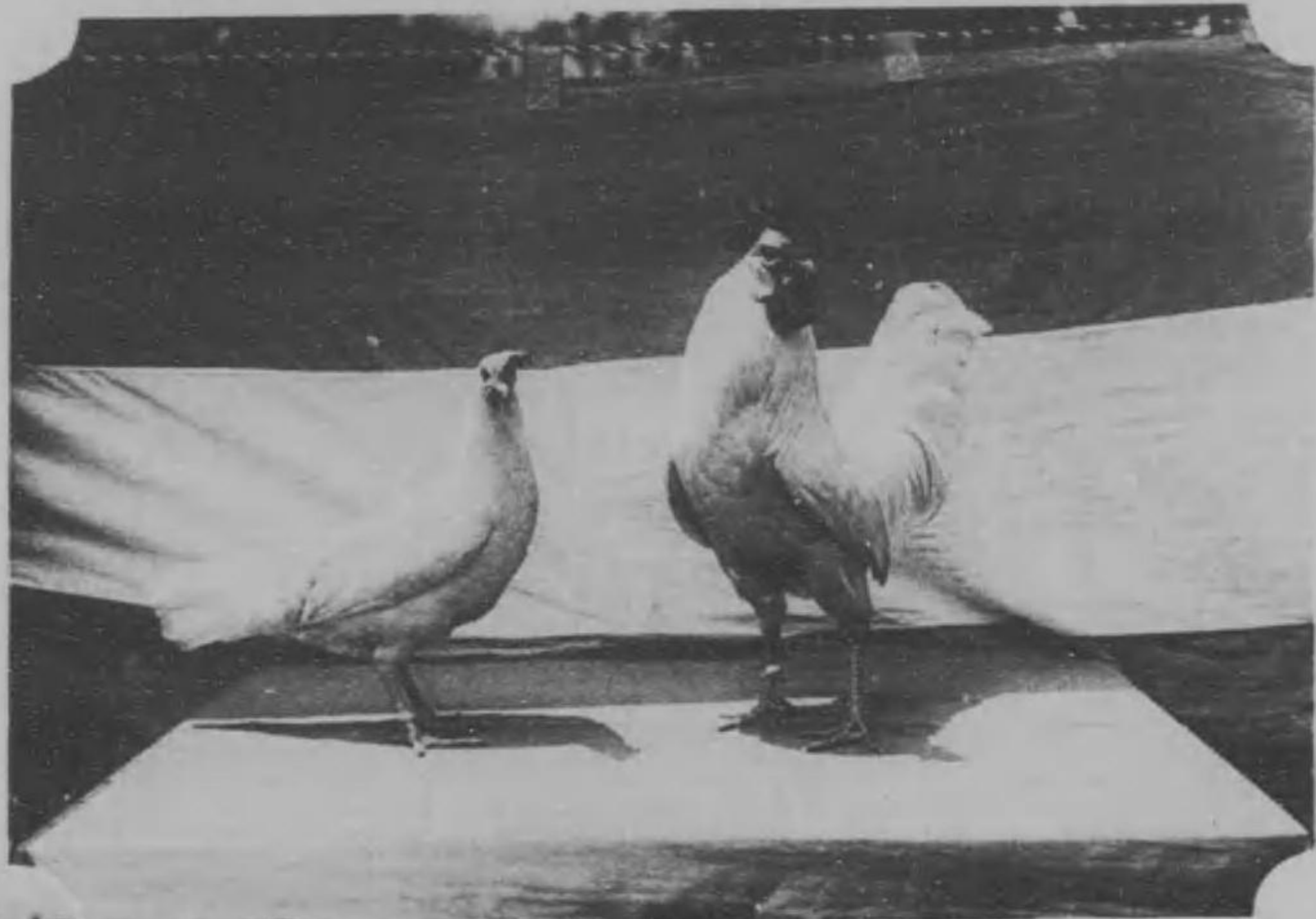
調査

一、出品者ノ業況並ニ功績 一、出品ノ受賞ノ有無 一、其他參考トナルヘキ事項  
 近時養豚業ノ發達スルニ從ヒ本邦養豚ノ品質一般ニ進歩シ今回ノ出品亦概シテ良好ニシテ良ク改善ノ跡ヲ窺フコトヲ得タリト雖モ出品數極メテ少ク而モ關東一府三縣ノ出陳ニ限ラレタルハ實ニ遺憾ナルコトト謂フヘシ出品ヲ概觀スルニ種類トシテハ「ヨークシャー」種ニ於テ點數多ク又優品ヲ見タリト雖モ「パークシャー」種ニアリテハ出品數少ク其ノ品質ノ程度亦佳良ナラサリシカ如シ而シテ二種類ヲ通シテ各其ノ特徴略ホ備ハリ飼養管理ノ方法ニ於テモ亦稍、改進ノ徵ヲ認メタルハ喜フヘキ現象ナリト雖モ猶營養度ヲ失シテ蕃殖能力ヲ損セルアリ或ハ體構粗野ニシテ品位ニ乏シキアリ又ハ中軀弛弱ニシテ背線沈下シ或ハ後軀ノ發育不良ニシテ殊ニ十字部ヨリ後方ニ急斜シ肢端ノ極メテ纖弱ナルモノアル等改良ヲ要スルノ諸點甚タ少カラサルヲ思ハシム蓋シ養豚業ハ美味ノ良肉ヲ廉價ニ且迅速ニ生産スルヲ以テ其ノ特質トシ本邦ノ如キ國民ノ肉食急進シテ其程度將來益々激甚ナラントスルノ所ニ於テハ專業トシ又副業トシテ大ニ之レカ發達ヲ圖リ以テ肉ノ潤澤ナル供給ニ努メ又幾分國內ニ於ケル肉價ノ調節ニ資スルコト肝要ナリ

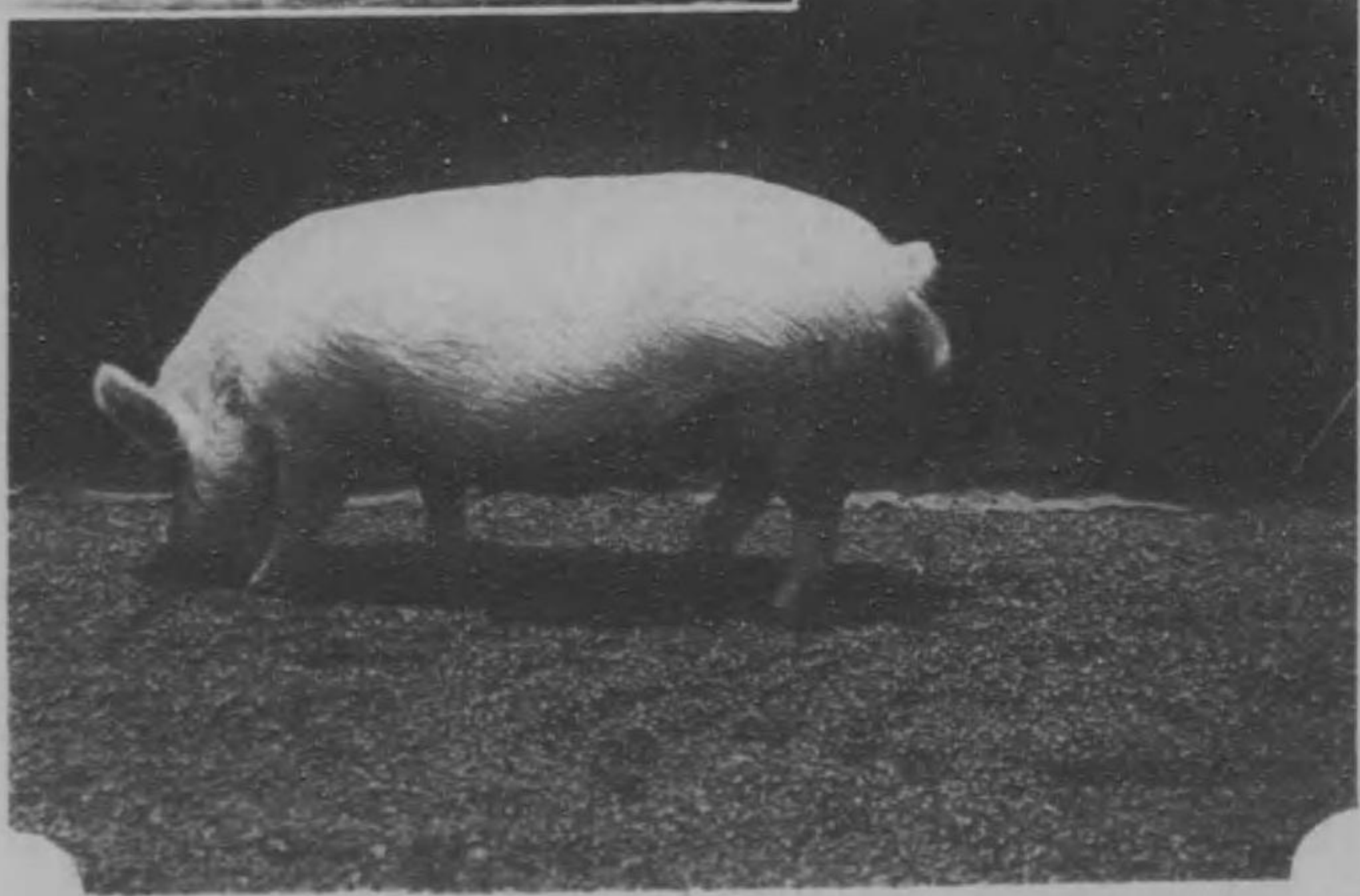
三 山 羊

山羊ノ出品ハ東京府ヨリノミニシテ其數僅ニ六頭ナリ其種類別、性別ハ左表ノ如シ

種ソーホグレ色白冠單品出咲放暮木縣馬群



黑色ミノルカ種  
群馬縣中澤福造出品



牝種一ヤシク一ヨ品出輔謙里宮縣葉千

出品山羊種類別、性別表

種別	ザーネン種	スビア種	ブルツゲン	シユワルツ	小計	合計
東京府頭數(牝)	二	一	一	一	三	六
計	三	一	一	一	三	六

審査ハ總體審査、個體審査、比較審査ヲ行ヒ審査項目ヲ定メテ各頭ニ就キ夫々評點ヲ採リ就中優良品ト認メタルモノ五頭ヲ選擇シ銀牌一頭、銅牌三頭、褒狀一頭即チ出品人員ニ對スル十六割七分ノ擬賞ヲナセリ之ヲ表示スンハ次ノ如シ

擬賞等級表

東京府	出品人員	出品點數	名譽大賞牌	金牌	銀牌	銅牌	褒狀	計	出品人員ニ對スル擬賞割合
計	三	六	—	—	一	三	一	五	一六・七
山羊ノ審査項目ハ左ノ如シ	三	六	—	—	一	三	一	五	一六・七

鑑定

- 一、概観 均稱、品位、性質
- 一、種畜價值 種類ノ特徴、血統、發育及ヒ健康狀態
- 一、體軀ノ構成 頭及ヒ頸、胴、四肢及ヒ歩様、皮及ヒ毛
- 一、用途ノ目標 乳用、肉用

調査

一、出品者ノ業況並ニ功績 一、出品ノ受賞ノ有無 一、其他參考トナルヘキ事項

本會出品ノ山羊ハ頭數少キニ對シテ「ザーネン」「スビア」「トツゲン」「ブルグ」「シユワルツ」ノ四種類ヲ算シ恰モ一種一點標本ヲ列ヘタルカ如キノ觀ヲ呈セリ加之各種共ニ乳用ニ屬スレトモ「ザーネン」種ノ

一牝山羊ヲ除キテハ概シテ乳微著シカラス又其ノ品質上特ニ優秀ノモノヲ見ルコト能ハサリシハ實ニ遺憾ニ堪ヘサル所ナリ此ノ如キハ畢竟乳用山羊トシテ廣ク實用ニ飼育セラレサルノ趨勢ニ基クモノナリト雖モ乳用山羊ハ素ト本邦ノ事情ニ好適スル特質ヲ有スルモノニシテ副業ニ之ヲ飼養スルトキハ其ノ生産物ニヨリテ收益ヲ増進シ殊ニ家庭用トシテハ日常新鮮ニシテ美味ナル滋養飲料ヲ安全ニ需メ得ルノ利便アルカ故ニ將來ニ於テハ更ニ適所ニ之カ飼養ヲ獎勵シ又品質上種々改善ノ工夫ヲ凝ラシ以テ斯業ノ發達ヲ期セサルヘカラス

### 第四十四類 家禽及蜜蜂

主任、農學博士 岩 住 良 治  
 報告員 石 崎 芳 吉

#### 一 家 禽

本會ニ於ケル家禽ノ出品ハ一百九十五點、其ノ羽數四百七羽即チ雄一百九十五羽、雌二百十二羽ニシテ東京、神奈川、埼玉、群馬、千葉、茨城、愛知、長野、宮城、秋田、高知ノ一府十縣ヨリ出陳シ、鷄十七種、吐綬鷄一種、鶩一種、鴛一種、鴨一種ヨリ成レリ、出品家禽ヲ種類及ヒ出品府縣ニヨリ細別スレハ左表ノ如シ

出品家禽種類別府縣別表

府 縣 名	種 類	種 目	東京府		神奈川縣		埼玉縣		群馬縣		千葉縣		茨城縣		愛知縣		長野縣		宮城縣		秋田縣		高知縣		合 計			
			數點	羽數	數點	羽數	數點	羽數	數點	羽數	數點	羽數	數點	羽數	數點	羽數	數點	羽數	數點	羽數	數點	羽數	數點	羽數	數點	羽數	數點	羽數
單冠白色レグホーン種	單冠白色レグホーン種	單冠白色レグホーン種	九	九〇																								
			一	一																								
薔薇冠白色レグホーン種	薔薇冠白色レグホーン種	薔薇冠白色レグホーン種	一	一																								
			一	一																								
單冠褐色レグホーン種	單冠褐色レグホーン種	單冠褐色レグホーン種	二	二																								
			二	二																								
黑色レグホーン種	黑色レグホーン種	黑色レグホーン種	一	一																								
			一	一																								
アンダールシアン種	アンダールシアン種	アンダールシアン種	三	三																								
			三	三																								
單冠アンコナ種	單冠アンコナ種	單冠アンコナ種	二	二																								
			二	二																								
計			二〇	二〇	二	二	六	六	一	一	五	五	二	二			三	三	一	一	一	一	五	五	四	四		
雄			二	二	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
雌			一八	一八	一	一	五	五	一	一	四	四	一	一			二	二	一	一	一	一	四	四	三	三		
計			二〇	二〇	三	三	六	六	二	二	五	五	二	二			三	三	二	二	二	二	五	五	四	四		





一、利用價值 卵用、肉用、愛翫用  
調査

一、出品者ノ業況及ヒ功績 一、出品ノ受賞ノ有無 一、其他參考トナルヘキ事項  
本會出品ノ家禽ハ羽數頗ル多ク而モ品質上一般ニ改善ノ微顯著ニシテ出陳府縣ノ家禽業上近時一段  
ノ進歩アルコトヲ示セリト雖モ出品中ニハ其體型羽色ニ於テ諸種ノ缺點ヲ有スルモノ尠少ナラス而  
モ出品ノ種類ハ極メテ雜多ニシテ鷄、吐綬鷄、鶩、鴨ノ五類ヲ合シテ二十一種類ヲ算シ其ノ内種ヲ通計  
スルトキハ實ニ三十四種ノ多キニ上リテ聊カ本邦知名ノ禽種ヲ網羅セントスルニ努メタルヤノ觀ヲ  
呈シタリシハ各地ニ於ケル斯業發達ノ程度猶未タ十分ナラサルヲ證スルモノニシテ將來更ニ諸種改  
良ノ方法ヲ攻究シ奮勵努力以テ速ニ隆盛ノ域ニ邁進スヘキノ要多大ナルヲ認メタリ  
出品中ノ重ナルモノハ「レグホーン」種、「ミノルカ」種、「アングダルシアン」種、「ブリマスロツク」種、「オービントン」種  
「コーチン」種及ヒ長尾鷄ノ七種ナリ左ニ此等ニ就キテ概評ヲ試ムヘシ

レグホーン種

單冠白色種、薔薇冠白色種、單冠褐色種ヨリ成リタレトモ單冠白色種其ノ主要ナルモノニシテ又各種出品  
中點數最モ多ク而モ體貌能ク整備シ風姿ノ優美ナルモノ尠カラズ優物ニ富メルコトニ於テモ亦之ヲ  
以テ第一トス然リト雖モ雌雄ノ配合宜シキヲ得サルモノ、尾羽ノ形勢不良ナルモノ、肉冠、肉髯、耳朶等其  
ノ他頭部ノ完カラサルモノ、羽色ノ汚損セルモノ、脚色ノ良好ナラサルモノ等種々缺點尠カラサルヲ見  
タリ單冠褐色種ニ至リテハ殆ント優良ナリト認ムヘキモノヲ缺キ羽色ノ濃厚ナリシコト尾羽ノ起立  
高キニ過キタルコトヲ其ノ重ナル缺點トナセリ將來宜シク此等外貌上ノ缺點ヲ改良スルト共ニ雌雄  
ノ配合ヲ愆ラサルニ昂メ又殊ニ出陳中ノ管理法ニ就キテハ更ニ一層ノ意ヲ用キンコトヲ望ム  
ミノルカ種

黑色種ノミニシテ卵用種ノ出品中「レグホーン」種ニ亞キテ點數多シ體構均整ニシテ容姿亦美ナルノ出

品存セサルニアラスト雖モ概シテ品質ノ優レサルヲ見タルハ遺憾ナルコトナリ頭部膨大ニ過キタル  
コト脚長ク體軀前ニ傾キ屈ムカ如キ姿勢ヲナセルコト尾羽ノ起立不良ニシテ多ク前方ニ叢生セルコ  
ト等ヲ一般ニ通シタル缺點トシ益々改良ヲ緩ニスヘカラサルヲ覺ヘシム而シテ本種出品中ニハ肉冠  
肉髯ヲ損傷シ尾羽背羽ヲ毀損脱落セルモノ著シク多ク而モ甚タシキハ尾羽其ノ他ニ就テ竊ニ細工ヲ  
施シ缺點ノ陰蔽ヲ企テタルノ形跡アルヲ見タルハ實ニ大ナル恨事ニシテ今後特ニ警戒ヲ要スル所ナ  
リ其形體ニ於ケル自然ノ損傷ハ畢竟日常管理法ノ至ラサルニ基クモノナルヲ以テ速ニ之カ改善ニ工  
夫ヲ回ラスコト肝要ニシテ稍、恕スルニ足ルヘシト雖モ故意ニ缺點ヲ陰蔽セントスルニ至リテハ假令  
美觀ノ全キヲ希フノ極ニ出ツルノ策ナリト雖モ蓋シ大ナル弊風ニシテ嚴ニ之ヲ戒メサレハ終ニ斯業  
ノ發達ヲ阻害スルニ至ルヘシ

アングダルシアン種

點數僅ニ五點其ノ體格羽色一般ニ良好ナラス特ニ概評ヲ行フノ餘地ナシ  
ブリマスロツク種

連班種ヲ重ナルモノトス「レグホーン」種ニ亞キ出品多數ナリシト雖モ割合優物ニ乏シカリシハ遺憾ナ  
ルコトナリ出品中ニハ發育ノ十分ナラサルモノ、體構ノ整備セサルモノ、尾羽ノ不良ナルモノ、羽色斑紋  
ノ完備ナラサルモノ等尠少ナラス而モ雌鷄ノ背羽脫失シテ著シク醜觀ヲ呈シタルノ出陳特ニ多キヲ  
見タルハ實ニ本種ノ爲メニ惜ムヘキ所ニシテ將來右等諸種ノ缺點ヲ改善シ品質ノ向上ニ努力スルト  
共ニ出陳鷄ノ準備ニ就キテモ猶大ニ考慮ヲ用フヘキノ要切ナルモノアルヲ認メタリ

オービントン種

黑色種ノミノ出陳ナリ點數少ク又概シテ普通品ニシテ其ノ體型ト肉冠、尾羽及ヒ脚トニ缺點ヲ有スル  
モノ多數ナリ更ニ一段ノ改善ヲ望マサルヲ得ス

コーチン種

本種ニ屬スル「バフ」色、白色、名古屋ノ三内種出品中主要ナルモノハ名古屋種ナリ而シテ該種今回ノ出陳總數二十點中其ノ原產地タル愛知縣ヨリノ出品ハ實ニ九割ノ多キヲ算シ殊ニ其ノ體型羽色ノ如キ漸次固定セントスルノ傾向ヲ示シ本邦原産ノ優良ナル卵肉兼用種トシテ漸ク世人ノ注意ヲ惹起スルニ至リタルハ大ニ欣賀スヘキノ狀況ナリト雖モ脚羽、脚色等其他ノ形質ニ於テ未タ完カラサル所多キカ故ニ今後益々奮勵改良ノ事ニ從ヒ其ノ範型特長ノ發達ニ努力スルコト緊要ナリ

長尾鶏

本種ハ愛翫鶏中世界ノ珍トシテ夙ニ賞讚ヲ博セル所ニシテ今回之カ出品ハ家禽陳列場中實ニ一偉觀ヲ添ヘタルヲ見ル蓋シ其ノ原產地タル高知縣ヨリ多數ノ出陳アリ而モ其ノ諸羽、翼羽概ネ著シク發達シテ外貌頗ル壯麗能ク特長ヲ發揮シタリト雖モ體型、羽色未タ備ハラサルノミナラス肉冠及ヒ脚趾ニ於テ亦少カラサル缺點アルヲ見ル須ク現狀ニ甘ンセス更ニ大ニ蕃殖、育成、飼養管理上ノ技能ヲ練リ益々本種ノ特長ヲ改善シ又之カ羽數ノ増加ヲ圖リテ永ク本邦ノ特産トシテ其ノ名聲ヲ失墜セシメサランコトヲ期スヘシ

此他ノ種類ニ至リテハ孰レモ僅少ナル出品ニシテ品位亦概ネ良好ナラス一々論評スヘキ價值アルモノニアラサルナリ

要之近時本邦ニ於ケル鶏卵鳥肉ノ需要ハ日ニ月ニ益々増進シテ其ノ勢頗ル急ナリト雖モ本邦家禽業進歩ノ度極メテ遅々トシテ著シク其ノ生産力ヲ増加セサルカ故ニ卵肉ノ供給ハ常ニ大ナル不足ヲ告ケ其ノ價額ハ徒ニ昂騰シ爲メニ年々多額ノ鶏卵ヲ輸入スト雖モ其ノ趨勢ハ停止スル所ヲ知ラサルノ景況ナリ專業副業トシテ益々斯業ノ發達ヲ企圖シ速ニ其ノ生産力ヲ増大シテ卵肉ノ潤澤ナル供給ヲ期スルノ要ハ蓋シ焦眉ノ急ヲ告グルモノト謂フヘシ

二 蜜 蜂

本會蜜蜂ノ出品ハ十一點ニシテ東京府、和歌山縣及ヒ朝鮮ヨリ之ヲ出陳シ其ノ重ナル種類ハ「イタリア

ン」種、「カーニオラン」種、「サイブリア」種、「日本蜂」及ヒ「朝鮮蜂」ナリ之ヲ種類別府縣別ニ表示スレハ左ノ如シ

出品蜜蜂種類別府縣別表

種 類	東京府	和歌山縣	朝 鮮	計
イタリアン種	四	二	一	七
カーニオラン種	一	一	一	三
サイブリアン種	一	一	一	三
雜 種	一	一	一	三
日 本 蜂	一	一	一	三
朝 鮮 蜂	一	一	一	三
合 計	八	二	一	一一

而シテ各出品ニ就キ審査ノ項目ヲ一々仔細ニ調査檢閲シテ評點ヲ附シ其ノ成績ノ良好ナルモノ五點ヲ選拔シ二點ニ銅牌、三點ニ褒狀即チ出品人員ニ對スル四割五分ノ擬賞ヲ行ヘリ擬賞數ノ府縣別表左ノ如シ

擬賞數府縣別表

府 縣	出品人員	出品點數	名譽大賞牌	金牌	銀牌	銅牌	褒狀	計	出品人員ニ對スル擬賞割合
朝 鮮	一	一	一	一	一	一	一	一	一〇〇
東 京 府	八	八	一	一	一	一	一	三	三・八
和 歌 山 縣	二	二	一	一	一	一	一	二	一〇〇
計	一一	一一	二	二	二	二	三	五	四・五

蜜蜂ノ審査項目ハ次ノ如シ

鑑 定

- 一、種類ノ特徴
- 一、蜂群ノ強弱並ニ性質
- 一、母蜂ノ良否
- 一、巢脾ノ整否
- 一、貯蜜ノ多少
- 一、管理ノ方法

調査

一、出品者ノ業況及功績 一、出品ノ受賞ノ有無 一、其他參考トナルヘキ事項

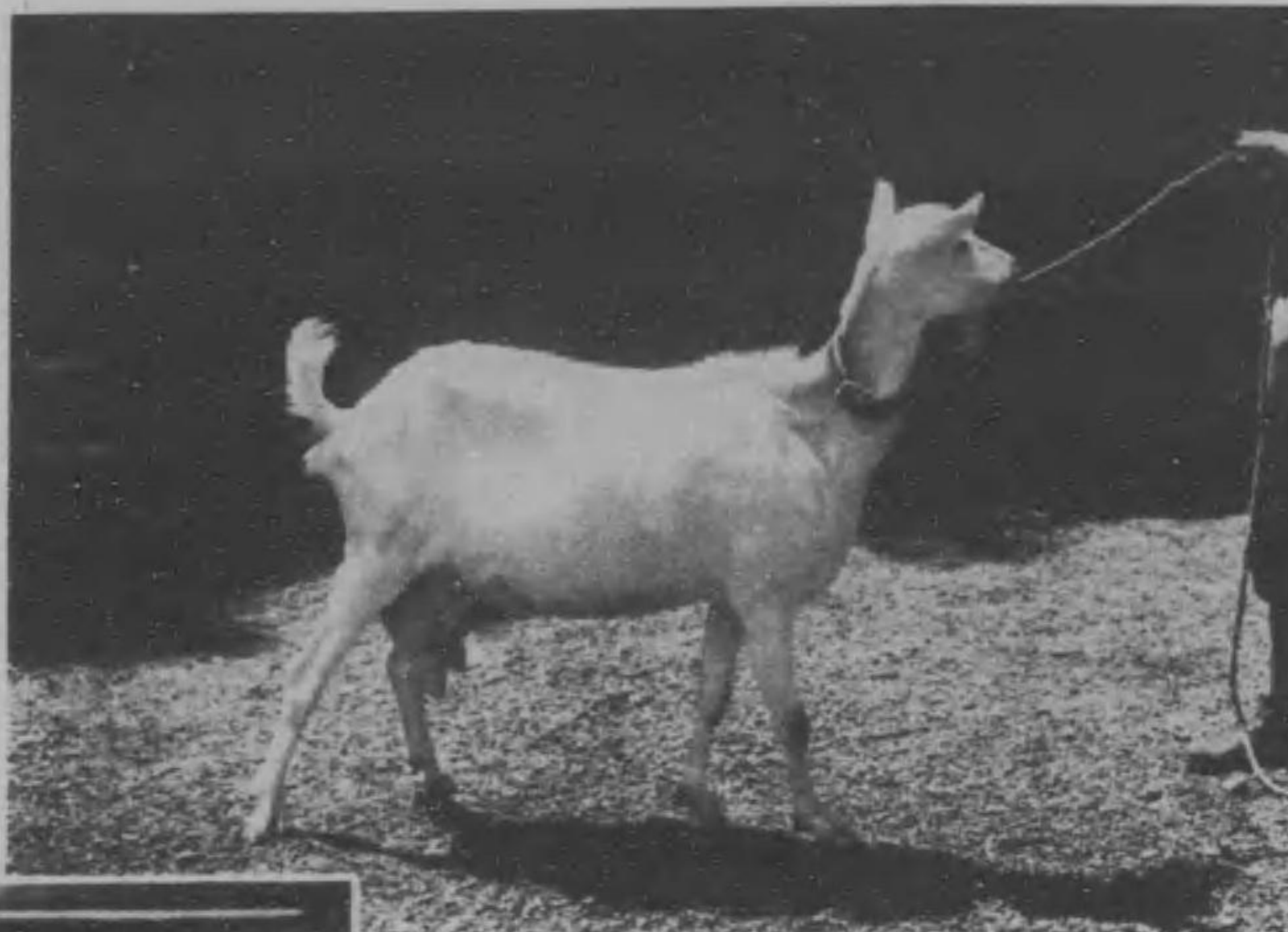
出品ノ蜜蜂ハ點數ノ僅少ナルニ對シテ種別割合ニ多ク而モ東京、和歌山以外廣ク本邦養蜂地方ノ出品ヲ見ルコト能ハサリシハ大ニ遺憾トスル所ナリ出品ヲ概觀スルニ殆ント優等品ト稱スヘキモノナク或ハ母蜂ノ體型種類ノ特徴ニ伴ハサルアリ或ハ母蜂著シク退化シテ往々雜種ニアラサルヤヲ想ハシムルモノアリ或ハ巢脾ニ於ケル貯蜜量少キニ過キ蜂群將ニ全滅ニ陥ラントスルモノアリ或ハ幼蟲及産卵面ノ著シク少ナルモノアリ或ハ巢脾ノ構成整正ナラサルアリ或ハ巢蟲ノ侵害甚タシキモノアリ或ハ巢箱ノ構造上華美ナル體裁ヲ好ミテ實用ニ適セサルニ至レルモノアル等蜂群トシ又巢箱トシテ速ニ改良ヲ要スルノ諸點枚舉ニ遑アラサルカ如シ抑養蜂ハ本邦農家ノ副業トシテ有利ナルモノノ一ニ屬シ其生産スル蜂蜜及蜂臘ハ食料品トシ又工業用原料トシテ其需要頗ル廣汎ニシテ國民衣食ノ度ノ上進ニ伴ヒ愈、其ノ供給多キヲ要スルモノナリ集蜜力ノ優レタル種類ヲ選ミテ適地ニ數箱ヲ副業ニ飼養シ而シテ各地ノ風土氣候ト蜜源植物ノ分布如何トヲ斟酌シテ適宜其ノ管理法ヲ攻究シ今回出品ニ於ケル諸缺點ノ如キ速ニ之ヲ改良シテ産蜜ノ增收ニ努ムルトキハ斯業ハ期セスシテ健全ナル發達ヲナシ國家ヲ利益スル所決シテ尠ナラサルヘシ

第四十五類 愛翫動物

一、犬、狎猫

我國ノ博覽會、共進會ニ犬、狎猫ノ出品ヲ見タルハ本會ヲ以テ嚆矢トス犬ハ東京府、神奈川縣、茨城縣、秋田縣ヨリ出陳シ其ノ總數八十四頭ニシテ二十四種類ヨリ成リ狎ハ東京府及愛知縣ヨリ十一頭ヲ出品シ猫ハ總數五頭ニシテ三種ヨリ成リ東京府ノミノ出陳ニ係ル今出品犬、狎猫ノ種類別、性別、府縣別ヲ表示スレハ左ノ如シ

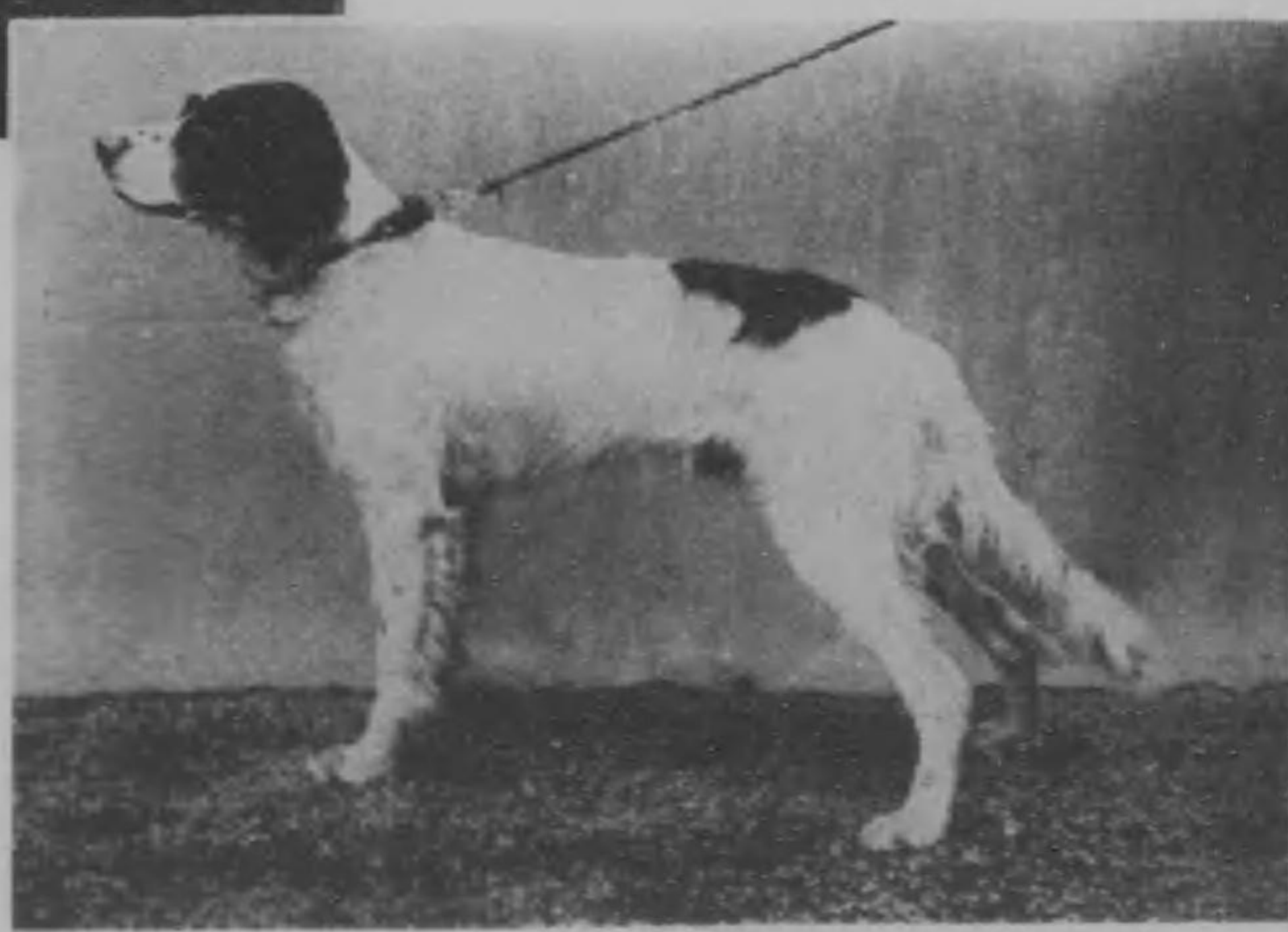
主任、農學博士 岩 住 良 治  
報 告 員 石 崎 芳 吉



ザーネ二種(牝)東京府阪川登出品



狎(牡)愛知縣鈴木理三郎出品



品出郎二龜島市府京東(牡)種一タツセシリゲンイ

種類別、性別、府縣別表  
犬

種	類	東京府	神奈川縣	茨城縣	秋田縣	小計	合計
アイリシ、セツター種	種	九	一	一	一	六	一〇
イングリシ、セツター種	種	四	一	一	一	六	一〇
ゴルドンセツター種	種	四	一	一	一	六	一〇
イングリシ、ポインター種	種	四	一	一	一	六	一〇
ビーグル種	種	三	一	一	一	六	一〇
ブラック、アラット、コ	種	一	一	一	一	四	二
テッド、レトリバー種	種	一	一	一	一	四	二
スパニエル種	種	一	一	一	一	四	二
アイリシ、ウオールド	種	一	一	一	一	四	二
イスパニエル種	種	一	一	一	一	四	二
ジャーマン、ポインター種	種	一	一	一	一	四	二
ダックスフンド種	種	一	一	一	一	四	二
コリ種	種	一	一	一	一	四	二
グレイハウンド種	種	一	一	一	一	四	二
ボルゾイ種	種	一	一	一	一	四	二
フォックス、テリヤー種	種	一	一	一	一	四	二
フォックス、テリヤー種	種	一	一	一	一	四	二
グレイトデーン種	種	一	一	一	一	四	二
ブルドック種	種	一	一	一	一	四	二
ブルテリア種	種	一	一	一	一	四	二
ボストンテリア種	種	一	一	一	一	四	二
秋田犬	種	一	一	一	一	四	二
樺太犬	種	一	一	一	一	四	二
合計		二〇	一	一	一	二四	二四



一、體軀ノ構成 頭及頸、胴、四肢及步機、皮及毛  
 一、利用價值 獵用、番用、愛翫用、鬪用  
 調査

一、出品者ノ業況及功績 一、出品ノ受賞ノ有無 一、其他參考トナルヘキ事項  
 本會出陳ノ犬ハ獵用種其ノ主ナルモノニシテ出品ノ大部ヲ占メ此ノ他番用、鬪用、護羊用、愛翫用、及輓車  
 用等諸種ノ犬種ヲ網羅シ執レモ人ノ娛樂、社會ノ安寧、業務ノ補佐等人類ノ生存上必要缺クヘカラサル  
 家畜トシテ審ニ其ノ比較研究ヲ行ヒ又廣ク公衆ノ觀覽ニ供シテ其ノ參考ニ資スルヲ得タルハ其ノ利  
 益頗ル宏大ニシテ實ニ慶賀スヘキ現象ナリト雖モ「マスチフ」「セントバーナード」「アラッド」「ハウンド」「ダ  
 ルマシアン」「スカイテリヤ」「バツグ」「チヨウチヨウ」等ノ如キ既ニ本邦ニ著名ナル犬種ノ出品ヲ見ルコト能  
 ハサリシハ遺憾トスル所ナリ出品ノ和犬中土佐犬ハ鬪力ヲ増サンカ爲メ「ブルドッグ」「マスチフ」「セント  
 バーナード」等ノ血液ヲ混入シタルニヨリ同犬固有ノ特徴ヲ失ヘルモノ多ク遺憾尠カラサリシト雖モ  
 樺太犬、秋田犬ハ之ニ反シテ能ク其ノ特種ノ外貌ヲ保有セルヲ見ル而シテ洋犬ハ點數甚タ多キヲ占メ  
 タリト雖モ日常ノ調教及衛生ニ注意ヲ缺ケル所アルカ如ク營養其ノ當ヲ得ス皮毛光澤ニ乏シクシテ  
 其ノ配列整正ナラス元氣亦概ネ振ハスシテ能力ヲ十分ニ發揮スルモノ甚タ尠ナリシヲ認メタリ洋  
 犬中ニテハ「ポインター」「種」「セツター」「種」ニ多少優物ヲ存シタルノミニシテ其ノ他ハ大體ニ於テ普通品ヨ  
 リ成レリト雖モ「グレハウンド」「ボルゾイ」及「ビロン」ノ三種ハ出陳犬中特ニ異彩ヲ放テルヲ見ル「グレ  
 イハウンド」種ハ英國ニ原産シ「ボルゾイ」種ハ露西亞ニ産スル一種ノ「グレイハウンド」ニシテ其ノ體  
 軀細長扁平ニシテ四肢亦甚タ長ク容貌極メテ奇異ノ觀ヲ呈シ頗ル人目ヲ惹ケリ「バビロン」種ハ素ト米  
 國ノ原産ニシテ本邦稀ニ存スル種類ナリ長身短脚ニシテ尾ニ羽狀ノ長毛アリ其ノ耳廣大ニシテ周緣  
 ニ長毛ヲ生シ恰モ蝶翅ノ如キ觀アルヲ特徴トシ又特異ノ藝能ヲ有シテ頗ル愛翫ニ好適セルヲ思ハシ  
 ム

狎ハ一頭ヲ除クノ外本邦主要ノ産地タル愛知縣ノ出陳ナリ優良品ニ富ミ其ノ形軀麗洵ニ受賞スヘキ  
 モノナリト雖モ外界ノ感作ニ抗スルノ力頗ル弱キカ如ク亦蕃殖力ニモ乏シキノ嫌アリ將來種々考慮  
 ヲ回ラシ強固堅實ノ種類ヲ造出スルコト肝要ナリ  
 猫ノ出品中米國種ニ屬スル一頭ハ其ノ體型大ニ整ヒ皮毛優麗ニシテ其ノ性質モ亦頗ル善良實ニ稀ニ  
 見ルノ優品ナリ本邦原産スモノハ頭圓ク耳矮小ニシテ其ノ尾短ク形態甚タ奇異ナリト雖モ性質温良  
 ニシテ善ク人ニ親ムノ美點ヲ有セリ蓋シ猫族ハ捕鼠愛翫ノ二用途ニ就キ極メテ有要ナルモノニシテ  
 將來益々滋殖ノ要アルカ如シ

二、鳴禽

鳴禽ヲ博覽會ニ出品シタルハ本會ヲ以テ其ノ始トス其ノ總數一百三十一點、一百九十七羽ニシテ五十  
 八種類ヨリ成リ全部東京府ヨリノ出陳ニ係ル出品ノ種類別、性別表ヲ示セハ次ノ如シ

出品鳴禽種類性別表

種類	點數	東京府		計
		雄	雌	
九官鳥	一〇	一〇	—	一〇
五色鸚哥	—	—	—	—
小黃帽子鸚哥	六	六	—	六
紫帽子鸚哥	二	二	—	二
大花鸚哥	二	二	—	二
琥珀鸚哥	二	二	—	二
セキセイ鸚哥	六	一六	—	一六
赤草鸚哥	—	—	—	—
中形紫鸚哥	—	—	—	—
桃色鸚哥	二	二	—	二
計	—	—	—	—

種類	點數	東京府		計
		雄	雌	
小白鸚哥	—	—	—	—
達摩鸚哥	—	—	—	—
黃帽子鸚哥	二	二	—	二
黃セキセイ鸚哥	三	三	—	三
小青海鸚哥	—	—	—	—
大紫鸚哥	—	—	—	—
頭黑鸚哥	—	—	—	—
大白鸚哥	—	—	—	—
ベリコ	二	二	—	二
錦鳩	—	—	—	—
計	—	—	—	—





シテ亞細亞ノ南部及ヒ濠洲等ヨリ年々多數ニ渡來シ又近年亞弗利加產ヲ除クノ外南米產其ノ他ノ輸入セラルルモノ尠ナラス其ノ種類ノ如キ亦頗ル多キヲ算ス而シテ今回ノ出品ハ其ノ種類ノ割合ニ僅少ナルニ對シテ孰レモ能ク特徴ヲ具有シ模倣ノ巧ナルモノ、馴育ノ極メテ良好ナルモノ、種類ノ珍奇ナルモノ等佳品尠カラサルヲ認メタリト雖モ猶一般ニ諸種ノ點ニ足ラサル所甚タ多ク遂ニ斯界傑出ノ出品ヲ見ルコト能ハサリシハ遺憾トスル所ナリ

鳴禽類

本邦原産ノ燕雀目ニ屬スル小禽類主トシテ之ニ屬ス其ノ種類甚タ多クシテ今回ノ出品中亦鶯、繡眼兒、赤鬚、駒鳥、小瑠璃、大瑠璃、瑠璃鶉、雲雀、頬白等其ノ他數種類ノ多キヲ見タリト雖モ就中鶯、繡眼兒ノ二種ハ鳴聲發達ノ度著シク卓絶シテ最モ賞翫ヲ受クル小禽ナリ今回鶯ノ出品ニ實ニ拔群ノ優品アリ飼育者ノ技術大ニ賞スヘキモノアルヲ認メタリ

觀賞鳥類

金絲雀、胡錦鳥、文鳥、碧鳥、錦花鳥、紅冠鳥、鳩類其ノ他數種類觀賞鳥トシテ出品セラルル細金絲雀、卷毛金絲雀ニ稍、佳品ヲ見タリト雖モ素ト歐洲ニ於テ普通ノ金絲雀ヨリ作出セラレタルモノニシテ彼ニ比スレハ品質ノ程度亦遙ニ低ク改良ノ要甚大ナルヲ思ハシム蓋シ本類ニ屬スル文鳥、胡錦鳥、金絲雀、十姉妹ハ個體ノ間ニ品質ノ相違少キモノニシテ今回ノ出品亦概ネ平凡タルヲ免レト雖モ鸚哥類ニ屬スル「セキセイ鸚哥」ト共ニ近來關西地方ノ農家ニ於テ盛ニ飼養蕃殖セラル本邦ノ原産ニアラスト雖モ生産費低廉ニシテ海外ニ輸出セラルル羽數尠ナラス副業トシテ良好ノ成績ヲ擧ケ居レルモノノ如シ將來適所ニ之ヲ獎勵シ其ノ發達ヲ期セサルヘカラス

此ノ他ノ出品ニ至リテハ或ハ種類ノ珍奇ナルモノアリ或ハ子引トシテ珍重スヘキモノアリ或ハ服用トシテ賞揚スヘキアル等特異ノ形質ヲ有スルノ種類尠ナラスト雖モ點數少ク又概ネ普通品ニシテ特ニ記載スヘキコトナシ

三 鳴 蟲

鳴蟲ハ本會出品中ノ珍トスル所ニシテすすむし、まつむし、くつわむし、かんだん、くさひばり、やまとすず、かねたなき、ゑんまこほろぎノ八種ヨリ成リ出品總數三十四點、四百六十六疋アリ全部東京府ヨリ出陳ス出品ヲ種類別ニ示セハ左ノ如シ

出品鳴蟲種類別表

種 類	すすむし	まつむし	くつわむし	かんだん	くさひばり	やまとすず	かねたなき	ゑんまこほろぎ	計
東 京 府	六	六	三	四	四	四	四	三	三
東 京 府	二五〇	一三〇	一一	一三	一三	一三	一三	一一	四六六

而シテ審査項目ヲ定メテ附點審査ヲ行ヒ佳良品ヲ出陳セル二名ニ對シテ褒狀ヲ擬賞セリ其ノ明細左ノ如シ

擬賞等級表

府 縣	出品人員	出品點數	名 譽 大 賞 牌	金 牌	銀 牌	銅 牌	褒 狀	計	出品人員ニ對スル擬賞割合
東 京 府	六	三四					二	二	三・三
計	六	三四					二	二	三・三

審査項目ハ次ノ如シ

鑑 定

一、形態ノ整否 一、鳴聲ノ清濁、調子、雅趣 一、飼育ノ方法

調 査

一、出品者ノ業況及ヒ功績 一、其ノ他參考トナルヘキ事項

今回ノ出品ヲ概觀スルニ人工ヲ加ヘテ發生ノ時期ヲ早メ殊ニかんだん、くさひばりノ如キ人工飼育ノ容易ナラサル種類ヲモ早期ニ鳴カシメタルハ特種ノ技能アルヲ證スルモノニシテ賞揚スルニ足レリ

ト雖モ自然ノ時期ニ發生シタルモノニ比シ其ノ鳴聲一般ニ劣リタルノ感ナキ能ハサリシハ惜ムヘキ  
コトト謂フヘシ

第四十六類 肥料

主學博士 大工原 銀太郎

一、今回肥料ノ出品ハ一道二府九縣ニ互リ臺灣、朝鮮及關東州ヲ併セテ總計二百八十一點出品人員六十名ニシテ内會社數二十五ヲ算ス其ノ府縣別及肥料ノ種類ハ左表ニ示スカ如シ

肥料出品類別表

府縣	人造肥料				油粕類							計	出品人員			
	過燐灰	硫酸灰	石炭酸配合	雜肥	菜種油	棉實油	大豆油	荳蔻油	胡麻油	亞麻油	桐實油			落花生油	椰子油	
朝鮮總督府																
臺灣總督府																
關東都督府																
北海道廳																
東京府																
大阪府																
神奈川縣																
兵庫縣																
新潟縣																
千葉縣																
三重縣																
岩手縣																
岡山縣																
廣島縣																
熊本縣																
計	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

二、擬賞人員ハ名譽大賞牌二名、金牌二名、銀牌七名、銅牌七名、褒狀十八名、總計三十六名ニシテ擬賞歩合ハ出品人員ニ對シ六割ニ該當セリ其ノ府縣別擬賞數ハ左表ニ示スカ如シ

肥料擬賞歩合表

府縣	出品人員	出品點數	名譽大賞牌	金牌	銀牌	銅牌	褒狀	計	出品人員ニ對スル擬賞歩合
朝鮮總督府	1	3						3	100.0
臺灣總督府	3	4						4	100.0
關東都督府	2	2						2	100.0
北海道廳	3	4						4	100.0
東京府	10	7						7	70.0
大阪府	6	5						5	83.3
神奈川縣	4	7						7	175.0
兵庫縣	2	1						1	50.0
新潟縣	2	7						7	350.0
千葉縣	7	7						7	100.0
三重縣	1	3						3	300.0
岩手縣	1	1						1	100.0
岡山縣	5	3						3	60.0
廣島縣	2	2						2	100.0
熊本縣	1	3						3	300.0
計	60	281	2	2	7	7	18	36	60.0

三、審査ノ方法ハ現品審査及事業調査ノ二項ニ據リ人造肥料ニ在リテハ特ニ調査點ニ重キヲ置キ其ノ製造力、工場ノ設備、製産額、經營方法等ヲ調査シタリ

今左ニ金牌以上ニ擬賞セルモノノ事業ノ來歴設備製産額等ニ關スル調査ノ梗概ヲ錄シ以テ他日ノ參考ニ資セントス

人造肥料 大日本人造肥料株式會社

一、來歴 該社ノ前身タル東京人造肥料株式會社ハ明治二十一年ノ創業ニ屬シ爾來幾多ノ困難ヲ排シ屢規模ヲ擴張シ殊ニ近年大阪硫曹株式會社帝國人造肥料株式會社北海道人造肥料株式會社及攝津製油株式會社人造肥料部等ト合同シ茲ニ尤大ナル一會社ヲナスニ至リ其ノ資本金額一千二百五十萬圓同拂込額七百八十一萬二千五百圓ニ達セリ而シテ第五回內國勸業博覽會並ニ東京勸業博覽會ニ於テ東京人造肥料株式會社及大阪硫曹株式會社ハ共ニ名譽銀牌ヲ受領セリ

二、製産額 該社ノ最近一ケ年製産額ハ過磷酸石灰約七千萬貫、配合肥料約三千萬貫合計一億萬貫以上其ノ價格約千四百萬圓ニ達シ之ヲ東京勸業博覽會開設當時ニ於ケル東京人造肥料株式會社及大阪硫曹株式會社ノ製造額合計約三千五百萬貫ニ比スレハ約三倍ニ達シ更ニ之ヲ第五回內國勸業博覽會開設當時ニ於ケル兩會社ノ製産額約一千三百萬貫ニ比スレハ實ニ約八倍ノ増額ヲ示セリ

三、設備

工場數

八

鉛室

二七

過磷酸化合室

五六

肥料製造用總馬力

二、〇〇〇馬力

硫酸製造力(年額)

五、〇〇〇(馬力)

過磷酸製造力(年額)

九、〇〇〇(馬力)

之ヲ要スルニ大日本人造肥料株式會社ハ數多ノ肥料會社ヲ合同シタルモノニシテ其ノ生産力大ナルハ論ヲ俟タス

備考

明治四十一年十二月 帝國人造肥料株式會社及北海道人造肥料株式會社ヲ買收

明治四十二年十二月 攝津製油株式會社肥料工場ヲ買收

明治四十三年七月 大阪硫黃株式會社ト合併

人造肥料 多木製肥所

一、來歴 該所ハ全然個人ノ經營ニ係リ其ノ創業ハ明治十八年ニシテ爾來幾多ノ困難ヲ排シ屢規模ヲ擴張シ以テ今日ニ至リ既ニ第四回內國勸業博覽會ニ於テハ有功二等賞、第四回內國勸業博覽會ニ於テハ名譽銀牌ヲ受領シタリ

二、製産額 該所ノ最近一箇年製産額ハ約二千五百萬貫價額五百萬圓以上ニ達シ之ヲ第五回內國勸業博覽會開設當時ニ於ケル製産額二百五十萬貫價額四十餘萬圓ニ比スレハ十倍以上ノ増額ヲ示セリ

三、設備

工場數 一

鉛室 六

過磷酸化合室 二〇

肥料製造用總馬力 一、五〇〇馬力

硫酸製造力(年額) 一、二五〇(馬力)

過磷酸製造力(年額) 二、四〇〇(馬力)

之ヲ要スルニ該所ハ個人ノ經營ニ係ル人造肥料製造場トシテハ其ノ生産力最モ大ナルモノナリ

一、來歴 該社ノ人造肥料製造ヲ創メタルハ明治四十年ニシテ當時ノ資本金額一百萬圓ナリシカ其ノ後増資シテ百五十萬圓拂込額十二萬五千圓トナシ以テ今日ニ至レリ

二、製産額 最近ニ於ケル年製産額ハ過磷酸石灰千八百餘萬貫配合肥料七百餘萬貫價額合計約三百五十萬圓ニ達セリ

三、設備

工場數 二

鉛室 五

過磷酸化合室 一四

肥料製造用總馬力 三〇〇馬力

硫酸製造力(年額) 二、〇〇〇(馬力)

過磷酸製造力(年額) 三、六〇〇(馬力)

之ヲ要スルニ該社ノ人造肥料製造業ハ近時ノ經營ニ係ルト雖モ時勢ノ要求ニ應シ事業ヲ擴張シ以テ今日ノ隆盛ヲ見ルニ至レリ

該社ノ創立ハ明治二十二年ニシテ爾來引續キ完全ナル施設ニ依リ盛ニ製油業並ニ油粕製造事業ヲ

經營シ其ノ年産額約四百萬貫價格百萬圓以上ニ達シ之ヲ第五回内國勸業博覽會開設當時ノ年製産額二百二十萬貫ニ比スレハ約二倍ノ増額ヲ示セリ而シテ第五回内國勸業博覽會及東京勸業博覽會ニ於テ既ニ一等賞牌ヲ受領セリ

近時本邦ニ於ケル販賣肥料ノ消費額著シク増進シ去明治三十六年ニ於ケル消費額ハ約三千萬圓ナリシカ最近一億圓ヲ超過スルニ至レリ今明治三十六年以降本邦ニ於ケル販賣肥料消費額ヲ表示スルコト左ノ如シ

本邦ニ於ケル販賣肥料消費額

年次	肥料製造販賣高		肥料及原料輸入高		肥料及原料輸入高中製造原料見込高		輸入肥料中見込消費高		計 (見込消高)
	製造	販賣	製造	原料	製造	原料	肥料	原料	
明治三十六年	一七、二四〇、七七六	一三、一六一、〇九六	一、五二五、一三〇	一、六三五、九六六	一、五二五、一三〇	一、六三五、九六六	二八、八七六、七四二	二八、八七六、七四二	二八、八七六、七四二
同 三十七年	一九、一九七、九〇二	一〇、〇八五、四七二	三、三〇九、九二九	六、七七五、五四三	三、三〇九、九二九	六、七七五、五四三	二五、九七三、四四五	二五、九七三、四四五	二五、九七三、四四五
同 三十八年	二二、〇一一、〇四三	一一、六四五、〇七三	七、八七二、一五六	一四、七七二、九一七	七、八七二、一五六	一四、七七二、九一七	三六、七八三、九六〇	三六、七八三、九六〇	三六、七八三、九六〇
同 三十九年	二四、六八六、六二四	三〇、六三〇、三五三	八、九八九、七七六	二一、六四〇、五七七	八、九八九、七七六	二一、六四〇、五七七	四六、三三二、二〇一	四六、三三二、二〇一	四六、三三二、二〇一
同 四十年	三三、六二八、〇七二	三九、四九三、二〇四	一一、八四七、九六一	二七、六四五、二四三	一一、八四七、九六一	二七、六四五、二四三	六一、二七三、三一五	六一、二七三、三一五	六一、二七三、三一五
以上五箇年平均	二二、三五二、八八三	二二、二〇三、〇四〇	六、七〇六、九九〇	一六、四九四、〇四九	六、七〇六、九九〇	一六、四九四、〇四九	三九、八四六、九三三	三九、八四六、九三三	三九、八四六、九三三
明治四十一年	二九、一五〇、四三九	四七、八七一、二八〇	一一、五六一、三八四	二九、三〇九、八九六	一一、五六一、三八四	二九、三〇九、八九六	五八、四六〇、三三五	五八、四六〇、三三五	五八、四六〇、三三五
同 四十二年	二九、六一七、一一五	三五、九四六、四二五	一〇、七八三、九二七	二五、一六二、四九八	一〇、七八三、九二七	二五、一六二、四九八	五四、七七九、六一三	五四、七七九、六一三	五四、七七九、六一三
同 四十三年	三四、六七六、七三四	三七、九三五、三九七	一一、三八〇、六一三	二六、五五四、七六六	一一、三八〇、六一三	二六、五五四、七六六	六一、二三一、五〇〇	六一、二三一、五〇〇	六一、二三一、五〇〇
同 四十四年	四〇、六七七、三五八	五一、四六七、五七七	一五、四四〇、二七三	三六、〇二七、三〇四	一五、四四〇、二七三	三六、〇二七、三〇四	七六、七〇四、六六二	七六、七〇四、六六二	七六、七〇四、六六二
大正元年	五一、四四四、五三六	五二、三二〇、五九〇	一五、六九六、一七七	三六、六二四、四一三	一五、六九六、一七七	三六、六二四、四一三	八八、〇六八、九四九	八八、〇六八、九四九	八八、〇六八、九四九
以上五箇年平均	三七、一一三、二二六	四五、一〇八、二五四	一三、一七二、四七五	三〇、七三五、七七五	一三、一七二、四七五	三〇、七三五、七七五	六七、八四九、〇一一	六七、八四九、〇一一	六七、八四九、〇一一

更ニ本邦ニ於ケル主要ナル販賣肥料種類別消費額ヲ表示スルコト左ノ如シ

年次	種類別		種類別		種類別		種類別		種類別		自四十一年平均至大正元年平均
	製造	販賣	製造	販賣	製造	販賣	製造	販賣	製造	販賣	
明治三十九年	三、六九九、五九三	三、五〇七、八八〇	三、一七八、五八六	四、七四七、二〇七	五、九七〇、八九二	五、九二〇、七九九	六、七三二、八四八	五、一九九、二五三	五、一九九、二五三	五、一九九、二五三	五、一九九、二五三
明治四十年	九、一三三、四四九	九、一〇三、三六六	一、一五三、八三四	一、二四一、〇六七	一、一五三、八三四	一、二四一、〇六七	一、一五三、八三四	一、二四一、〇六七	一、一五三、八三四	一、一五三、八三四	一、一五三、八三四
明治四十一年	四六、八七二	五二、二八四	五、七〇七	六、〇六、七八五	八、六一、一六八	八、八七九、八七一	一、三三〇、四五二	九、〇〇、九六〇	九、〇〇、九六〇	九、〇〇、九六〇	九、〇〇、九六〇
明治四十二年	七、四〇、〇〇九	七、三〇、一五七	六、五八、三三五	七、四八、一八五	八、六八、〇五五	八、七九、八七一	一、三五〇、四五二	九、〇〇、九六〇	九、〇〇、九六〇	九、〇〇、九六〇	九、〇〇、九六〇
明治四十三年	一、八八、七八二	一、八六六、三三四	一、八三七、四九六	二、一六四、七七八	二、一七四、五八三	二、一八六、四〇一	二、〇四五、九〇六	二、〇四五、九〇六	二、〇四五、九〇六	二、〇四五、九〇六	二、〇四五、九〇六
明治四十四年	一三、二七六、九一八	一八、七四五、三六〇	一三、九〇八、五五六	二四、二五一、六九五	一九、〇四六、六四四	二八、五三三、一三八	二四、八五七、六四二	二五、三三三	二五、三三三	二五、三三三	二五、三三三
大正元年	五、一五五、〇七七	六、〇八〇、二五九	五、一一二、五五五	四、二八〇、六三四	五、三七〇、六八〇	六、五二二、〇六四	六、七七、六〇〇	五、六〇、五〇七	五、六〇、五〇七	五、六〇、五〇七	五、六〇、五〇七
大豆油粕	一、五七、四四五	一、三七四、〇九六	九、九、一八七	一、〇四九、二六八	一、四五〇、六九五	一、四四三、七五二	一、五五五、三五五	一、二八七、六七	一、二八七、六七	一、二八七、六七	一、二八七、六七
菜種油粕	四、七三、四九一	七、〇三四、五八〇	五、四六四、二三八	六、四七、四二三	六、七二六、〇四七	八、一〇二、三七一	二、二五九、三四九	七、七九、六八四	七、七九、六八四	七、七九、六八四	七、七九、六八四
骨粉	六、五七一、一〇三	二、六三三、二二三	九、〇六、〇八〇	九、六八、六三三	二、一六四、一七四	一四、三〇八、九八八	一六、八六、五五	二、三九六、〇八〇	二、三九六、〇八〇	二、三九六、〇八〇	二、三九六、〇八〇

本邦ニ於ケル販賣肥料及肥料原料輸入額

肥料名稱	輸入總價額				輸入總價額中原料價額			
	明治三十一年	明治三十二年	明治三十三年	明治三十四年	明治三十五年	明治三十六年	明治三十七年	明治三十八年
魚肥及フイ	七六六、四七〇	一、八四九、九四三	一、四六八、三三八	七二、六三三	三三〇、二四四	五三三、九一〇	六四四、八〇二	五二〇、六三八
乾魚	三六二、一六六	五九四、九三六	三六八、三三六	三六六、一三三	一三六、三三八	一七三、三〇五	三〇〇、三〇〇	四四、三三三
硝酸曹達	五三三、四六九	六三三、三三三	六〇九、四一九	六八八、四三三	二、八二五、九四〇	一、九六六、七九九	一、五三〇、九九〇	二、九二〇、九三五
硫酸アンモニア	五二九、六六九	八、三七七、四七一	八、七九六、七〇五	五、九三三、五〇九	九、〇六三、七六七	一〇、五八七、六四九	一三、一六四、〇九二	九、三三三、六六五
磷酸肥料	五〇八、四九三	八七二、八〇九	四、一一四	四六八、四三〇	八、一七七、七	一〇、〇六五、〇	二、九二四	一、四九九、九
燐礦石	三、八八九、八三〇	三、九〇〇、二五一	三、三五〇、九八八	三、三三〇、六一	四、七七、四八三	六、三三六、〇五一	七、四八、一九八	八、八四、七〇
血粉	—	五二、八九〇	九八、四九七	三〇、〇〇〇	一、一〇、五〇九	九三、五三三	六四、三九〇	七九、九〇一
人造肥料	—	四七、六三三	二、九三三	六、七六六	一一、一〇六	一八、二八四	三六、六三三	一四、四三三
加里鹽類	—	—	八、一五七	四、〇一〇	三〇、四三三	四九、五〇七	一四、九	二八、八
大豆油粕	一三、九二六、六〇〇	一七、四〇〇、九七八	二二、七四六、二九二	三三、三〇〇、九七	一七、〇〇〇、〇三三	二五、三三三、七三九	三三、五二二、七八	三三、五二二、〇〇三
棉實油粕	八二五、九六八	八六八、五九三	八〇四、九六	九八、六八九	一、〇七一、九二八	一、〇三三、五三	一、〇三三、五三	一、九七七、七七三
菜種油粕	一、四九九、二一六	三、〇〇九、八三三	一、三九七、二五一	一、一八一、七四	一、七五、八四五	二、六九九、四三三	二、七九、五七三	三、五九六、七七一
其他油粕	一、〇九二、六〇〇	二、九七、三三三	三、〇〇、八六九	一、三八六	六九、六六	一四〇、一九九	一六三、〇一一	一七〇、九三三
其他諸肥料	二、三三〇、三〇〇	一、〇七、九九九	一、六六六、八五一	五、四七、二八	四六八、八七	二八八、一四七	三〇〇、四〇	三六、八六六
計	三〇、三〇〇、三三三	三九、四四、〇〇	四一、七二、二八〇	三五、九四六、四三	三七、九三三、七九九	五二、四七、七七	五三、三三〇、五九九	七〇、六〇、四四〇

本邦ニ於ケル販賣肥料及肥料原料種類別輸入額

肥料名稱	輸入總價額		輸入總價額中原料價額	
	明治三十一年	明治三十二年	明治三十一年	明治三十二年
魚肥及フイ	七六六、四七〇	一、八四九、九四三	三三〇、二四四	五三三、九一〇
乾魚	三六二、一六六	五九四、九三六	一三六、三三八	一七三、三〇五
硝酸曹達	五三三、四六九	六三三、三三三	二、八二五、九四〇	一、九六六、七九九
硫酸アンモニア	五二九、六六九	八、三七七、四七一	九、〇六三、七六七	一〇、五八七、六四九
磷酸肥料	五〇八、四九三	八七二、八〇九	四六八、四三〇	八、一七七、七
燐礦石	三、八八九、八三〇	三、九〇〇、二五一	四、七七、四八三	六、三三六、〇五一
血粉	—	五二、八九〇	一、一〇、五〇九	九三、五三三
人造肥料	—	四七、六三三	一一、一〇六	一八、二八四
加里鹽類	—	—	三〇、四三三	四九、五〇七
大豆油粕	一三、九二六、六〇〇	一七、四〇〇、九七八	二五、三三三、七三九	三三、五二二、七八
棉實油粕	八二五、九六八	八六八、五九三	九八、六八九	一、〇七一、九二八
菜種油粕	一、四九九、二一六	三、〇〇九、八三三	一、七五、八四五	二、六九九、四三三
其他油粕	一、〇九二、六〇〇	二、九七、三三三	三、〇〇、八六九	一六三、〇一一
其他諸肥料	二、三三〇、三〇〇	一、〇七、九九九	四六八、八七	二八八、一四七

去明治二十年ニ於ケル肥料及其ノ原料輸入額ハ僅カニ二十五萬圓弱ニ止マリシモ同三十年ハ約四百萬圓同四十年ニハ約四千萬圓大正二年ニ於テハ七千萬圓ヲ超過スルニ至リタリ而シテ輸入肥料及其原料中主ナルモノハ大豆粕硫酸安母尼亞及燐礦ニシテ此等ハ何レモ本邦ニ於テ多少ノ製造及生産ヲ見サルニアラスト雖其ノ數量極メテ僅微ニ止マルヲ遺憾トス今同ノ出品中大豆粕五點硫酸安母尼亞二點ニ止マリ大豆粕中三點ハ「ベンジン」浸出法ニ依リ製造シタルモノニシテ尙新窒素肥料石灰窒素三點ノ出品ヲ見タリ

更ニ右諸表ヲ綜合シ最近本邦ニ於ケル主ナル販賣肥料消費額ヲ擧クレハ左ノ如シ

油粕類 約四千五百萬圓  
魚肥類 約一千萬圓  
其他諸肥料 約一千萬圓  
人造肥料類 約三千五百萬圓

由是觀之今ヲ距ル約二十年以前ニ於ケル本邦販賣肥料界ニ於テ其ノ主位ヲ占メタル魚肥類ハ最近販賣肥料消費額ノ約十分ノ一ニ止マリ油粕類ハ同消費額ノ約四割五分人造肥料類ハ約三割五分ヲ占ムルニ至レリ斯クノ如ク本邦販賣肥料界ニ於テハ油粕類及魚肥類ヲ合セテ全消費額ノ二分ノ一以上ヲ占ムルヲ見ルハ歐米ニ於ケル肥料界ト稍其ノ趣ヲ異ニスルノ點ニシテ從テ動植物有機質肥料ノ土壤中ニ於ケル分解及其ノ効能ニ關スル諸般ノ研究ハ本邦肥料學者ノ攻究ニ俟ツコト大ナリト謂ハサルヘカラス

更ニ最近世界及獨逸國ニ於ケル主ナル販賣肥料ノ種類及數量並ニ肥料要素消費額ヲ概算シ之ヲ本邦ノ三要素消費額ニ比較スルコト左ノ如シ

世界獨逸及本邦ニ於ケル三要素消費額

肥料ノ種類	製産額若クハ消費額		三要素消費額概算	
	世界	獨逸	世界	獨逸
智利硝石	二五〇 <sup>萬噸</sup>	七〇 <sup>萬噸</sup>	七〇 <sup>萬噸</sup>	一〇 <sup>萬噸</sup>
窒素 硫酸安母尼亞	一三〇	未詳	五〇	未詳
骨粉グワノ等	未詳	未詳	未詳	未詳
過磷酸石灰	一、〇〇〇	一三〇	四〇	一一
磷酸「トーマス」燐肥	三〇〇	一二〇	二〇〇	四〇
骨粉グワノ等	未詳	未詳	未詳	未詳
加里(加里)鹽類	一、〇〇〇	四五〇	一〇〇	四五
備考	智利硝石ノ全生産額中約二割加里鹽類ノ同約一割ハ工業用ニ供セララルモノトス又過磷酸石灰ノ原料タル燐礦ノ最近全生産額ハ約六百萬噸ヲ算セリ			

右表ノ示ス處ニ從ヘハ世界及獨逸ニ於ケル三要素消費額中最モ少額ナルハ窒素ニシテ磷酸及加里ノ消費額ハ何レモ窒素ニ比シ著シク多量ナルヲ見ル之ニ反シ本邦ニ於テハ加里ノ消費額著シク少量ニシテ窒素及磷酸ノ消費額ハ殆ント相伯仲スルヲ見ルヘシ斯クノ如ク本邦ニ於ケル加里消費額著シク少額ニ止マルトセハ將來土壤中ノ加里成分遞減シ地力消耗ノ虞ナキヤ是レ大ニ攻究ヲ要スル重要ナル問題ナルヘシ蓋シ從來本邦土壤ハ一般ニ有効性加里成分ニ豐富ナリト見做サレ實際植生試驗ノ成績モ亦之ヲ證明セリト雖モ有効性加里成分ニ缺乏セル土壤亦尠ナカラサルヲ以テ永年ニ互リ斯クノ如キ少量ノ加里ヲ施用シ果シテ土壤中加里成分ノ不足ヲ告クルニ至ルコトナキヤ別ニ精細ナル研究ヲ要スヘシ

抑モ肥料三要素中窒素ハ其ノ價格最モ不廉ナルノミナラス普通最モ分解消耗シ易キモノナレハ其ノ價格廉ニシテ且損失ノ虞尠ナキ磷酸及加里ノ二成分ヲ常ニ土壤中ニ豐富ナラシメ窒素成分ヲシテ土壤中ノ最少養分タラシメ以テ其ノ効能ヲ十分ニ發揮セシムルノ途ヲ講スルハ合理的ニシテ而カモ經濟的施肥法ナリト謂フヘシ

今回ノ出品調合肥料中完全肥料何々作肥料等ノ名稱ヲ有スルニ係ラス主ラ窒素及磷酸ニ偏シ加里成分ノ含量極メテ少量ナルモノ尠ナカラス試ニ其ノ保證分ノ明カナルモノ七十七點ニ就キ加里含量三%以上ノモノヲ調査スルニ其ノ數僅カニ二十點即チ約三割六分餘ニ止マレリ而シテ實際此等肥料ノ消費額ハ尙遙カニ少額ニ止マルヘシ

第四十七類 農業、園藝、蠶業及畜産用器械器具

主 任 農學博士 上野英三郎

農業、園藝、蠶業、畜産用器具機械ノ出品ハ點數總テ九百十、人員三百七ヲ算シ出品ノ地方ハ東京府外一府十縣ニ互リ更ニ朝鮮樺太ノ二殖民地ヲ加フ今地方別出品點數及人員ヲ出品點數順位ニ依リ表示スレハ左ノ如シ

府縣	出品點數	出品人員	府縣	出品點數	出品人員
東京府	四一四	六四	栃木縣	一〇	六
長野縣	二六四	一五三	廣島縣	八	七
群馬縣	七四	二〇	岡山縣	六	一
新潟縣	五七	二九	佐賀縣	五	二
京都府	三二	五	三重縣	四	二
靜岡縣	一七	九	宮城縣	四	二
朝鮮	一四	三	樺太	一	一

上表示スカ如ク點數ノ最多ナルハ東京府ニシテ實ニ全數ノ四五、五、パーセントヲ占メ長野之ニ次キニ九「パーセント」ニ達ス即チ兩者ヲ合スレハ出品點數六百七十八點ニ及ヒ全數ノ殆ント七割四分五厘ニ當ル更ニ種類別出品點數ヲ示セハ左ノ如シ

農業用器	園藝用器	蠶業用器	畜産用器
耕耨用器 一二四	剪定整枝用器 五九	養蠶用器 二七七	飼料調製用器 七
播種用器 一	接木用器 二二	製種用器 二八	養蜂用器 八
收穫調製用器 二〇〇	栽植除草用器 三九	製絲用器 五〇	養雞用器 三
其他 四九	其他 二二	其他 一一	馬用具 一一
計 三七四	計 一四一	計 三六六	計 二九
全數ニ對スル歩合(%) 四一、一	全數ニ對スル歩合(%) 一五、五	全數ニ對スル歩合(%) 四〇、二	全數ニ對スル歩合(%) 三、二

蠶業用器具ノ出品ノ比較的多數ニシテ全數ノ四割以上ニ達スルカ如キハ稀ニ見ルノ現象ナリ之蓋シ出品府縣中特ニ蠶業ノ隆盛ナル長野群馬ノ地方ヲ包容スルカ故ナラスンハアラス又園藝用具ノ比較的出品多カリシハ其ノ主タル供給地カ東京府タルヲ以テナリ普通農事用器具中最モ重要ナル耕耨器ニ比シ收穫調製用器ノ出品多キモ實ニ一奇觀タルヲ免レス之レ會鎌ノ大生産地タル長野ヲ其出品府縣中ニ有シタルニ依ル即チ本會ニ於ケル種類別出品數ハ一種偏倚ノ狀ヲ示シ以テ我農界ニ於ケル各類重要ノ度ヲ示シ各類改良ノ趨勢ヲ現ハスモノト認ムヘカラス

上ニ表示セル如ク出品府縣甚タ少ナク出品點數又多カラス加フルニ種類ノ大ニ偏セルアリ我農界ニ於ケル主タル農具ヲ網羅シタリト稱スルヲ得ス一般農界ノ現狀ヲ量ル能ハスト雖モ而カモ其ノ數ニ於テ其ノ質ニ於テ甚タ振ハサルハ現今尙我農具發達ノ程度幼稚ナルモノアルヲ想見スルニ難カラス抑モ農具ハ農業生産ノ重大ナル要素ニシテ其ノ良否カ農業經營上ニ影響スル至大ナリサレハ之カ改良ヲ獎勵シ之カ發達ヲ期スルハ我農界ノ一大要件タルヲ信スルヲ以テ審査ニ當リテハ努メテ寬ニ從ヒ未タ以テ世ニ獎勵ムルニ足ラサルモノモ比較的優良若クハ改良ノ途ニ向シモノハ悉ク之ヲ採リテ賞ヲ擬シ以テ獎勵ノ一助タラシメンコトヲ期セリ而モ尙高級賞ニ該當スルモノヲ發見シ得サリシハ深ク遺憾トスルトコロナリ左ニ擬賞數及其ノ割合ヲ示サン

銀牌	銅牌	褒狀	計
一六	七一	九〇	一七四

全出品人員ニ對スル擬賞歩合(百分率) 二九、三

今審査ノ成績ニ依リ出品ノ主要ナルモノニツキ概評スルトコロアラントス

一 耕耨用器

耕耨器ハ農具中最要ナルモノニシテ農具改良上特ニ力ヲ用フヘキ所ナリ之ヲ本會ノ出品ニ見ルニ其ノ數僅カニ百二十四點ニシテ更ニ之ヲ細別スレハ犁類十一、鍬類六十六、鋤類三、馬鍬類二、中耕除草器類四十二ヲ算スルノミ即チ耕耨器ノ出品ハ主トシテ鍬類及中耕除草ノ手用具タルナリ此ノ事實ハ既ニ明カニ本邦農具ノ甚タ幼稚ニシテ農具ノ本體タル耕耨器カ發達ノ低度ニ存シ農業勞力ノ省約耕耨ノ精緻ヲ期スル甚タ遠達ナルヲ證スルモノタラスンハアラス

犁類出品中洋型七點、邦型四點ニシテ動力ニ依リテ分テハ畜力用十點、人力用一點タリ其ノ出品餘リニ僅少ニシテ以テ現今ニ於ケル本邦犁ノ代表トナス能ハサルモ其ノ形態製作共ニ稱揚スルニ足ルモノナシ元來犁ハ土性ト用途トニ依リ其ノ形態ヲ異ニセサルヘカラス即チ場合ニ應シテ適良ノ形態ヲ求メ常ニ最少抵抗ヲ以テ最良ノ效果ヲ擧ケシメサルヘカラス然ルニ出品犁ハ何レモ皆同一ノ形態ヲ以

テ各種ノ土壤各般ノ用途ニ使用セシメントス之レ犁構成上ノ大ナル誤ナリ加フルニ形態常ニ同一土壤ニ對シテモ不合理ナル多シ例セハ鐵ハ粘重土ニ適スル形態ヲ有シ鋤ハ輕鬆土ニ適スルアリ或ハ一箇ノ鐵鋤中一部ハ輕土ニ適スル形狀ヲ有シ一部ハ重土ニ對スル形狀ヲ保有スルアルカ如シ斯ノ如キ矛盾ナル形態ノ構成ハ製作者カ犁ニ關スル學理ニ暗ク唯無意味ニ製作ニ從事スル故ナラズンハアラズ優良ナル犁ニアリテハ各部ノ構造當ヲ得ルヲ要スル勿論ナリト雖モ而カモ其ノ最要ナルハ作業部タル鐵鋤ノ形態ニアリ然ルニ之ヲ出品ニ見ルニ常ニ轆柄、耬其他ノ補助裝置ノ構造製作ニ往々ニシテ寧ろ無用ト信スヘキ程度ニ苦心ノ跡ヲ認ムヘキモノアルニ拘ラス作業部ニ向ツテ何等改良進步ノ實ヲ示スモノアルナキ之レ共通ノ弊タリ且ツ洋型犁ハ其ノ形態一ニ米國犁ヲ模倣シ而カモ米國犁中優良ナリトスヘカラサル唯一種ノ型ヲ採用シ而シテ土性ニ依リ用途ニ依リテ變化スヘキアルヲ知ラス又本邦役畜ノ力量ヲ顧慮シテ其ノ形態ヲ決セルモノニアラス爲メニ往々ニシテ本邦役畜ノ其ノ牽引重ニ堪ヘサルアリ元來米國犁ハ其ノ形態製作ニ於テ世界各國中上位ヲ占ムルモノニアラス理論上實用上獨逸犁ノ優秀ナルニ如カス然ルニ此レヲ之知ラスシテ農具ハ米國ヲ以テ最モ進步シタルモノトナシ洋犁ハ常ニ同一型ニ屬スルモノトシテ徒ラニ米國犁ヲ模倣シ以テ各種ノ農業事情ノ全ク異レル我國ニ應用セントス之レ洋型犁ノ在來ノ邦犁ニ比シ遙ニ進步シタルモノニシテ將來我國ノ犁モ大體ノ型ヲ洋型犁ニ求メサルヘカラサルニ拘ラス内國製作ノ洋型犁カ販路ヲ我農界ニ大ニ進ムル能ハサル所以ナラスンハアラス洋型犁ノ製作者タルモノ猛省スル所ナカルヘカラス邦型犁ニアリテモ別ニ實用上首肯スヘキノ改良アルナシ思フニ邦型犁ハ最早今日以上ニ重要ナル變革ヲ來タスノ希望アラサルナリ從テ其ノ改良ヤ考案ハ常ニ補助裝置ニアリ邦型犁ノ如キ粗笨ナル農具ニアリテハ實用上大ナル利益ナキ補助裝置ニ考案ヲ附シ徒ラニ機械的的技巧ヲ加ヘテ價格ヲ貴カラシメンヨリハ實用上ノ結構ヲ農家自ラ修繕シ得ルノ粗笨ナル程度ニ維持シ價ヲ廉ナラシメ廣ク用ヒシムルノ策ヲ得タルモノタルヲ信ス要スルニ犁ハ其ノ製作ノ技工ニ於テ多少進步シタルノ跡ヲ認メ得ヘキモ如上ノ弊風

アリ缺點アリ之ヲ去リ之ヲ除キ其ノ根本ニ遡リテ攻究スルナクンハ未タ以テ我カ重要ナル農具ノ發達ヲ期スヘカラサルナリ

鐵類ノ出品ハ比較約夥多ニシテ其ノ本邦今日ノ重要農具タルヲ示スニ足ルモノアリ本邦ニ於ケル鐵ハ之ヲ歐米ニ於ケル同種ノ耕耨器ニ比スルニ遙カニ進歩シタルモノニシテ手用耕耨器トシテハ殆ント世界獨歩ノ感アリ然リト雖モ之ヲ個々ニ觀察スルニ至リテハ形態ノ不合理製作ノ粗惡ナルヲ發見セスンハアラス本邦ノ鐵ハ單ニ地方的古來ノ習慣ニ依リテ其ノ形態ヲ異ニスルモノニシテ必要ニ依リテ變化ヲ生シタルモノニアラス故ニ地方ト共ニ形態構造ニ變化ヲ示シ其ノ變異殆ント千ヲ以テ數フルヲ得ヘシ而シテ古來地方的習慣ハ今日尙勞苦大ニ力ノ効果小ナル不合理ナル形態ヲ維持シ改良ノ途ニ向ハサルモノ比々皆然リトナス思フニ耕耨器形態變化ノ基礎ハ土性ト用途トニアリ而シテ土性ト用途トノ變化ハ千ヲ數フヘキ鐵ノ變化ヲ求ムルノ要アルニアラサル識者ヲ俟テ後知ラサルナリ若シ代表的土壤ノ種別及用途ノ差違ニ依リテ各場合ニ應シ勞小ニ効大ナルノ形態ヲ求メハ鐵形態ノ變化ハ甚タシク減少シ殆ント十ヲ越ユル多カラサルノ數ニ歸著スヘシ此ノ一大重要ナル農具ノ形態ヲ統一シ古來ノ慣習ニ因ハレタル損害ヲ救フハ我農界ノ一急務タラサルヤ即チ土性ト用途トニ應シ鐵ノ大小、形狀柄ノ長短、角度ノ大小等ヲ案シ以テ鐵ノ形態ヲ整理スルニ意ヲ用フヘキナリ然ルニ之ヲ出品ニ見ルニ其ノ形態ハ一ニ地方的習慣ニ捕ハレ僅カニ製作ノ技ヲ爭フニ過キスシテ農具トシテノ根本問題ニ觸ルルナキノ憾アリ鐵ニ對スル一ノ喜フヘキ傾向ハ木製臺部ヲ去リ臺及鐵ヲ一個ノ鐵板ヲ以テ製出スルニアリ之レ鐵ノ製作上一大進歩タルヲ疑ハス將來ノ鐵ハ鐵工ノ進歩ト共ニ當ニ其ノ製作上ノ變化ヲ此ノ方面ニ求ムルモノタラスンハアラス更ニ茲ニ一ノ附記スヘキハ出品中鐵ノ鐵部ノミヲ以テセルモノアリ鐵ハ鐵ノミヲ以テ作用ヲナシ得ルモノニアラス鐵ハ單ニ一ノ鐵工器タルニ過キス農具ニアラサルナリ此ノ如キハ農具ト製作工業品トヲ混同スルモノナリ將來出品者ノ注意スルアラントトヲ望ム



出品中耕除草用器ハ二個ノ畜力用ヲ見ルノ外全部手用具ニシテ其ノ主タルモノハ田打車、草削及把類タリ就中洋型、ホー、レーキノ類多シトス畜力中耕除草器ハ元來本邦ニ之ナカリシヲ以テ其ノ形態ハ全然歐米ノ型ヲ採用シタルノミニシテ何等特色ヲ示セルモノナシ蓋シ畜力用中耕除草器ニアリテハ歐米ニ於テ多年研究ノ結果ニ成リタルモノニシテ特ニ新規ノ考案ヲ施スヘキノ餘地甚タ乏シキヲ覺ユ唯製作上我畜力如何ヲ考慮シ農業ノ規模ニ鑑ミ土性ニ應シテ重量及齒杆ノ形狀ヲ決スルノ要アリ此等ノ點ニ關シ注意ノ足ラサルヲ憾トス田打車ノ類ニ至リテハ其ノ出品多カラス且在來其ノ儘ノモノノミニシテ何等評スヘキノ價値アルヲ見ス洋型、ホー、レーキノ類ハ近來漸ク多ク用ヒラレントスルノ傾向ヲ生シ徒ツテ製作上次第二進歩ノ跡ヲ認ムルヲ得ルハ頗ル賀スヘキノ事實ナリトス

二 收穫調製用器

收穫調製用器具中主タル出品ハ鎌類ノ百五十六點、麥扱類ノ三十三點ナリトス其ノ他ニ至リテハ扱摺白及其ノ輕轉裝置麥ノ脱粒器唐箕等ノ數點ヲ見ルノミ  
鎌ハ殆ント本都唯一ノ收穫器ニシテ古來鐵ト共ニ我農具ノ最要ナルモノニ屬ス從ツテ其ノ及頗ル銳利ニ製作ニ於テ見ルヘキモノアリ本會出品ノ鎌ハ全部所謂信州鎌ノ系統ニ屬スルモノニシテ信州鎌ハ薄及ニシテ鍛工妙ヲ極メ銳利ヲ以テ稱セラル加フルニ其ノ價格ノ低廉ナル他ニ比類稀ナリ之ヲ出品ニ見ルニ能ク其ノ特色ヲ發揮シ及物ノ一種トシテハ上乘ナルモノ多シ殊ニ長野産ニ於テ然リトナス然リト雖モ鎌ハ單ニ一種ノ及物トシテノミ考フヘキモノニアラス其ノ農具タルヲ忘ルヘカラサルナリ即チ銳利ナリト云フノミヲ満足スヘキニアラス之ヲ農業上ノ用途ニ考ヘ其ノ形態ヲ案シ兼ネテ堅牢耐久性ニ富ムヲ要ス信州鎌ハ其ノ及略一直線ニシテ柄ト及端線トナス角度九十度ヲ普通トス投ケ刈ニハ適セサルニアラサルモ穀類收穫ノ際ノ如キ握ミ刈ニハ一點ニ全部ノ抵抗ヲ受ケ勞ヲ感スルコト多シトス此ノ用途ニ對シテハ宜シク及端線ニ一種ノ曲線ヲ與ヘ且ツ柄ヘ對シ鈍角ヲ有スル形態ヲ採用スルヲ要ス即チ用途ニ應シ形態ヲ工夫スルコト肝要ナリ且ツ信州鎌ハ一般ニ耐久性ノ點ニ於

テ遺憾ナシト云フヘカラス之レ信州鎌改良ノ要點ナリトス

稻扱類出品ノ多クハ古來存スル齒杆ヲ并列シタルモノニシテ齒杆ノ形狀配列ニ就キ種々ノ考案ヲ加ヘ其ノ製作上ニ於テ改良ノ實少ナカラサルヲ認ム然レトモ此ノ形式ニ依ル脱粒法ヲ以テシテハ形態上最早變化ノ極限ニ達セルモノノ如ク其ノ改良變化タル大ナル効果ヲ持チ來タス能ハサルナリ穀類脱粒ノ工程ヲ大ニシ勞力ヲ省約セント欲セハ其ノ牽引的働作ヲ廢シテ廻轉的働作ニ變セサルヘカラス換言スレハ歐米ノ脱穀機ノ廻轉筒ヲ利用スルノ策ニ出テサルヘカラスハ先年來本審査官等ノ主張セシ所ナリ然ルニ本會出品中此主義ノ下ニ構成セラレタル稻扱機四點ヲ見タリ之レ大ニ喜フヘキノ現象ニシテ本邦脱粒機革命ノ期茲ニ熟シタリト謂フヘシ此等脱粒機ノ廻轉筒ニ於ケル脱粒裝置ハ之ヲ發條ノ數列ヨリ成ルモノト齒杆ヲ筒ヲ繞リテ螺旋形ニ嵌挿シタルモノトノ二種ニ大別スルコトヲ得發條ヲ用ヒタルモノハ稿桿ニ損傷ヲ與フル少ナシト雖モ脱粒作用ニ於テ優レリトナスヘカラスシテ寧ろ適當ナル形態適用ナル配列ヲ有スル齒杆ノ有利ナルニ如カス而モ出品中ニ齒杆ヲ有スルモノハ其ノ形態配列ニ於テ皆十分ニ合理的ナルモノアルナシ須ラク歐洲脱穀機ノ廻轉筒ニツキテ研究シ齒杆ノ形狀、列數、間隔、各列ニ於ケル關係的位地等ヲ決定スルヲ要ス且ツ廻轉筒ノ直經廻轉速度等ニツキテモ尙ホ研究ノ餘地十分ナリト認ム此ノ種機械ノ廻轉働作ハ各品トモ足踏作用ニ依リテ起ルモノナルカ稻ノ脱粒作業ニ適當ナル廻轉速ヲ與ヘント欲セハ凡ソ一秒一回ノ足踏ヲ要シ麥類ノ脱粒ヲナサント欲セハ更ニ足踏回数ヲ加ヘサルヘカラス此ノ速度ヲ必要トシ且ツ荷重ノ甚タ小ナラサルアリ一人ヲ以テ長時間連續的作業ヲナスコト頗ル困難ナルヲ覺ユ此等ノ缺點アリ主義ニ於テ我意ヲ得タルモノナリトスルモ未タ以テ廣ク世ニ推奨スルニ足ラサルノ憾アリ更ニ研究ヲ積ミ缺點ヲ除去シ眞固實用ニ適スル有益ナル農具タラシメンコト切望ニ堪エサルナリ調製器中出品ノ扱摺器ニ至リテハ寧ろ劣惡ナルモノ多クシテ批評スルノ價値ヲ認メス

其他普通農業用器ニ就キテハ特ニ記スルニ足ルモノヲ見ス唯スコツブ、ホーク類ノ製作ノ技稍進歩シ

タルアルヲ報スルヲ以テ止マント欲ス

### 三 園藝用器

園藝用器具ノ出品百四十一點中新潟縣ノ三點ヲ除キテハ全部東京府ノ出品ニ屬ス其ノ出品ノ主タルモノハ剪定鋸、鋸類、接木用器、園藝用除草器、移植鋸其他「ホーク」「レーキ」ノ類ナリトス各出品ヲ見ルニ其ノ外觀甚タ美ニシテ海外ノ優品ト殆ント判別スル能ハサルモノアリ是レ明カニ園藝用器具ノ製作發達セシコトヲ證スルニ足ル今出品ノ此種器具ヲ一言以テ評スレハ製作者ハ單ニ無意味ニ之ヲ製作スルノミニシテ使用上ノ適否ニ就キテハ何等顧慮スル所ナシト云フモ過言ニアラザルナリ即チ剪定鋸ノ如キ或ハ硬ニ失スルアリ或ハ軟ニ過クルアリ或ハ形狀大ニ過キテ使用ニ不便ナルアリ接木小刀ノ如キモ其ノ及狀ハ勿論柄ノ形狀モ亦頗ル實用ニ不適當ナルモノアリ鋸ハ園藝上枯木枯枝ノ伐採ニ使用スルノミナラス成長中ノ枝幹ノ伐採ニ使用スルコト多シ後ノ場合ニアリテハ特ニ多量ノ濕氣ヲ含メル鋸屑ハ鋸齒ノ間ニ附著シ易キヲ以テ鋸齒ノ間隔ヲ廣クセサルヘカラス其ノ他ノ器具ニ於テモ柄ノ甚タ大ニ失スルアリ又構造堅牢ナラサル如露ノ如キ外觀甚タ美ナルアレトモ實用上ノ不便ヲ認ムヘキアリ土鉢類モ形狀外觀ニ於テ缺點ナカリシト雖モ硬軟其ノ宜シキヲ得サルモノアリ硬キニ過クレハ水分ノ發散不良ニシテ鉢中ニ水分ノ停滯スルアリ軟キニ失スルトキハ破損ノ患多シ是レ鉢ノ構造上注意ヲ要スル點ナリ

要スルニ本會出品ノ園藝用器具ハ其ノ外觀形狀ニ重キヲ置キ實質及使用ノ目的ニ對シ注意ノ足ラサルモノ多シ將來園藝用器具ノ需要愈増加スヘキヲ以テ製作者タルモノ宜シク以上指摘セシ諸點ニ注意シ實用上遺憾ナキヲ期スヘキナリ

### 四 蠶業用器

蠶業用器具機械ハ前表ニ表示セル如ク其總點數三百六十六ニ達シ就中養蠶用器特ニ多キヲ占ム蓋シ蠶業ハ我主要ナル生産業ニシテ從テ其器具機械比較的發達セルモノアリ

養蠶用器二百七十七點中主タル出品ハ蠶網類ノ六十三、桑切器ノ六十三、寒暖計類ノ三十七、桑篩類ノ二十七、桑扱器ノ二十九等ナリトス蠶網類ニハ頗ル優良ナルモノ少ナカラス然リト雖モ徒ラニ品質ノ優ヲ求メテ實用上ニ得ル所ナキノ弊害ニ陥リツツアルヲ免レス桑篩、羽帚ノ類ニ至リテハ其ノ弊ノ極度ニ進ミタルモノヲ認ム桑切庖刀ハ一般ニ打物トシテ進歩シタルノ觀アリサレト及質ノ硬軟宜シキヲ得サルモノ少ナカラス且ツ鍛工ノ技ヲ示スニ專ラニシテ桑切トシテ形態ニ注意ヲ怠レルモノ多シ即チ長サト幅トノ關係及線ノ形狀柄ノ及ニ對スル位地ノ如キ深ク考慮ヲ用ヒタリト認ムヘキモノ多カラス桑刻機ハ出品少ナク特ニ新規ノ考案ニ成レルモノナシト雖モ出品中能ク實用ニ適スルモノアリ然レトモ構造稍煩雜ニ過キ運動力ノ効果十分ナラス宜シク及ノ上下運動ヲ變シテ廻轉運動タラシムヘシ寒暖計、乾濕計ノ類ニ至リテハ特ニ進歩シタル出品ヲ見ス

製種用器ノ出品ハ母蛾收容具ヲ其ノ主タルモノトス出品中間々新規ノ考案ニ係ルモノアリト雖モ實用上特ニ稱揚スルニ足ルモノナシ製糸用具ニアリテハ座繰器械及生糸検査器ヲ其ノ主ナル出品トス此等ハ多ク從來ノ典型ヲ脱セス實用ニ適セル新規ノ考案ヲナセルモノナク又改良進歩ヲナセリト認ムヘキモノナキハ甚タ遺憾トスル所ナリ

### 五 畜産用器

畜産用器ノ出品ハ其數僅カニ二十九ヲ算スルノミニシテ中ニ就キ多少注意ヲ要スルモノハ孵卵器及飼料調製器ニ屬スル葉切器械ナリトス本邦ニ於ケル孵卵器ノ製作ハ近來次第ニ進ミ既ニ實用ニ適スルモノ少ナカラスト雖モ多クハ單ニ外品ヲ模倣シ而シテ其實質ノ及ハサルアルヲ憾ミトス即チ製作上更ニ一段ノ努力ヲ要スルモノアルヲ認ム葉切器械中ニハ實用上有益ナルモノアリ然レトモ亦桑刻機ト同一ノ缺點アルヲ免レス即チ更ニ構造ノ簡ヲ計リ力ノ効果ヲ大ナラシムル爲メ上下運動ヲ廻轉運動ニ變スルノ必要ナルヲ信ス

之ヲ要スルニ本會出品ノ農業園藝蠶業、畜産用器具機械ハ一般ニ其製作ニ於テ進歩ノ跡ヲ認ムルヲ得

又部分的改良ノ實アルアリト雖モ廻轉式稻扱機ノ外殆ト注意ニ價スルモノナシ殊ニ農具ノ本體タル土地ノ耕耨ニ關スルモノニ於テ甚タ劣レルアルヲ見ル蓋シ土地ニ關係ナキ調製用具及副業用具ノ如キハ純然タル考案家尙能ク之カ改良ニ從事シ得ヘシト雖モ土地ニ關係スルモノハ農業カ各種農具ニ要求スル所ノモノヲ知悉シ而シテ後之カ構成ニ進マサル可ラス換言スレハ深ク農ノ作業ニ通スルニ非スンハ適當ナル農具ヲ製出スル能ハサルナリ而シテ我現在ノ農具製作者ノ多クハ智識ノ是ニ及フナク從テ今日ノ耕耨用具ハ農業ノ要求ト密接ノ關係ヲ有スルモノニ非ス之レ耕耨用器ノ特ニ進マサル所以ナリ其ノ他ノ器具機械ニ至リテモ常ニ外觀ノ美製作ノ技工ヲ爭フニ汲々トシテ農具構成ノ真目的ニ向フテ意ヲ用フルナキノ通弊アリ思フニ之レ現今農具製作者カ農具ニ關スル理論ニ通セサルカ爲メナラスンハ非ス農具製作者タルモノ深ク思フ此處ニ致シ研究努力本邦農具ノ改良ニ資スル所アラシキ事ヲ望ム而モ現今ノ製作者ヲ以テシテハ希望ノ遂ニ達シ得ヘカラサルヲ恐ル即チ本邦農具ノ改良ハ先ツ農具ニ關スル智識ノ普及ヲ以テ之カ根本トナス之ナクシテ農具改良ヲ求ムル抑物ノ本末ヲ解セサルノ甚シキモノナリ今審査ニ當リ特ニ此感ヲ深クス記シテ以テ識者ノ三省ヲ求メント欲ス

第四十八類

病虫害ノ豫防及驅除ニ關スル器具標本方法及成績

主任、理學博士 佐々木 忠次郎  
報告員 堀 正太郎

本類ノ出品總數ハ七十九點、出品人員ハ二十三名ナリ之ヲ明治四十年ノ東京勸業博覽會ニ於ケル出品總數三十二點、出品人員十八名ナリシニ比スレハ多大ノ増加ナリト雖モ七年後ノ中央都府ニ於ケル博覽會トシテハ甚タ寂寞ノ憾ナキ能ハス出品物ノ府縣別點數及擬賞ノ等級ヲ表示スレハ左ノ如シ

府縣	東京	京都	大阪	栃木	静岡	廣島
出品人員	一七	一	一	一	二	一
出品點數	六四	一	五	三	四	二
名譽大賞牌						
金牌						
銀牌						
銅牌						
褒狀						
計	一	三	四	八	一	一
出品人員ニ對スル擬賞割合	四・七	一・〇	一・〇	五・〇	一・〇	一・〇

今便宜上出品物ヲ左ノ如ク分類シテ之ヲ概評セン

- 一、噴霧器 六十一點
- 一、有害動物捕獲器 四點
- 一、雜器 四點
- 一、撒粉器 二點
- 一、害虫及害鳥防禦器 七點

(一) 噴霧器

六十一點ノ多數ニ及ヒ全出品物ノ七割七步強ヲ占ム是レ病虫害ノ豫防上藥劑撒布ノ必要ニ促サレタル結果ニ外ナラスシテ大ニ喜フヘキ現象ト言ハサルヘカラス而シテ其ノ多數ハ最近ノ創作ニ係リ或ハ輓近ニ改善ヲ加ヘタルモノナリト雖モ之ヲ精査スレハ一モ卓絶シタル良品ヲ見スシテ悉ク噴霧口又ハ唧筒ノ何レカニ缺點アリシハ甚タ遺憾トスルトコロナリ其ノ殆ント共通ノ缺點ト認ムヘキハ(一)管ノ取付不完全ナル爲メ漏液スルモノ多ク又唧子桿ト塞帽トノ中間ヨリ漏液スルモノアリ或ハ分解困難ニシテ掃除並ニ修繕ニ不便ナルモノ多シ其ノ唧子ニ革ヲ附シタルモノハ操作中往々反轉シテ用ヲ爲ササルニ至ルモノアリ又吸水管ノ口徑過小ニ失シテ吸水ノ際ニ多クノ勞力ヲ要スルモノアリ又液ノ噴出力均一ナラスシテ息ヲ爲スモノ多シ何レモ改良ヲ要スル必要點トス其ノ把手ニ横木ヲ附シタルモノ或ハ其ノ丁字形ナリシモノヲ槓桿式ニ改メタルモノ及攪拌器ヲ附シタルモノハ其ニ製作上ノ一進歩ト云フヘシ

自働式噴霧器ノ出品ハ十六點ノ多キニ達セリト雖モ元來本器ハ蠶室消毒用トシテ製作シタルモノナ

ルヲ以テ野外ニ於ケル使用ニハ甚タ不便ナリ背囊形噴霧器ハ四點ノ出品アリ其ノ中ノ或モノハ重大ニ失シテ使用ニ不便ナルト一般ニ本器ハ藥液ヲ撒布シ盡シタル後更ニ藥液ヲ注入スルノ際煩累多キヲ以テ普遍的ニ使用セラレルコト能ハス現今我邦ノ果樹蔬菜園等ニ於ケル藥液撒布ニハ農家ノ資力ト園ノ面積等ヨリ考フレハ普通ノ手押唧筒又ハ手桶型唧筒ノモノ最モ適當セルヲ以テ此ノ種ノ噴霧器ノ改良創作ハ最モ急務ナルヘシ然レトモ一果樹園ノ面積ハ漸次擴大セラレルノ傾向アルヲ以テ大形強力唧筒ヲ要スルコト明ナリ此ノ種ノ噴霧器ニハ「ライマックス」型ノモノ二品アリシモ何レモ多少ノ缺點アリテ尙ホ改良ノ餘地多シ

(二) 撒粉器

外國製ノモノ二點ノ出品アリ本器ハ硫黃華除蟲菊粉等ノ粉劑ヲ撒布スルニ使用スルモノナリト雖モ現今液劑撒布ノ便利有効且ツ經濟的ナルニ依リ本器ハ極メテ小規模ノ場合ニ限リテ使用セララル若シ夫レ本器ニ多少ノ改良ヲ加フレハ使用範圍ハ多少擴大スルノ望ナキニアラス

(三) 有害動物捕獲器

四點ノ出品アリ皆在來ノ土龍捕獲器ニシテ特ニ改良ヲ加ヘタルモノナシ

(四) 害虫及有害鳥防禦器

七點ノ出品アリ鳥追器ハ火藥ノ爆音ニ依テ害鳥ヲ逐フノ裝置ナリト雖モ使用數回ノ後ニハ害鳥ハ其音響ニ馴レテ遂ニ効力ナキニ至ルヘシ米穀防蟲器ハ二硫化炭素燻蒸法ノ普及ト共ニ遂ニ其ノ必要ナキニ至ルヘシ又田圃ノ害虫防禦網ハ極メテ小規模ノ外實用ニ適セス

(五) 雜器具

四點ノ出品中ニ構造精巧ナル石油乳劑製造器アリ石油乳劑ハ如斯高價ニシテ精巧ナル器械ヲ使用セサルモ簡易ナル方法ニ依リテ製造シ得ラルルニ依リ本器ハ一種ノ奢侈品タルニ過キス麥奴豫防用寒暖計ハ華氏寒暖計ニ其ノ百三十度ノ點ニ朱線ヲ劃シテ見易カラシメタルモノ醫療用寒暖計ヨリ考案

シタルニ過キサレトモ麥類黑穗病豫防ノ際農家ノ使用ニ便ナルヘシ

第四十九類

家畜及家禽ノ衛生及治療ニ關スル標本、圖書、器械、器具

主任、報告員 須藤 義衛門  
獸醫學博士

本類ニ屬スル出品ハ僅カニ東京市松田重祐ノ出品ニ係ル馬ノ治療器械三點及去勢器一點並ニ樺太廳藤澤繁太郎出品ノ蹄鐵四點ニ過キス而シテ審査ノ結果兩人ニ對シ各褒狀ヲ擬セリ  
右出品中治療器械ハ外國製ノ模倣ニ過キササルモ精巧ニシテ價格比較的低廉ナルヲ見ル又蹄鐵ノ如キモ鍛冶ノ技工ハ巧妙ナレトモ意匠ハ幼稚ナルヲ免レス輓近獸醫學術ノ進歩ニ伴ヒ器械ノ改良、發明、圖書ノ新著發刊年ヲ逐フテ隆盛ニ赴キ畜禽ノ衛生ニ關スル材料モ益、多キヲ加フルノ今日ニ於テ出品點數右ノ如ク僅少ナルハ甚タ遺憾ニ堪ヘス將來當業者ノ奮起ヲ切望ス

第五十類 農業、園藝、蠶業及畜産ノ經營方法及成績

主任、農學博士 橫井 時敬  
報告員 有働 良夫

本類ニ編入セラレアリシ出品ハ僅カニ六十三點ニシテ寂寞ノ感ニ堪エサリシモ其ノ出品ノ内容ハ諸種ノ事業ヲ含ミシヲ以テ之カ審査ニ當リテハ諸方面ノ専門家ヲ審査官トシテ採用セラレ慎重審査ニ附セラレタリ  
先ツ出品物ノ性質擬賞ノ狀況ヲ示ス爲メニ左ニ四種ノ表ヲ掲クヘシ

第一表 出品者ノ地方別ニ依ル分類 (出品者數ト出品點數トハ相同シ以下之ニ做ス)

地方	出品者數	名譽大賞牌	金牌	銀牌	銅牌	褒狀	合計
長野	一一				二	六	八



本類ノ出品審査ハ實物ノ審査ト異ナリ出品物ノミニ依リテ優劣ノ真相ヲ捉フルコト容易ナラサルハ勿論ナリト雖モ審査官ハ皆其ノ専門事項ニ付平生ノ觀察調査ヲ有スルカ故ニ出品セラレタル記録圖表等ニ付力メテ精査セル外一面平生ノ見ル所ヲ參酌シ慎重審議シタルヲ以テ特ニ實地出張ヲ爲スヲ要セスシテ審査ノ正鵠ヲ失ハサルコトヲ得タリ而シテ其ノ審査ノ標準ハ(一)方案(二)經歷(三)效績ノ三點ヲ主眼トシ審査總長ヨリ示サレタル審査ノ大方針ニ準據シテ彼是比較酌量シテ優劣ヲ定メ以テ適切有效ナル各種農業方法ノ發達ヲ誘導スルノ趣旨ヲ以テ審査ニ從ヘリ故ニ例ヘハ效績甲乙ナキモノモ其ノ方案、經歷優レルモノハ先ツ之ヲ採リ事業ノ經營中途ニ在ルモノハ已ニ完成セルモノニ比シ劣レルモノトシタリ出品者ハ宜シク前記ノ趣旨ヲ了得シ誤解ナカラシムコトヲ望ム今左ニ審査概評ヲ試ミ以テ將來ノ爲メニ資スル所アラントス

一、出品點數ハ僅カニ六十三ニ過キス明治四十三年名古屋共進會ニ於ケル百二十七點ニ比スルモ其ノ半數ニ充タス而シテ之ヲ地方別ニスルモ僅カニ十九府縣ニ過キスシテ長野縣ヲ除ク外一地方十點ニモ滿タス多クハ一二ノ出品アリシノミ今ヤ各地優良ナル農業方法ノ實例尠ナシトセサルニ其ノ出品ヲ見シコト極メテ少ナク甚タ寂寞ノ感ニ堪ヘサリシ思フニ是レ本類ニ屬スル出品ノ必要ナル所以ノ觀念普及セサルニ因ルカ或ハ他ノ原因アルニ基クカ何レニシテモ深ク遺憾トスル所ナリ(前掲第一表參照)

二、出品者ハ各種ノ團體ト個人トニ分ル而シテ團體ニ屬スル出品ハ最モ多部ヲ占ム抑モ農業ニ關スル方法ハ團體個人共ニ研究發明シテ時勢ニ適應スルモノヲ採用シテ進マサルヘカラサルモ本邦ノ農業ハ極メテ小規模ナルカ故ニ其ノ經營方法ハ團體的施設ニ俟ツモノ益多キヲ加フヘシ故ニ出品者數ノ前記ノ如クナルハ蓋シ自然ノ趨勢ナルヘシ而カモ之カ爲メニ個人ノ出品ヲ輕視スヘキニアラ

ス地主、自作農、小作農等ノ經營方法ノ如キ最モ重要ナル出品ノ一トシテ次回ニ於テ多クノ出陳アルヲ望ム要スルニ今回ハ團體、個人共ニ出品ノ少ナキヲ遺憾トスルナリ(前掲第二表參照)

三、出品セラレタル事業ノ種類ヲ見ルニ蠶絲業ノ十八點ヲ最トシ其ノ他各種ノ事業ニ亘リテ出品セラレタルモノ一般ニ其ノ寂寞ノ憾アルコト前陳ノ如シ(前掲第三表參照)

四、出品セラレタル事業ノ價值ニ就テハ朝鮮及樺太ヨリ優良ノモノヲ出シタルモ内地ノ出品ハ概言スレハ佳良ノモノ少ナシ地方ニ依リ官廳、民間、團體等ニ於テ撰拔シテ出品セシメタリト認メラルモノハ相當佳良ノモノ多シト雖モ多クハ斯ノ如キ手順ヲ採ラサルモノナルカ故ニ難駁不整ニシテ各地方ニ於ケル佳良ナルモノノ整々トシテ出品セラレタリトノ贊辭ヲ陳フルヲ得ス元來本類ノ出品ハ他ノ範トナリ一般之ニ倣フテ事業ヲ經營スルニ至ルニアラサレハ價值乏シク從テ各地方ニ於ケル優等ナルモノノ整々トシテ出陳セラルルヲ希望スヘキ特別ノ理由アルヲ以テ今回ハ此ノ點ニ於テモ遺憾少シトセサルナリ

五、出品物ノ調査記述ノ方法ニ至リテハ満足シ能ハサルモノアリ即チ事業方法及成績ニ關シ明瞭ニ其ノ實質ヲ示ス爲ニ必要ナル項目ノ選擇、記述ノ順序及精粗宜シキヲ得サルモノ甚タ多ク或ハ計算ニ誤謬アルモノアリ或ハ徒ニ誇張ノ記述ヲ爲セルモノスラ無之ニアラス爲ニ審査上甚タ困難ヲ感セルノミナラス之カ觀覽者亦要領ヲ得ルニ困シミシナルヘシ尤モ一二地方ノ出品ハ稍、整頓セルモノアリタリト雖モ大體ニ於テ前陳ノ如シ是レ出品者カ此ノ種ノ出品ニ經驗乏シキト一面當局ノ指導未タ及ハサルモノアルニ由ルナランカ

六、出品物ノ作製及陳列方法等ニ至リテモ亦甚タ遺憾トスル事アリ此ノ點ニ就テハ審査上直接ノ關係ナク出品ノ實價ニ直接ノ關係ナシト雖モ其ノ巧拙如何ハ大ニ本類出品ノ發展如何ニ關係シ從テ農業方法ノ進歩ニ影響スヘキヲ以テ特ニ一言ヲ加ヘンニ一二地方ノ出品ニ於テハ稍、體裁ノ整ヘルヲ見ルモ多クハ亂雜不整ニシテ殆ント工夫ヲ凝ラササリシカト思ハルルモノナキニアラス從テ觀覽

者ノ注意感興ヲ惹カサルノ状態ニアリ尤モ本類ノ出品ハ物産ノ出品トハ異ナリ作製陳列等ニ付困難ヲ感スルハ言ヲ俟タスト雖モ種々工夫ヲ費ヤシ或ハ冊子ノ外ニ圖表ヲ掲ケ或ハ事業ノ結果トシテ産出セラレタル物産ヲ添ユル等其ノ他種々ノ方法ヲ考案セハ大ニ改善ノ途ヲ發見スルヲ得ヘシ若シ將來モ今回ノ如キ狀況ヲ以テ進マハ觀覽者ノ注意感興ヲ惹カサルノ結果自然本類出品ノ衰退ヲ見サルヤヲ疑ハシムルモノアリシ

要スルニ本類ノ出品ハ今回ハ從前ニ比シ特ニ進歩ヲ見タリトノ贊辭ヲ陳フルヲ得ス又出品ノ大部ハ優良ナルモノニアラスシテ各地方ノ農業方法ノ優良ナルモノヲ代表スルモノト認ムルヲ得サルカ故ニ此ノ出品審査ニ依リテ全國農業ノ進否ヲトスル能ハサルノ狀況ナリシ唯タ朝鮮ノ出品ハ特ニ優良ノモノヲ整ヘタルカ爲メ彼ノ農業進歩ノ程度ヲ察知スルニ足レリト思考セラレ其ノ他多クハ然ラサリシハ遺憾トスル所ナリ

惟フニ農業ノ經營ハ團體ノ施設タルト個人ノ事業タルトヲ問ハス經濟社會ノ發達ニ伴ヒ農業利益ノ因テ來ル所ノ條件ノ變遷ニ應シ適當ナル方法ヲ案出應用シテ最多ノ利益ヲ舉クルノ策ナクハ遂ニ日進ノ勢ニ伴フ能ハサルナリサレハ獨リ農產品質ノ優劣ヲ競フニ止マラス時勢ニ適應スル事業方法ノ進歩ヲ圖リ適良ナル方案ノ下ニ農産ノ増殖ヲ圖ルノ手段ヲ進ムルノ緊要ナルヲ認メスンハアラス就中農事獎勵ノ手段、農業經濟上ノ組織、各農家ノ經營方法ノ如キハ其ノ適否ハ獨リ一、二農産ノ發達ニ關係スルニ止マラス農業全體ノ盛衰ヲ左右スルカアルモノナルカ故ニ益、重キヲ置キテ之カ競進ノ方策ヲ講セサルヘカラス而カモ今回ノ出品前陳ノ如ク満足スヘカラサル狀況ナルハ思フニ人爲ノ足ラサルモノアルカ爲ナルヘキヲ以テ次回ニ於テハ諸種ノ缺點ヲ矯メテ大ニ盛況ニ接センコトヲ希望シテ止マサルナリ

更ニ希望ニ堪ヘサル一事ハ擬賞ノ結果ノ利用ニ關スルコトナリ元來本類ノ出品ハ此ノ利用ノ點ニ於テ物産ノ出品ト趣ヲ異ニスルモノアリ即チ物産ニ在リテハ優等ノ賞ヲ得タル出品者ハ之ヲ利用シテ

益、其ノ物産ニ對スル世ノ需要ヲ喚起シ以テ受賞ノ名譽ヲ被ムルト共ニ併セテ自己ノ事業ヲ擴張シ利益ヲ増加シ從テ殖産興業ノ目的ヲ達スルモノナリ此ノ事情ハ農産物ニ在リテハ工産物等ノ如ク著シキヲ得サルカ如シト雖モ而カモ程度ノ差アルニ過キス然ルニ本類ノ出品ハ斯ノ如キ結果ヲ得ヘキ場合殆ント稀ナリ何ントナレハ本類出品ニハ受賞ノ名譽ノ外何等直接利益ヲ得ル所ナキヲ常トスルハナリサレハ本類出品ノ效果ヲ十分ニ收メンニハ受賞シタル出品ハ所謂他ノ範トナリ世間之ニ倣フテ事業ヲ經營スルモノアルニ至ラサルヘカラス即チ名譽ヲ荷フト共ニ一般ニ之カ普及ヲ見廣ク社會ヲ益スルニ至テ誇ト爲スヘキヲ主眼トセサルヘカラス受賞出品者ハ勿論關係當局者亦思フ之ニ致シテ十分ニ擬賞結果ノ利用ヲ講センコトヲ切ニ望ム

### 官廳出品調查報告

官廳出品ハ官廳數二十二、出品種類總計一千二百五十餘點ニシテ其ノ出品物名及各官廳出品點數ハ左ノ如シ

出品物名	出品點數	官廳名
産業組合ノ發達(額面)	—	農商務省農務局
農會ノ狀況 (同)	—	同
農家ノ階級 (同)	—	同
耕地整理施行地面積比圖	—	同
耕地ノ利用(額面)	—	同
農業用揚水機一覽表	—	同
農家ト耕地(額面)	—	同
耕地整理成績並全國土地ノ利用及水利現狀圖	—	同

農產物貿易統計(圖表)  
 日本農產物生產額表  
 桑園繭生絲對照表  
 生絲生產輸出比較表  
 販賣肥料統計表  
 最近各國家畜頭數比較  
 家畜增加ノ趨勢

計

本邦土性略圖(額面)  
 農具設計圖(同)  
 プラウ雛形  
 米品種改良試驗成績(額面)  
 土壤生產力試驗成績(同)  
 各種土壤標本(瓶入)  
 各種肥料標本(同)  
 病蟲害寫真圖  
 病蟲被害標本(箱入)  
 同(瓶入)  
 病蟲害驅除豫防劑(同)  
 葡萄枯葉標本(額面)  
 整枝果樹標本

一〇 一五 一〇 一七 二三 二四 九四 二一 三 一 三 四 一 一六 一 一 一 一 一 一

同 同

農商務省農事試驗場

栗實、密柑、蔬菜各種  
 果實シラップ漬及ジャム  
 蔬菜及果實分布圖  
 農事試驗場本場及園藝部建物寫真圖

計

本支場所在地及各支場管轄區域圖  
 蠶ニ於ケルメンデル氏法則模型  
 掛合繭ノ標本  
 桑葉形圖  
 繭及生絲標本  
 絹織物及其ノ原料  
 蠶ノ雌雄圖  
 蠶ノ雌雄營養比較  
 生絲ノ成分  
 蠶ノ微粒子病々原體發育圖模型圖  
 蠶卵胚子發達圖  
 計  
 月寒種畜牧場全景寫真  
 飼料栽培圖寫真  
 乳牛四種寫真  
 畜舍寫真

三〇 一〇 二 一 一 二六九 一 一 二〇 一 一 七六 一 一 一〇五 一 一 一 一 一 一

同 同

農商務省蠶業試驗場

農商務省月寒種畜場







蔬菜類  
果實類

計

穀菽類子實及莖桿

薯芋子實及莖桿

亞麻子實及莖桿

馬鈴薯

菅草

計

右ハ何レモ農業ノ改良上有益ナル參考資料タルモノト認ム

一二  
一四八  
一九  
六  
二  
二  
一  
三〇

同 同

權太廳農事試驗場

### 外國館出品調查報告

外國館出品中第三部ニ屬スルモノハ出品人員四名出品點數三百〇八點ニシテ其ノ類別點數左ノ如シ

第二九類	穀菽類	六十九點
第三一類	果實	十五點
第三五類	植物纖維	九十二點
第四二類	蠶糸	十二點
第四三類	羊毛	四十五點
第四六類	肥料	七十五點
計		三百〇八點

出品物產地及品名、出品人名並ニ各自出品點數ヲ舉クレハ左ノ如シ

#### 出品物產地及ヒ品名

#### 點數

#### 出品人住所氏名

支那產穀菽類  
同 果實類  
同 棉花絲類

四十一點  
十五點  
六點

東京市麹町區有樂町一丁目  
李平書

計

滿洲產穀菽類、暹羅、蘭貢、西貢、臺灣及朝鮮產白米及玄米

支那、マニラ、ジャワ、露西亞、東部亞弗利加產麻類各種

米國、印度、支那、埃及、暹羅、西貢、蘭貢、布哇及伯刺亞爾產棉花各種

漳州、獨逸、英國、佛國、印度及支那產羊毛各種

支那、印度、英國、米國、智利、埃及及太平洋島產肥料及肥料原料各種

支那、印度、伊太利及英國產絹糸各種

計

マニラ麻各種

加里礦石及硫酸加里肥料標本、加里礦採掘ノ狀況圖

加里礦產出統計圖、加里肥効試驗成績

右出品ハ何レモ優良ニシテ參考ノ價值尠ナカラサルヲ以テ外國館出品規則第二十五條ニ依リ紀念章牌ヲ贈與セラレタリ

百六十四點

二十七點

五十五點

東京市京橋區明石町  
エツチ、クラメル

東京市京橋區藤座三丁目  
加里シンチケート



359  
67

St 1349  
17



終